



サイレントアンサンブルピアノ

プロフェッショナルモデルXP

GENERAL
MIPI XG

ごあいさつ

このたびは、ヤマハサイレントアンサンブルピアノをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本製品を正しくお使いいただくために、お使いになる前に、本書をよくお読みください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

本製品について

サイレントアンサンブルピアノは、アコースティックピアノの音を消して、ピアノ電子音をヘッドフォンで聴きながら演奏できる「消音機能」をはじめ、ピアノの演奏を録音・再生できる「自動演奏機能」や内蔵電子音源の豊富な音色を使って様々な楽器パートを加えて演奏できる「アンサンブル機能」など、多彩な機能を備えたピアノです。本書を参考にして十分にご活用いただき、ピアノを中心とした新しく幅広い音楽の世界をお楽しみください。

JIS C 61000-3-2 適合品

この製品は、クラス 1 レーザー機器に分類される操作ユニットを含んでいます。それを意味する下の表示、あるいはそれに類する表示が CD ドライブユニットにあります。



レーザーダイオードの特性

- * 材質：GaAlAs
- * 波長：790/795 nm
- * レーザーピックアップレンズ部の出力：max. 5mW

注意 この取扱い説明書で指定されている以外の調整や操作は危険なレベルのレーザー被爆の原因となる場合があります。

設置について

設置にあたっては、以下の場所を避けてください。

- 窓ぎわなど、直射日光のあたる場所
- 暖房器具のそばなど高温の場所、多湿の場所
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所

煙やスプレーなどがかからないようにしてご使用ください。

安全上のご注意

必ずお読みください

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。

注意事項は危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると、生じることが想定される内容を「警告」と「注意」に区分しています。いずれもお客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

記号表示について

この機器に表示されている記号や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	注意 感電の恐れあり キャビネットをあげるな		注意：感電防止のため、パネルやカバーを外さないでください。 この機器の内部には、お客様が修理／交換できる部品はありません。 点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。
---	-------------------------------------	---	---

△ 記号は、**危険、警告または注意**を示します。上記の場合、△は機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。また、△は注意が必要なことを示しています。

⊘ 記号は、**禁止行為**を示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

● 記号は、**行為を強制または指示**することを示します。記号の中に具体的な内容が描かれているものもあります。

※お読みになった後は、使用されるかたがいつでも見られる所に必ず保管してください。

警告

この表示内容を見逃した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が想定されます。



本機の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、または故障などの原因になります。異常を感じた場合など、機器の点検修理は、必ずお買い上げ店または巻末のヤマハサービス網にご依頼ください。



浴室や雨天時の屋外など、湿気の多いところで使用しない。また、本機の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。

ユニット類を拭く場合には乾燥した布を使用する。

感電や火災、または故障の原因になります。



使用中に電子音が出なくなったり、異常なおいや煙が出た場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障の恐れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。



電源プラグをコンセントにつなぐ前に、必ずアース接続をする。またアース接続をはずす場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後に行う。

万一漏電した場合に、火災・感電の原因になります。



電源コード／プラグは、必ず付属のものを使用する。

他の電源コード／プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



電源は必ず交流 100V を使用する。

エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災の恐れがあります。



手入れをするときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

また、濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。感電の恐れがあります。

 **電源プラグにホコリが付着している場合は、ホコリをきれいに拭き取る。**
感電やショートの際れがあります。

 **本機の内部に異物や液体が入った場合は、すぐに電源スイッチを切り電源プラグをコンセントから抜く。**

感電や火災、または故障の際れがあります。至急、お買い上げ店または巻末のヤマハサービス網に点検をご依頼ください。

注意

この表示内容を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定されます。

 **電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものを乗せない。**
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

 **電源プラグを抜く時は、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。**
電源コードが破損して、感電や火災が発生する恐れがあります。

 **タコ足配線をしない。**
音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱したりすることがあります。

 **電源コードやプラグが痛んだときは使用しない。また、長時間使用しないときや落雷の恐れがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。**
感電、ショート、発火などの原因になります。

 **他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行う。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小 (0) にする。**
感電または機器の損傷の恐れがあります。

 **直射日光のあたる場所や暖房器具の近くなど、極端に温度が高くなるところ、逆に温度が極端に低いところ、またホコリや振動の多いところで使用しない。**
外装が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。

 **通気口をふさがない。**
内部に熱がこもり、火災の原因になります。

 **テレビやラジオ、スピーカーなど他の電気製品の近くで使用しない。**
デジタル回路を多用しているため、テレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。

 **不安定な場所に置かない。**
機器が転倒して故障したり、お客様がケガをしたりする原因になります。

 **本機を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行う。**
コードを傷めたり、お客様が転倒したりする恐れがあります。

 **本機を移動するときは、引きずらない。**
床を傷つける恐れがあります。

 **本機を移動するときは、手や足を挟まないようにする。**
ケガをする恐れがあります。

 **本機を使用しないときは、鍵盤蓋を閉める。鍵盤蓋の開閉は、両手で静かに行う。また、自分や周りのかたが、不用意に鍵盤蓋に触れないようにする。**
鍵盤蓋に手や指をはさみ、ケガをする恐れがあります。

 **地震のときは、本機から離れる。**
地震による強い揺れで本機が動いたり転倒したりして、ケガをする恐れがあります。

 **本機の上に乗ったり、重いものを乗せたりしない。また、スイッチやツマミ、入出力端子などに無理な力を加えない。**
本機が破損する原因になります。

 **機器の開口部やすき間、鍵盤のすき間などから、金属や紙片などの異物を入れない。**
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。

 **大きな音量で長時間使用しない。**
聴覚障害の原因になります。特に、ヘッドフォンを使用する場合はご注意ください。
万一、聴力低下や耳障りを感じたら、専門の医師にご相談ください。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

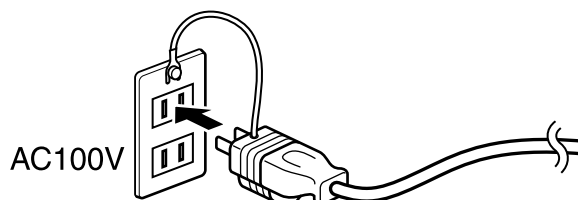
長時間使用しないときは、必ず電源を切りましょう。

本機の取り扱いについて

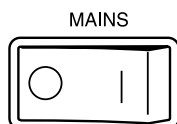
必ずお読みください

電源について

必ず AC100V (50Hz または 60Hz) のコンセントに接続してください。AC100V 以外のコンセントには接続しないでください(本機は日本国内仕様です)。



長期間で使用にならない時は、「電源を完全に切る」(P.22 参照)の操作を行った後に主電源スイッチを「切」にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。



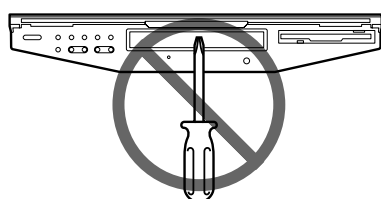
本機とポケットコントローラー

ユニットやポケットコントローラーに無理な力を加えないでください。

スイッチ、ボタンなどを無理やり押ししたりしないでください。

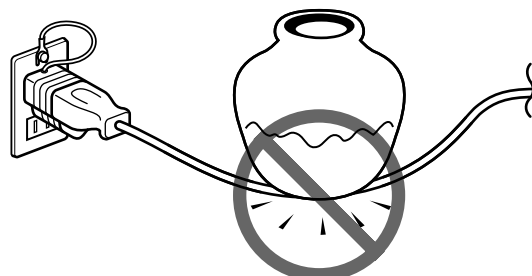


本機を開けて内部に触れると、故障や感電事故を起こすことがあります。ユニット内に物が入ってしまった時などは、まず電源コードを抜き、販売店にご連絡ください。



コード類について

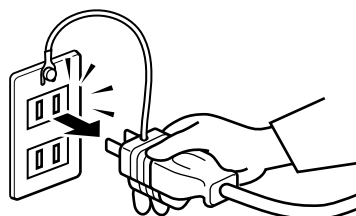
コード類の上に物を置いたりしないでください。



コード類を抜き差しする時は、必ず電源を切ってから行ってください。



コード類を抜く時は、断線やショートを防ぐため、必ずプラグを持って行ってください。



こんな時には？

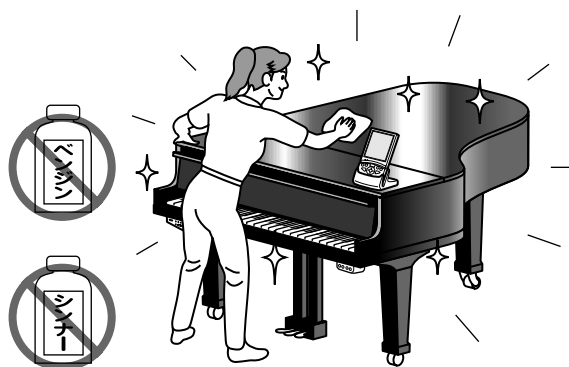
落雷のおそれがある時は？

早めにコンセントから電源プラグを抜いてください。



ピアノの外装を磨く時は？

表面についたほこりは、ピアノ用の羽毛かやわらかな布で軽くから拭きします。鏡面艶出し塗装のピアノは、専用のヤマハピアノユニコン（別売）でムラなく拭きあげてください。市販の化学雑巾や外装手入れ剤は成分が分かりませんので、使用はさけてください。



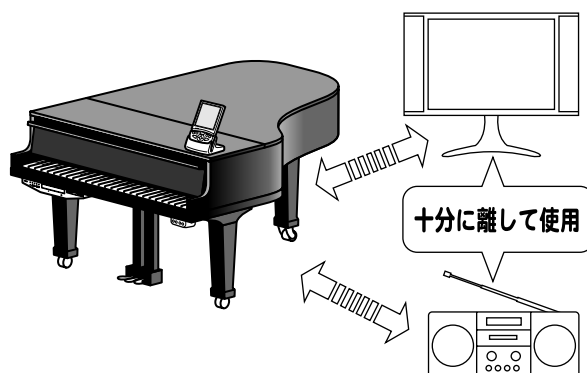
水に濡れた時は？

万一雨がかかったり、水をこぼしてしまった時は、すぐ電源プラグを抜き、販売店にご連絡ください。また煙やスプレーなどがかからないよう、ご注意ください。



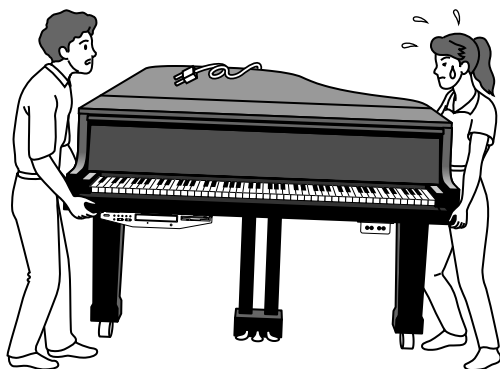
他の電気機器への影響は？

本機の近くでラジオ・テレビなどを同時に使用すると、ラジオ・テレビ側で雑音などが生じることがあります。十分離してご使用ください。



移動する時は？

電源プラグを抜き、コード類をすべてはずしてから、移動します。ピアノの運搬・移動は、専門の業者に依頼することをおすすめします。



故障かな？と思ったら

電源やコード類がきちんと接続されていなかったり、意外なところで操作を誤っている場合があります。P.65「故障かな？と思ったら」でご確認ください。



目次

1 章

はじめに	1
付属品	1
各部の名称と機能	1
本機の準備	10
ポケットコントローラーを準備する	13
ポケットコントローラーの設定をする	14
フロッピーディスクと CD を使う際の 基本注意事項	18
本機で扱えるリムーバブルメディアのファイル フォーマットと階層構造	19

2 章

基本操作	20
電源を入れる	20
ポケットコントローラーを操作する	21
電源を切る（スタンバイモード）	22
電源を完全に切る	22

3 章

再生の基本操作	23
本機で再生できるソフト	23
ソングライブラリーと内容	23
ソングライブラリーのデモ曲を再生する （再生・一時停止）	24
早送り・早戻しをする	25
全体の音量を調節する	25
曲を選択する	25

4 章

便利な再生機能	27
テンポを変えて再生する	27
移調して再生する	27
繰り返し再生する（リピート再生）	28
聴きたいパートだけを再生する （パートキャンセル）	28
音量バランスを調節する	29

プレイリストを活用する	29
曲の情報を見る／編集する	31
文字を入力する	32
再生オプション機能を個々の曲に設定する	34

5 章

演奏の基本操作	35
アコースティックピアノとして演奏する （アコースティックモード）	35
電子ピアノ音で演奏する（Quiet モード）	35
ヘッドフォンを使う（ヘッドフォンモード）	35
Quiet モード / ヘッドフォンモードで 演奏音量を調節する	36
Quiet モード / ヘッドフォンモードで 演奏の音色を選択する	36

6 章

便利な演奏機能	37
メトロノームに合わせて演奏する	37
ピアノパートに別の音色を重ねて演奏する （パフォーマンスマード）	37
ペダルを使って演奏に表情を加える	38
主旋律に和音を加える （ハーモニーモード）	39
電子ピアノ音に残響効果を加える	40

7 章

録音の基本操作	41
ピアノの演奏を録音する	41
左手パートと右手パートを別々に録音する （上書き録音）	42
クイック録音	43
録音を始める時にタイトルを付ける	43

8 章

便利な録音機能	44
CD 同期録音	44

アンサンブルパートを録音する	44
既存の録音に演奏を重ね録りする （オーバーダビング）	45
小節・拍を基準に録音する （メトロノームモード録音）	46
既存の録音のテンポを変更する	47

9 章

ソングライブラリーを作る 48

ライブラリーにアルバムを作る	48
アルバム名を変更する	49
曲またはアルバムをコピーする	49
メディアやソングライブラリーの 全てのコンテンツをコピーする	50
曲またはアルバムを削除する	50
曲またはアルバムの順番を入れ替える	51
フロッピーディスクをフォーマット （初期化）する	51

10 章

ビデオ同期機能 52

ビデオ同期録音	52
ビデオ同期再生	54

11 章

その他の設定 55

内蔵音源のピッチをアコースティックピアノに 合わせる（TG マスターチューン機能）	55
曲頭の無音部分を自動的にスキップする	55
鍵盤の動きを止めて再生する	55
フットコントローラー / フットスイッチを 使えるようにする	56
外部 AV 機器に接続する	57
オーディオ信号の入出力の準備をする	58
標準的な MIDI データに変換する （XP イベント削除）	59
インストールフロッピーディスクを作成する ...	59
デモアルバムの内容を復元する	60
本機をリセットする	60
ONE TOUCH ボタンに特定の機能を 割り当てる	61

12 章

MIDI 機器を接続して更に様々な機能 を活用する 62

MIDI 機器を接続する	62
MIDI データを受信する準備をする （MIDI IN 設定）	62
MIDI データを送信する準備をする （MIDI OUT 設定）	63
鍵盤演奏データを送信する準備をする （KBD OUT 設定）	64

13 章

故障かな？と思ったら 65

14 章

エラーメッセージ 66

15 章

画面推移一覧 67

16 章

用語解説 71

17 章

内蔵音源およびデモ曲 73

電子ピアノの音色一覧	73
アンサンブルパートの音色一覧	73
ドラムキット一覧	81
内蔵デモ曲一覧	82

18 章

仕様 85

付録 89

保証とサービスについて 104

付属品

以下の付属品がお手元にあるかどうかご確認ください。

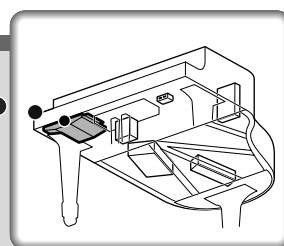
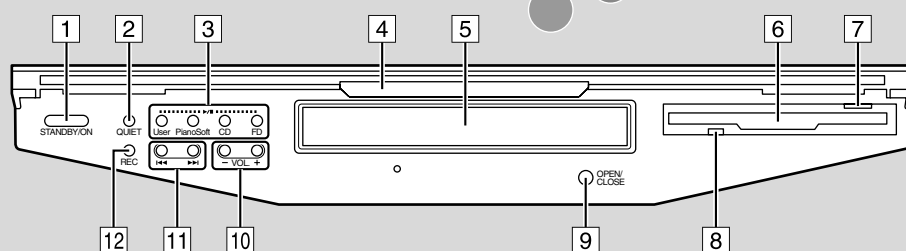
- メディアセンター (1)
- メディアセンター取付キット (1)
- ポケットコントローラー (PRC-100) (1)
- CF 無線 LAN カード (2) *
- 充電式バッテリー (EA-BL08) (1)
- クレードル (1)
- AC アダプター (EA-70) (1)
- 電源コード (1)
- 取扱説明書 (本書) (1)
- ヘッドフォン (HPE-170) (1)

* 2 枚のうち 1 枚はお買い上げ時に I/O センターに取り付けてあります。

各部の名称と機能

メディアセンター

正面



注意：各ユニットの位置はモデルによって異なります。

1 スタンバイ/オン **STANDBY/ON** ボタン

電源をオン/スタンバイモードにします。
押し続けると電源が完全に切れます。

2 クワイエット **QUIET** ボタン

アコースティックモードと Quiet モードを切り替えます。

3 ソース選択ボタン

それぞれ対応したライブラリーやメディアの曲の再生を開始/停止します。

User : User Library を選択します。

PianoSoft : PianoSoft Library を選択します。

CD : CD を選択します。

FD : フロッピーディスクを選択します。

4 フロントカバー

引き出すとメディアセンター正面のカバーになります。

5 **CD** トレイ

(P.19「CD の挿入」参照)

6 **フロッピーディスクドライブ**

(P.18「フロッピーディスクの挿入/取り出し」参照)

7 **フロッピーディスク取り出しボタン**

フロッピーディスクを取り出します。

8 **アクセスランプ**

本機がフロッピーディスクのデータを読み取ったり、書き込んでいる間に点灯します。

9 **OPEN/CLOSE ボタン**

CD トレイを開閉します。

10 **VOL -/+ (音量) ボタン**

全体の音量を調節します。

11 **◀◀/▶▶ (選曲、早戻し/早送り) ボタン**

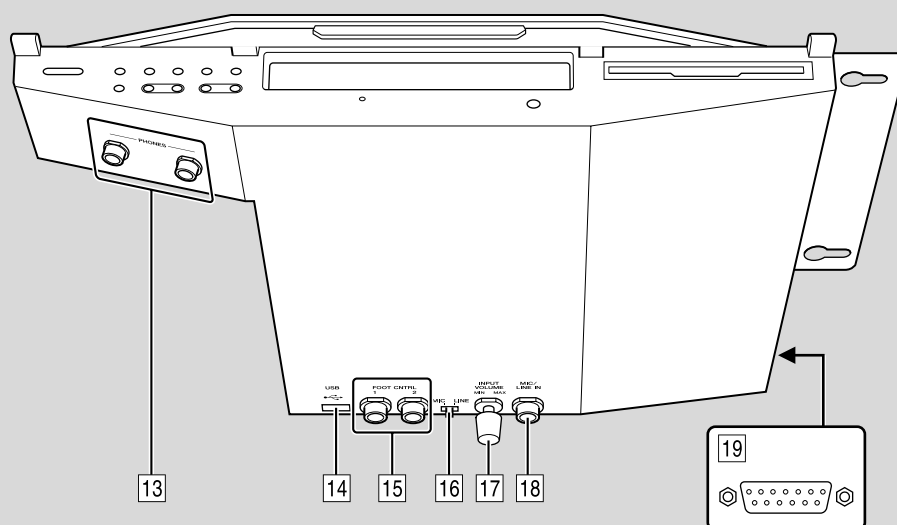
選曲します。

押し続けると早戻し、早送りします。

12 **REC ボタン**

本機を録音待機モードにします。

底面

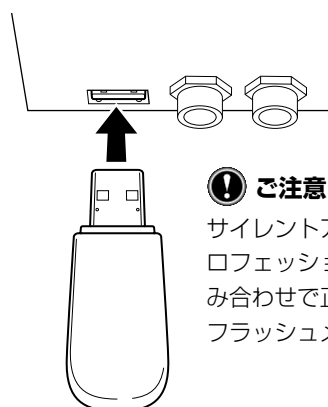


13 **PHONES 端子**

ヘッドフォンを接続します。

14 **USB 端子 (USB TO DEVICE)**

USB フラッシュメモリーなどを接続します。



ご注意

サイレントアンサンブルピアノプロフェッショナルモデル XP との組み合わせで正しく作動しない USB フラッシュメモリーもあります。

15 **FOOT CNTRL1/2 端子**

フットコントローラー / フットスイッチ (別売り) を接続します。

16 **MIC/LINE スイッチ**

MIC/LINE IN 端子に接続する機器に合わせてセットします。

MIC: マイクを接続する時に選びます。

LINE: 外部オーディオ機器を接続する時に選びます。

17 **INPUT VOLUME つまみ**

MIC/LINE IN 端子から入力されたオーディオ信号の音量を調節します。

18 **MIC/LINE IN 端子**

マイク、外部オーディオ機器を接続します。

19 **I/O センター端子**

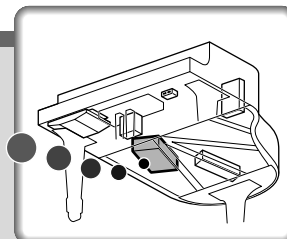
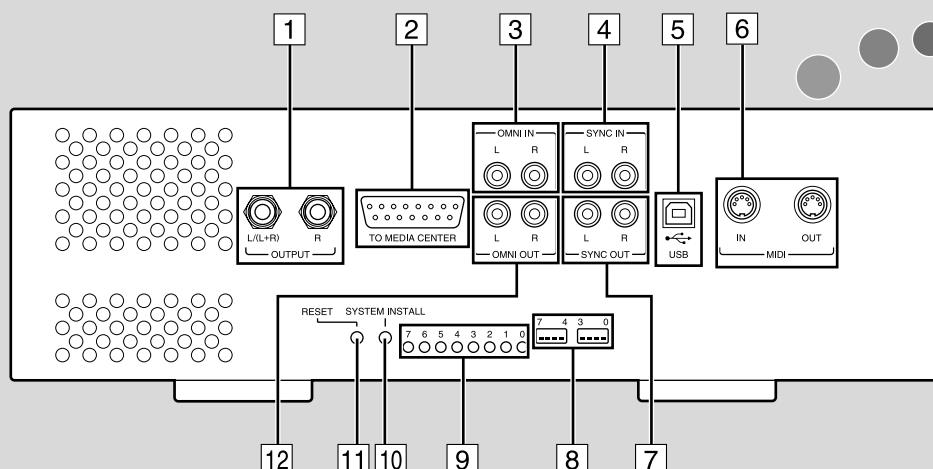
I/O センターと接続します。

ご注意

長時間本機をご使用になるとメディアセンターが熱くなることがありますが故障ではありません。

アイオー I/O センター

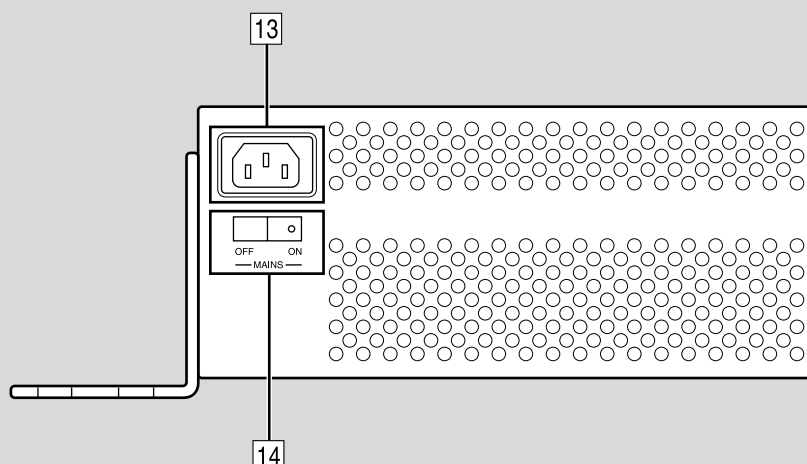
正面



注意：各ユニットの位置はモデルによって異なります。

- 1 **OUTPUT 端子（標準フォーン）**
^{アウトプット}
L/(L+R)：別売りのアンプ内蔵スピーカー（左側）と接続します。
R：別売りのアンプ内蔵スピーカー（右側）と接続します。
- 2 **TO MEDIA CENTER 端子**
^{メディア センター}
 メディアセンターと接続します。
- 3 **OMNI IN (L/R) 多目的入力端子**
^{オムニ イン}
 CD プレーヤーなど外部オーディオ機器の出力端子と接続します。
- 4 **SYNC IN (L/R) 同期入力端子**
^{シンクロ イン}
 SYNC ボックスと接続します。
- 5 **USB 端子（USB TO HOST）**
 コンピューターの USB 端子と接続します。
- 6 **MIDI (IN/OUT) 端子**
^{ミディ イン アウト}
 外部 MIDI 機器の入力、出力端子と接続します。
- 7 **SYNC OUT (L/R) 同期出力端子**
^{シンクロ アウト}
 SYNC ボックスと接続します。
- 8 **ディップスイッチ**
 無線 LAN の通信チャンネルを切り替えます。
- 9 **LED ランプ**
 メンテナンス時に使用します。
- 10 **SYSTEM INSTALL ボタン**
^{システム インストール}
 メンテナンス時に使用します。
- 11 **RESET ボタン**
^{リセット}
 メンテナンス時に使用します。
- 12 **OMNI OUT (L/R) 多目的出力端子 (RCA ピン)**
^{オムニ アウト}
 AV アンプなどの入力端子と接続します。

左側面



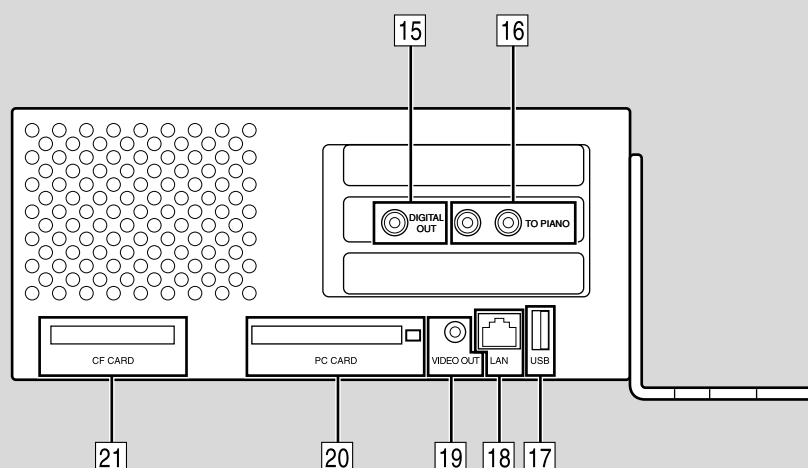
13 電源端子

電源供給ユニットの AC OUTLET と接続します。

14 メインズ MAINS スイッチ

I/O センターの電源をオン／オフにします。

右側面



15 デジタル アウト DIGITAL OUT 端子 (RCA ピン)

AV アンプやミキサーのデジタル音声入力端子と接続します。

16 ピアノ TO PIANO 端子

セントラルシグナルプロセッサと接続します。

17 USB 端子 (A タイプ)

将来の機能拡張時に使用します。

18 LAN 端子 (RJ 45)

ルーターなどを介してネットワークへと接続します。
将来の機能拡張時に使用します。

19 ビデオ アウト VIDEO OUT 端子

将来の機能拡張時に使用します。

20 カード PC CARD スロット (PCMCIA タイプ II)

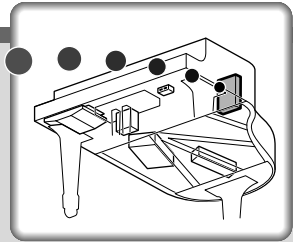
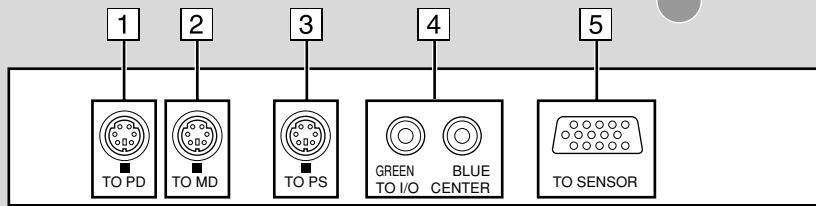
将来の機能拡張時に使用します。

21 カード CF CARD スロット (PCI)

付属の CF 無線 LAN カードはお買い上げ時にこのスロットに取り付けてあります。

セントラルシグナルプロセッサ

正面



注意：各ユニットの位置はモデルによって異なります。

1 TO PD 端子

ペダルドライブユニットのケーブル（PD）と接続します。

2 TO MD 端子

モータードライブユニットのケーブル（MD）と接続します。

3 TO PS 端子

電源供給ユニットのケーブル（PS）と接続します。

4 TO I/O CENTER (GREEN/BLUE) 端子

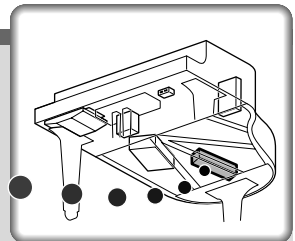
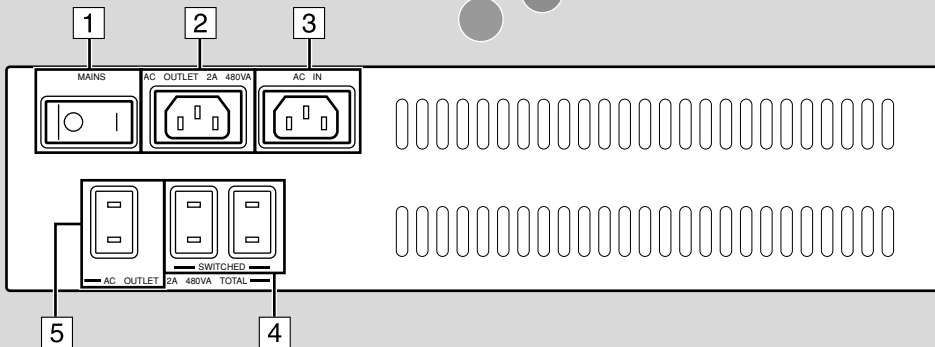
I/O センターの端子と接続します。

5 TO SENSOR 端子

ピアノ本体内部のセンサーと接続します。

電源供給ユニット

正面



注意：各ユニットの位置はモデルによって異なります。

1 MAINS スイッチ

電源供給ユニットの電源をオン（|）／オフ（○）にします。

2 AC OUTLET

I/O センターの電源端子と接続します。

3 AC IN

コンセントと接続します。

4 AC OUTLET (電源スイッチ連動)

アンプ内蔵スピーカー（別売り）の電源コードと接続します。

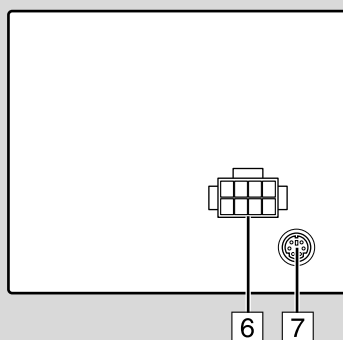
⚠️ ご注意

左右合わせて 1.6A 以下の消費電流のアンプ内蔵スピーカー（別売り）を接続してください。

5 AC OUTLET (電源スイッチ非連動)

クレードルの AC アダプターと接続します。

右側面



ドライブ
 ⑥ **TO DRIVE 端子**

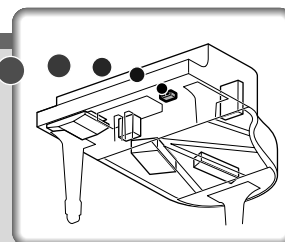
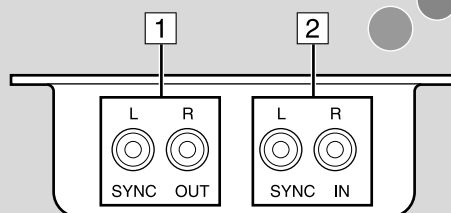
キードライブユニットと接続します。

⑦ **TO CSP 端子**

セントラルシグナルプロセッサ（CSP）と接続します。

シンクロ
SYNC ボックス

正面



注意：各ユニットの位置はモデルによって異なります。

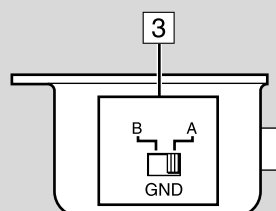
シンクロ アウト
 ① **SYNC OUT (L/R) 同期出力端子**

ビデオカメラのマイク、ライン入力端子と接続します。

シンクロ イン
 ② **SYNC IN (L/R) 同期入力端子**

ビデオカメラの音声出力端子と接続します。

左側面

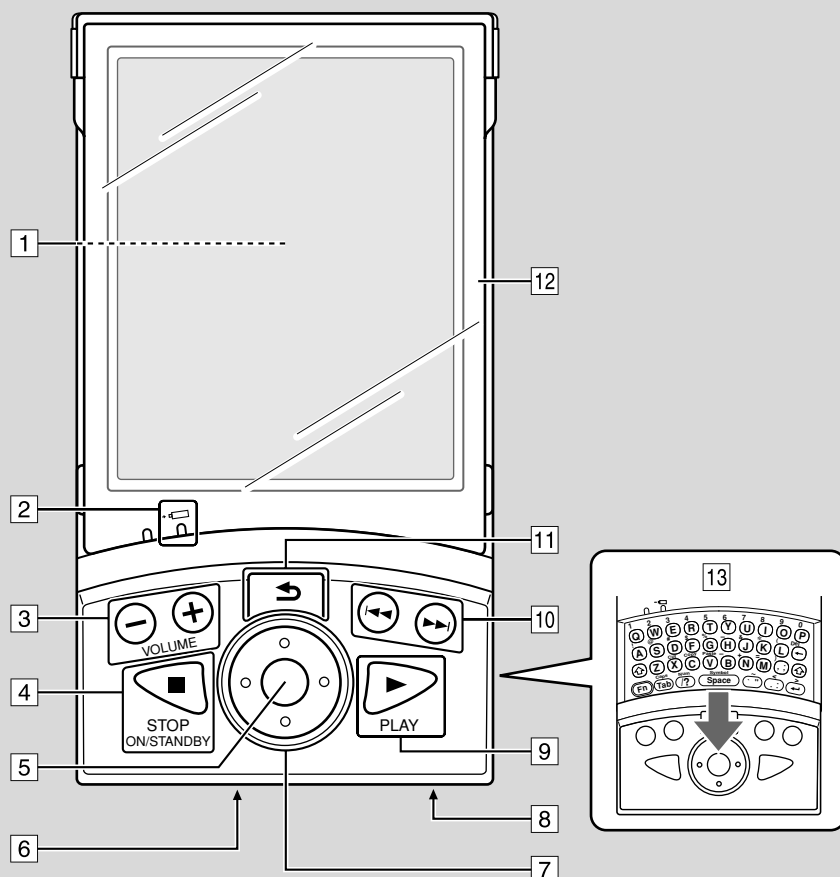


グラウンド
 ③ **GND スイッチ**

（P.52 「ビデオ同期録音」 参照）

ポケットコントローラー

正面



① **タッチ画面**

(P.21「スタイラスペンを使った操作」参照)

② **充電ランプ (オレンジ色)**

充電中に点灯し、充電が終わると消灯します。

③ **VOLUME -/+ ボタン**

全体の音量を調節します。

④ **■ STOP、ON/STANDBY**

再生を停止します。また、ポケットコントローラーの電源をオン/オフにします。

⑤ **選択ボタン**

タッチ画面上で選択されたボタンやアイコンの機能を実行します。

⑥ **I/O 端子**

クレードルの I/O 端子と接続します。

⑦ **カーソルボタン**

タッチ画面のボタンやアイコンを選択したり、操作バーのスライダーを動かしたりします。

⑧ **AC アダプター端子**

AC アダプターを接続します。

⑨ **▶ ^{プレイ}PLAY ボタン**

再生を始めます。

⑩ **◀◀/▶▶ (選曲、早戻し/早送り) ボタン**

選曲します。

押し続けると早戻し、早送りします。

⑪ **↶ (戻る) ボタン**

1 つ前の画面に戻ります。

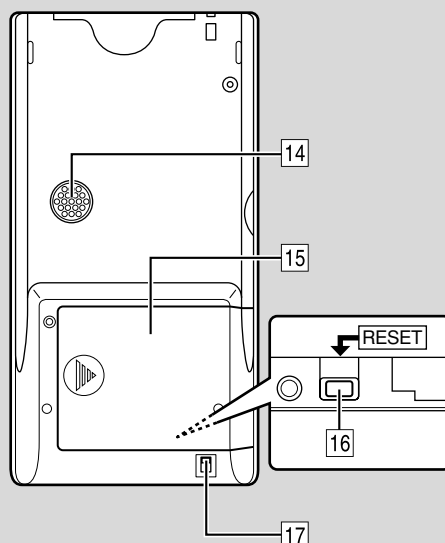
⑫ **画面プロテクター**

スタイラスペンで画面をタップする時には、開くか取り外すかしてください。取り外すにはプロテクターを手前から開き、外れるまで開ききります。

⑬ **キーボード**

文字を入力します。(P.32「文字を入力する」参照)

裏面



14 スピーカー

15 バッテリーカバー

16 リセット RESET ボタン (バッテリーケースの内側にあります。)

ポケットコントローラーをリセットします。

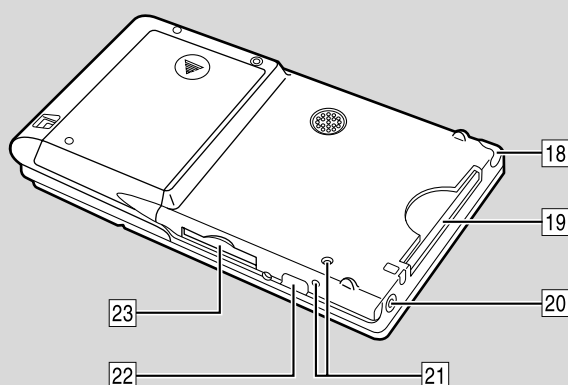
17 バッテリー交換スイッチ

(P.13「ポケットコントローラーを準備する」参照)

ⓘ ご注意

サイレントアンサンブルピアノ・プロフェッショナルモデル XP 特注のポケットコントローラー用バッテリーは消耗品です。

上面／左側面



18 スタイラスペン

タッチ画面をタップします。

19 CF カードスロット

CF 無線 LAN カードを挿入します。

20 ステレオヘッドフォン端子

将来の機能拡張時に使用します。

21 マイク

将来の機能拡張時に使用します。

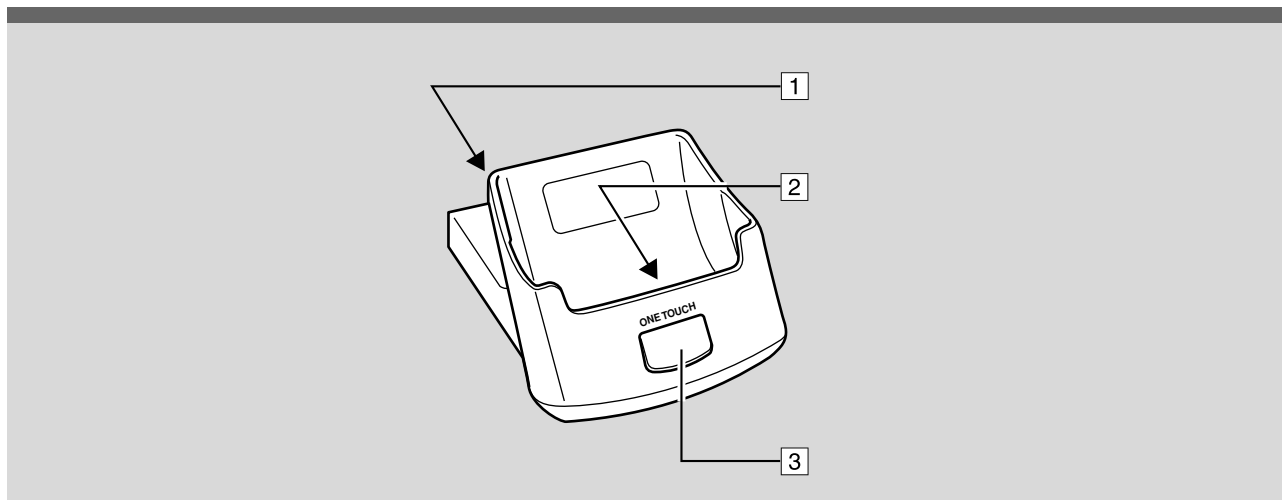
22 IR ポート

将来の機能拡張時に使用します。

23 SD カードスロット

将来の機能拡張時に使用します。

クレードル



① **AC アダプター端子**

AC アダプターを接続します。

② **アイオー I/O 端子**

ポケットコントローラーの I/O 端子を接続します。

③ **ワン タッチ ONE TOUCH ボタン**

(P.61 「ONE TOUCH ボタンに特定の機能を割り当てる」 参照)

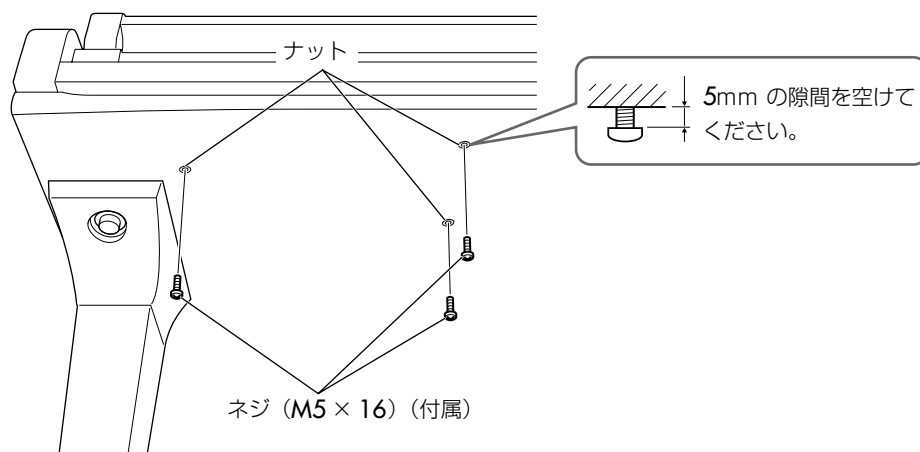
⚠ **ご注意**

AC アダプターは、必ず付属の “EA-70” を使用してください。

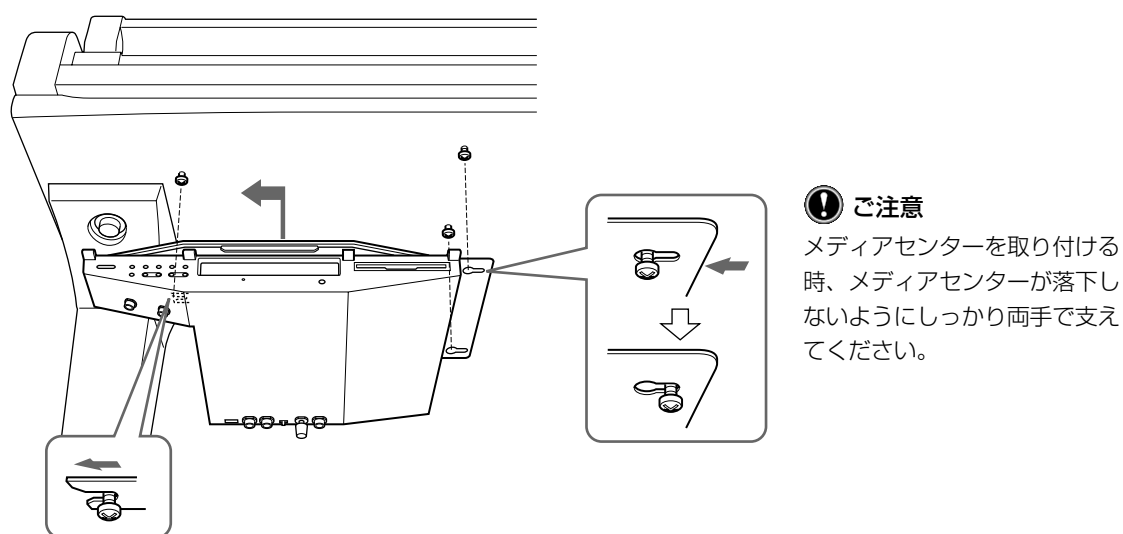
本機の準備

メディアセンターの取り付け

- 1** 付属のネジをナットに取り付けます。



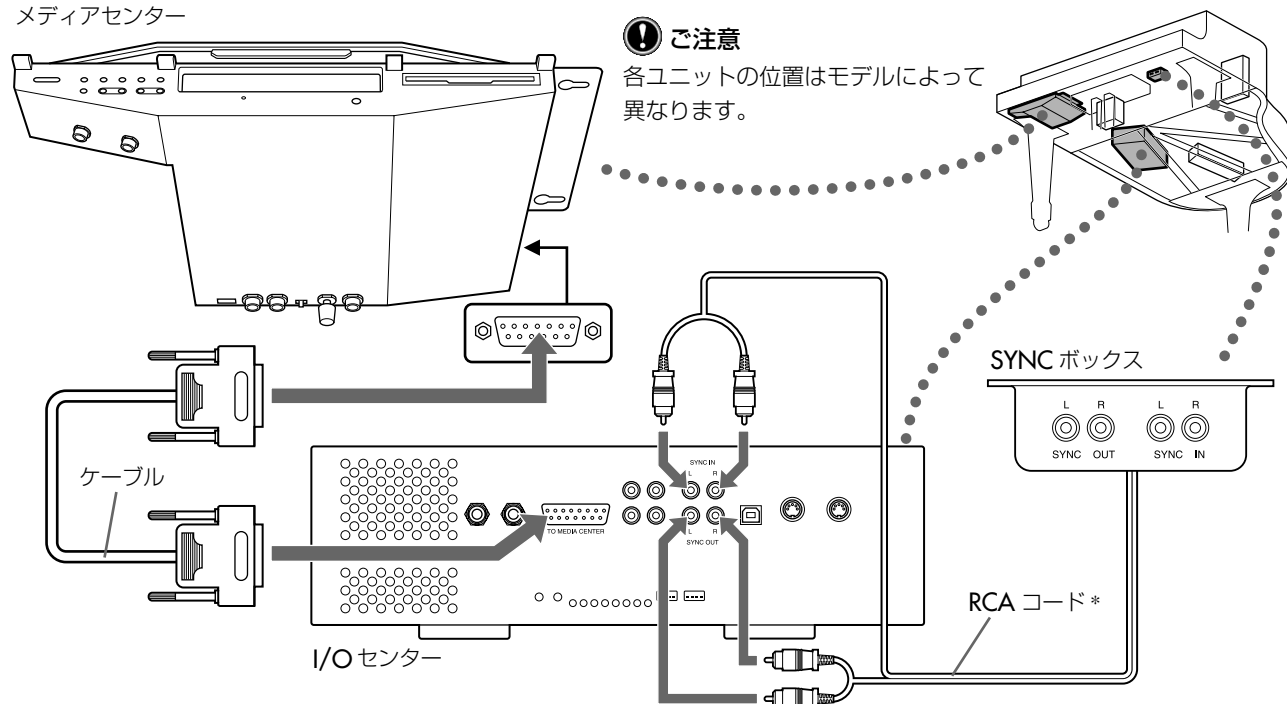
- 2** メディアセンターを取り付けます。



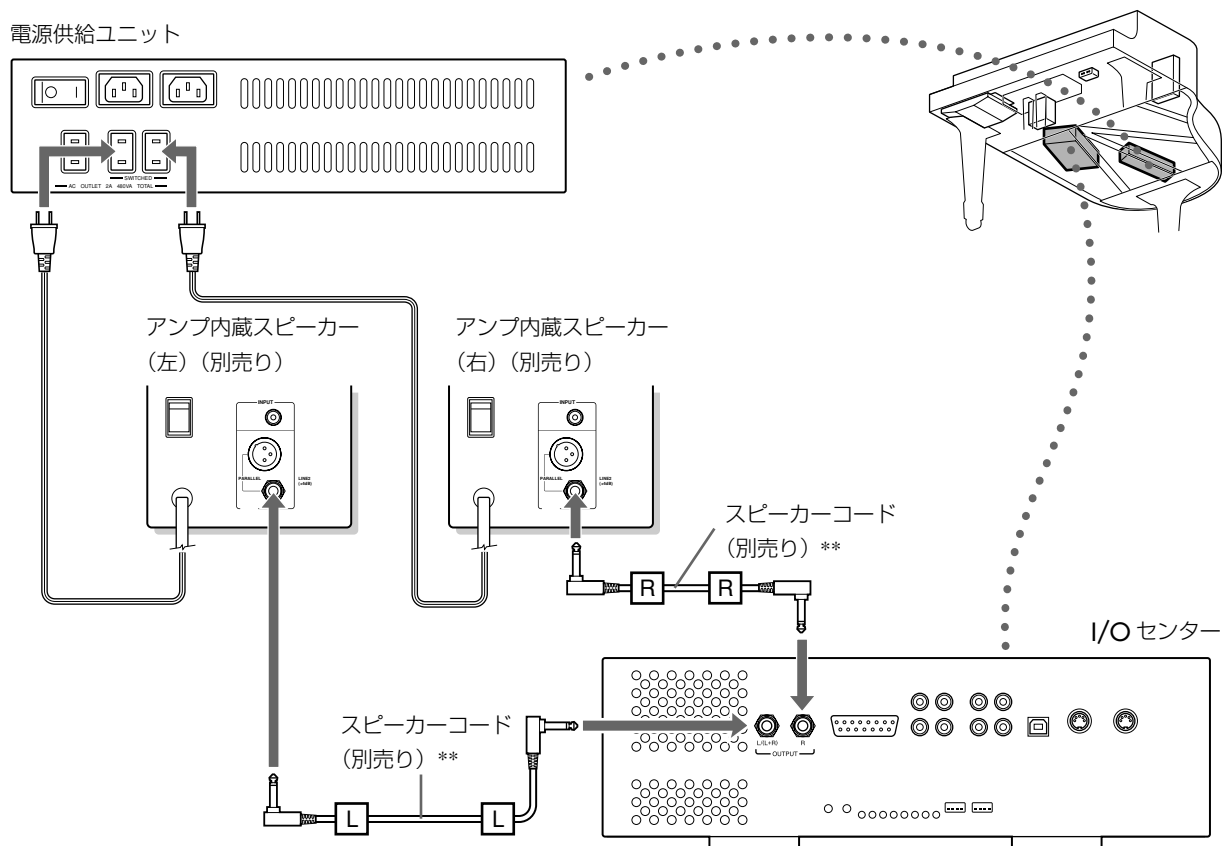
- 3** ネジを最後まで締めてメディアセンターを固定します。

接続

メディアセンター



電源供給ユニット

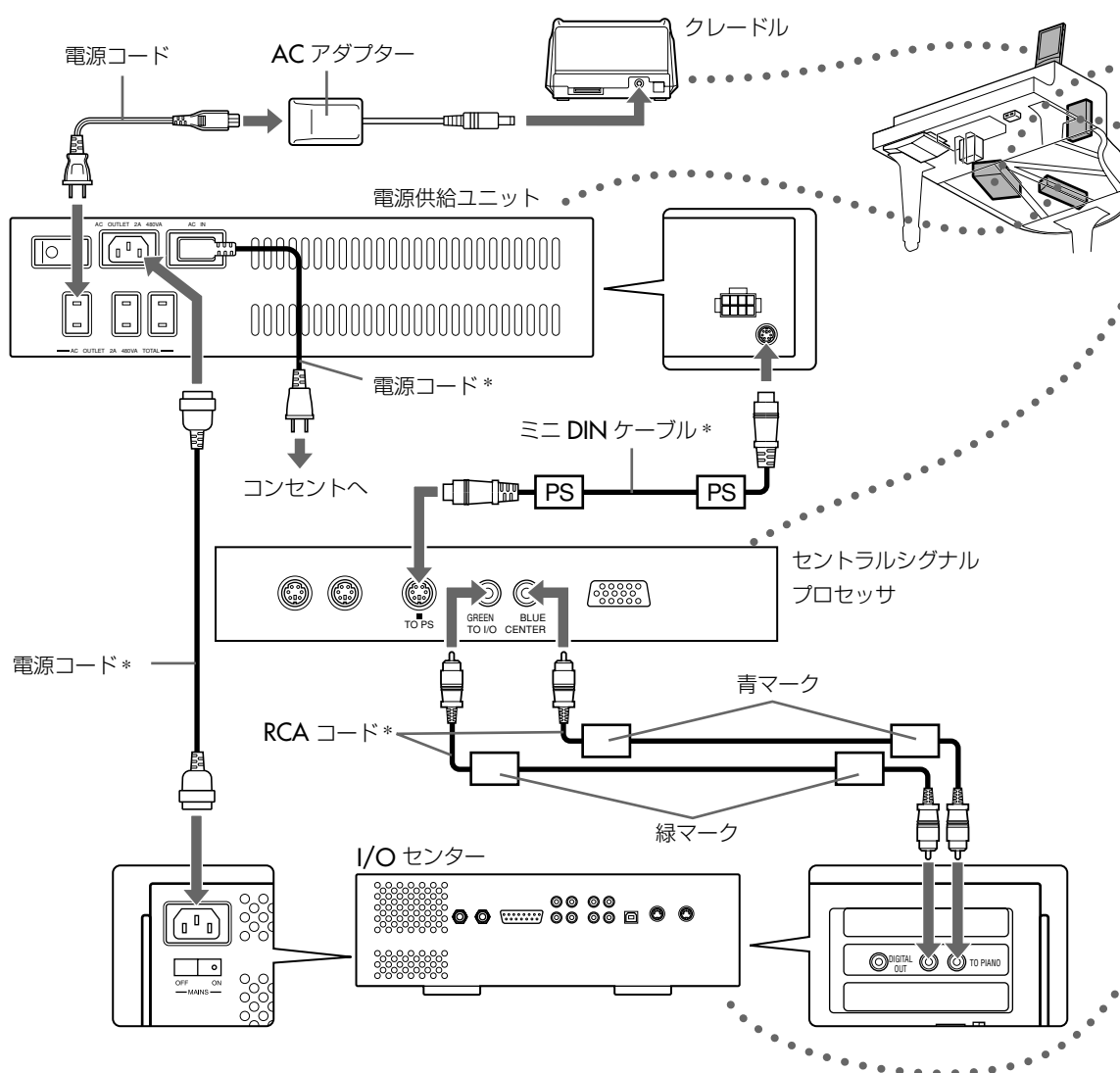
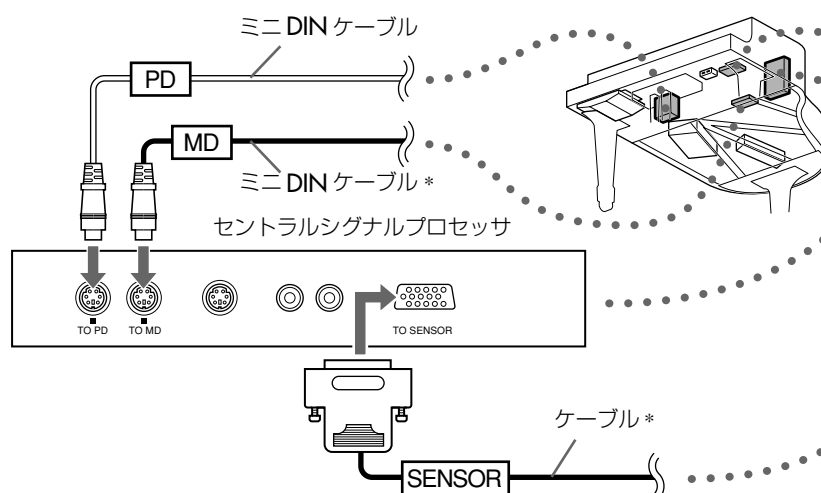


ⓘ ご注意

内蔵電子音源の音をお楽しみいただくためには、アン
プ内蔵スピーカー（別売り）などとの接続が必要です。

* これらのコード、ケーブル類はお買い上げ時に接続されています。

※ I/O センターとの接続には L 型プラグ付きのスピーカーコード（別売り）が必要です。



*これらのコード、ケーブル類はお買い上げ時に接続されています。

❗ ご注意

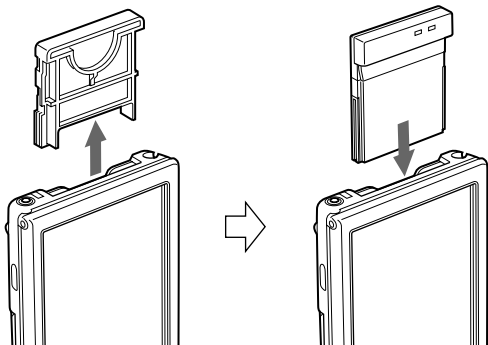
必ず、すべての付属機器の接続を済ませてから、電源供給ユニットの電源コードをコンセントに接続してください。

❗ ご注意

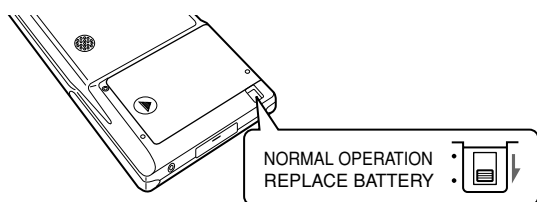
接続されている電源コードはお買い上げ時の状態から変更しないでください。

ポケットコントローラーを準備する

- 1 カードスロットプロテクターを取り外し、付属の CF 無線 LAN カードを CF カードスロットの奥まで差し込みます。

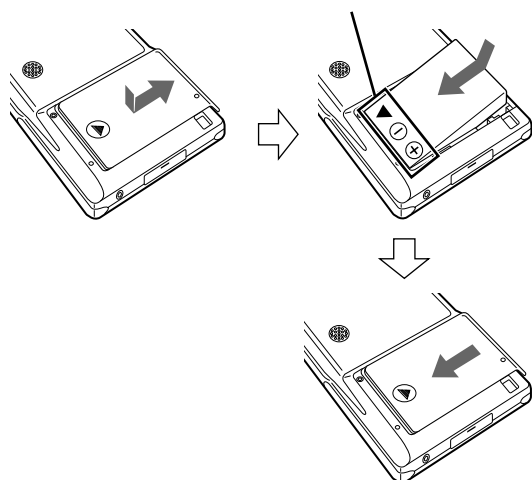


- 2 バッテリー交換スイッチを
リプレイス リプレイス バッテリー バッテリー
REPLACE BATTERY の位置にします。



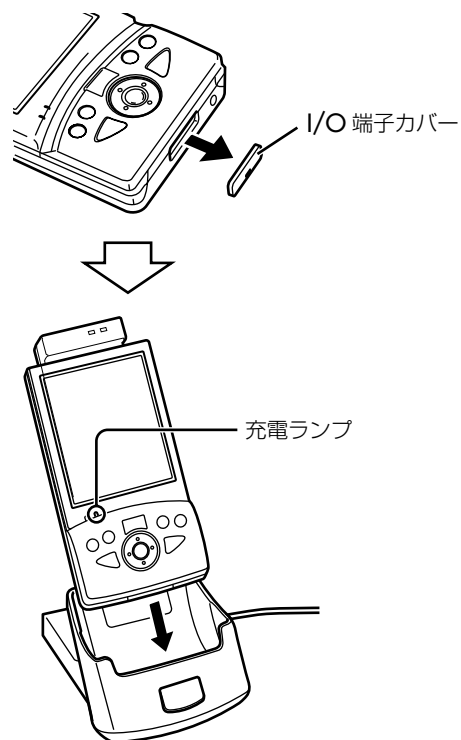
- 3 充電式バッテリーをバッテリーケースにセットします。

バッテリーケース内とバッテリーの◀、⊕、⊖表示を合わせてセットします。



- 4 バッテリー交換スイッチを
ノーマル ノーマル オペレーション オペレーション
NORMAL OPERATION の位置に戻します。

- 5 I/O 端子カバーを取り外し、ポケットコントローラーをクレードルにセットします。



充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。充電が終わるとランプは消灯します。

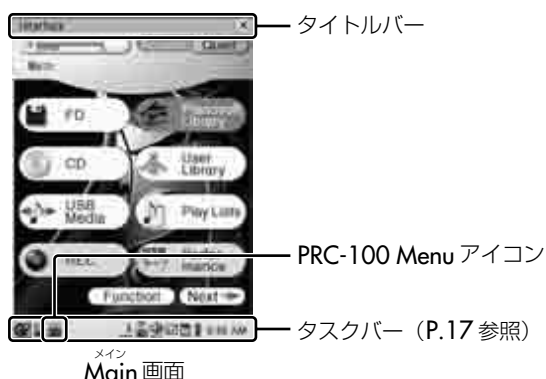
⚠ ご注意

ポケットコントローラー用のバッテリーは、必ず付属の“EA-BL08”を使用し、正しくセットしてください。

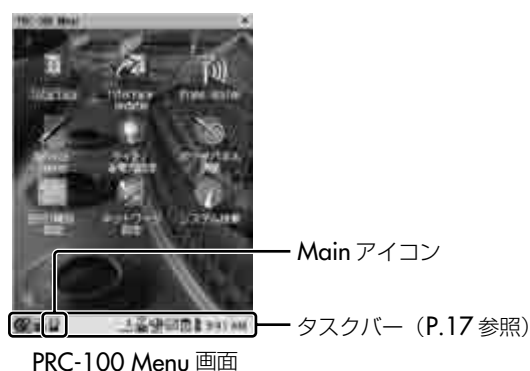
ポケットコントローラーの設定をする

必要に応じた設定をすることで、サイレントアンサンプルピアノをリモコン操作する際、便利な機能を利用することができます。

1 本機の電源を入れます。(P.20 参照)



2 タスクバーの (PRC-100 Menu アイコン) をタップします。



ヒント
Main 画面に戻るにはタスクバーの  (Main アイコン) を、PRC-100 Menu 画面に戻るには  (PRC-100 Menu アイコン) をタップしてください。

3 設定したい機能をタップします。

選択できる機能は以下の通りです。

 **Interface** :

サイレントアンサンプルピアノをリモコン操作する機能です。タップして本機のトップメニューである Main 画面を表示します。

 **Interface Updater** :

Interface 機能をアップデートする機能です。

 **Piano Assign** :

(P.16「ポケットコントローラーとサイレントアンサンプルピアノをペアにする」参照)

 **Service Center** :

本機の状態をチェックする機能です。

 **ライト / 省電力設定** :

省エネルギー設定をする機能です。

 **タッチパネル調整** :

(以下の「タッチ画面の操作精度を微調整する」参照)

 **日付 / 時刻設定** :

(P.15「現在の日時を設定する」参照)

 **ネットワーク設定** :

利用可能なネットワークを表示する機能です。

 **システム情報** :

メモリーや容量、バージョンなど、システム情報を表示する機能です。

* 通常の使用では設定し直す必要のない機能です。

タッチ画面の操作精度を微調整する

以下の操作をすることでタッチ画面上のボタンやアイコンなどを正確にタップできるようになります。

1 PRC-100 Menu 画面の タッチパネル調整をタップし、次々に現れる十字マークをタップします。



2 タスクバーの (PRC-100 Menu アイコン) をタップして、PRC-100 Menu 画面に戻ります。

現在の日時を設定する

- 1 ^{メニュー} PRC-100 Menu 画面の  日付 / 時刻設定をタップします。



日付 / 時刻設定画面

- 2 時 / 分  をタップして、時分をセットします。
- 3 時刻書式  をタップして、12/24 時間表示を選びます。
- 4 (必要に応じて)  をタップして、AM か PM を選びます。
- 5 日付ボタンをタップして、表示されるミニカレンダー上で今日の日付をタップします。
- 6 タイトルバーの **OK** をタップします。
PRC-100 Menu 画面に戻ります。
- 7 ポケットコントローラーを再起動します。
(以下の「ポケットコントローラーを再起動する」参照)

ポケットコントローラーを再起動する

ポケットコントローラーで操作ができなくなったなどの不具合が生じた場合、P.65 の「故障かな?と思ったら」を参照して対処してください。それでも症状が改善されない場合、以下の手順でポケットコントローラーを再起動してください。

- 1 タスクバーの  をタップします。



- 2 表示されるメニュー上で  再起動をタップします。

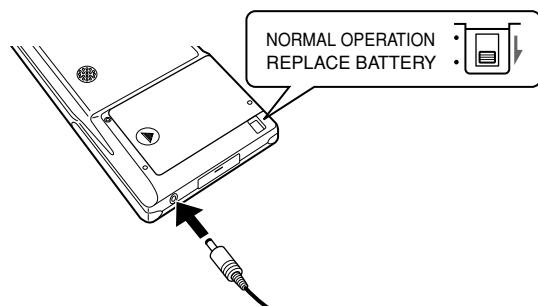


- 3 **はい** をタップします。
約 3 分後に Main 画面に戻ります。

ポケットコントローラーをリセットする

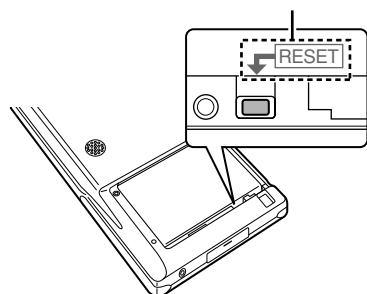
再起動できなったり、再起動後もポケットコントローラーが正しく動作しなかった場合、以下の手順でポケットコントローラーをリセットしてください。

- 1 AC アダプターを AC アダプター端子に接続し、バッテリー交換スイッチを **REPLACE BATTERY** の位置にします。



- 2 5 秒以上待ってからバッテリーカバーを取り外し、スタイラスペンで **RESET** ボタンを押します。

バッテリーに隠れて本体に表示がありません。



- 3 バッテリーカバーを戻し、バッテリー交換スイッチを **NORMAL OPERATION** の位置に戻します。
- 4  を押して、ポケットコントローラーの電源を入れます。
約 2 分後に **Main** 画面に戻ります。

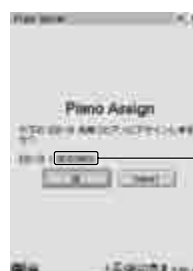
ポケットコントローラーとサイレントアンサンブルピアノをペアにする

通常この設定を行う必要はありません。

- 1 本機以外の無線 LAN 機器の電源が切れていることを確認します。
- 2 PRC-100 Menu 画面の  **Piano Assign** をタップします。



- 3 ポケットコントローラーをサイレントアンサンブルピアノに近づけ、 をタップします。



ESS-ID 番号

- 4  をタップします。
- 5 「アサインに成功しました」画面の  をタップします。
PRC-100 Menu 画面に戻ります。

⚠️ ご注意

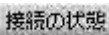
手順 4 までは操作を途中で止めないでください。途中で止めると本機を操作できなくなります。

無線 LAN の通信チャンネルを変更する

ポケットコントローラーでサイレントアンサンブルピアノの操作がうまくできない時は、本機以外の無線 LAN 機器との干渉で無線接続状況が悪くなっていることが考えられます。このような場合、以下の手順で無線状況を確認し、必要に応じて無線状況の最も良い通信チャンネルに切り替えてください。

- 1 PRC-100 Menu 画面の  ネットワーク設定をタップします。



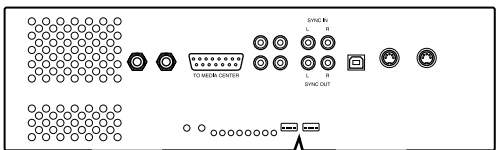
- 2  をタップして、電波強度とクオリティの数値を確認します。



 30% 以下の場合、手順 3 へ進みます。

- 3 I/O センター正面下のディップスイッチを、ボールペンなど先の細いものを使って切り替えます。数秒後に自動的に操作ができるようになります。

I/O センター正面



通信チャンネル	ディップスイッチ位置								
チャンネル 5 (初期設定)	<table><tr><td>7</td><td>4</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td></tr></table>	7	4	3	0	■	■	■	■
7	4	3	0						
■	■	■	■						
チャンネル 1	<table><tr><td>7</td><td>4</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td></tr></table>	7	4	3	0	■	■	■	■
7	4	3	0						
■	■	■	■						
チャンネル 8	<table><tr><td>7</td><td>4</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td></tr></table>	7	4	3	0	■	■	■	■
7	4	3	0						
■	■	■	■						
チャンネル 11	<table><tr><td>7</td><td>4</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td></tr></table>	7	4	3	0	■	■	■	■
7	4	3	0						
■	■	■	■						

タスクバーについて

ポケットコントローラーの様々な情報や状態は、タッチ画面下部に常に表示されているタスクバーで確認することができます。アイコンをタップすると、それぞれの設定画面などが表示されます。

-  : 再起動などの機能メニューを表示します。
-  : Main 画面を表示します。
-  : 設定メニュー画面 (PRC-100 Menu 画面) を表示します。
-  : 以下のように無線接続の状態を表示します。
青：最良
緑：良好
黄：標準
赤：弱い
-  : 未接続状態を表示します。(ネットワーク画面の詳細を見たい時にタップします。)
-  : ポケットコントローラーのスピーカー音量を表示します。(アイコンをタップして現れる音量調節の画面上で、スライドバーを動かして音量を設定します。)
-  : CF カードを抜く前に、このアイコンをタップして現れる「カード取り外し」メニューをタップします。
-  : バッテリーの充電状況を表示します。
青：高
黄：低
赤：要充電
緑：充電中
-  1:46 PM : 現在時刻を表示します。(「日付／時刻指定」画面を開くには、このアイコンをタップします。)

フロッピーディスクと CD を使う際の基本注意事項

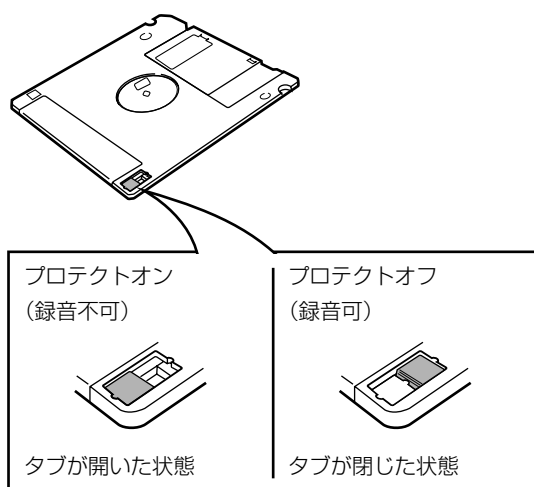
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに保存されたデータを破損や消去から守るため、以下の点に注意して取り扱ってください。

- 内部にあるディスクの表面に触れないでください。
- 磁気を帯びたもの（テレビやラジオやスピーカーなど）は近づけないでください。
- 特に高温／低温の場所、多湿の場所などに置かないでください。室温が 4℃から 52℃の範囲でご使用ください。
- 埃や汚れの多い場所、または煙の多い場所などで使用しないでください。
- 電源を切る前にフロッピーディスクを取り出してください。

誤消去防止のために

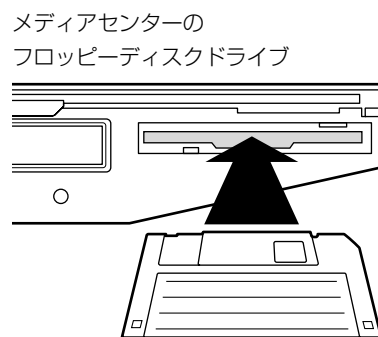
フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまうことがないようにライトプロテクトタブ（誤消去防止ツメ）が付いています。



フロッピーディスクの挿入／取り出し

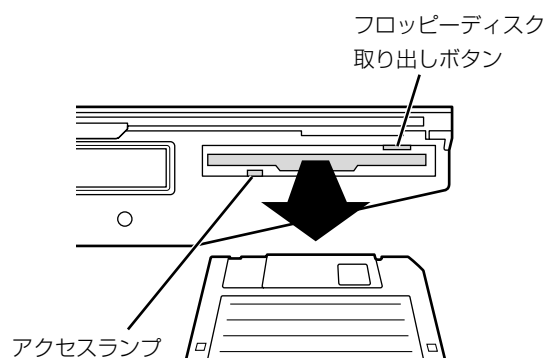
挿入

カチッと音がしてセットされるまで、ディスク挿入口に押し込みます。



取り出し

フロッピーディスク取り出しボタンを押します。



⚠️ ご注意

アクセスランプが点滅または点灯している間は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブが破損する可能性があります。

CD の取り扱い

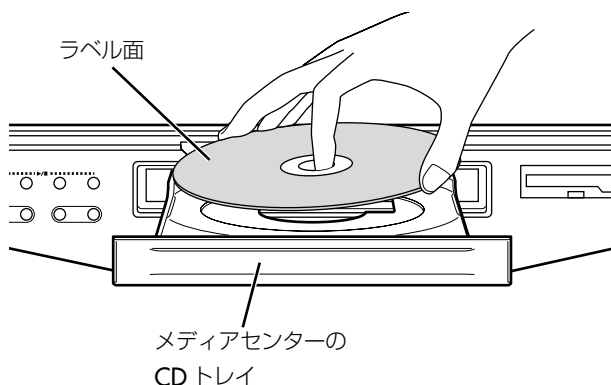
CD に保存されたデータを破損や消去から守るため、以下の点に注意して取り扱ってください。

- CD の表面に触れないでください。
- 特に高温／低温の場所、多湿の場所などに置かないでください。室温が 4℃から 52℃の範囲でご使用ください。
- 本機の電源を切る前に CD を取り出してください。

CD の挿入

挿入

- 1 メディアセンターの  を押して CD トレイを開けます。
- 2 CD をトレイに入れ、 を押してトレイを閉じます。



本機で扱えるリムーバブルメディアのファイルフォーマットと階層構造

オーディオ CD、MIDI データ CD

- ISO 9660 LEVEL1 でフォーマットされたディスクをご使用ください。
- 本機で再生するファイルは、メディアの最上階層あるいは第一階層に保存してください。

フロッピーディスク (2DD、2HD)

- MS-DOS でフォーマットされたフロッピーディスクをご使用ください。(P.51「フロッピーディスクをフォーマット (初期化) する」参照)
- 本機で再生するファイルは、メディアの最上階層に保存してください。

USB フラッシュメモリー

- FAT16 または FAT32 のファイルシステムでフォーマットされた USB フラッシュメモリーをご使用ください。
- 本機で再生するファイルは、メディアの最上階層あるいは第一階層に保存してください。

USB フラッシュメモリーの使用について

- USB フラッシュメモリーの使用中は、USB フラッシュメモリーの抜き差しや、電源のオン / オフをしないでください。故障の原因となることがあります。
- USB フラッシュメモリーを頻繁に抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- USB フラッシュメモリーの接続中は、足をぶつけて破損しないよう、足の動きに十分ご注意ください。

本機で扱えるフォーマット

- **SMF フォーマット 0:** 再生と録音に対応
- **SMF フォーマット 1:** 再生に対応
- **E-SEQ:** 再生に対応
- SMF ファイルとして扱える拡張子は .MID あるいは .mid です。
- E-SEQ ファイルとして扱える拡張子は .FIL あるいは .fil です。
- 本機で演奏した曲は SMF フォーマット 0 で録音されます。

本機で録音したファイルについて

本機で録音したファイルには、曲を高精度に再生するための様々なデータ (XP イベント) が含まれています。しかし、シーケンサなど外部 MIDI 機器で曲ファイルを編集した場合、期待された音を再現できなかったり、鍵盤の動きが不自然になったりすることがあります。本機で録音した曲ファイルを外部機器で編集する場合、あらかじめ曲ファイルから XP イベントを削除してください。(P.59「標準的な MIDI データに変換する (XP イベント削除)」参照)



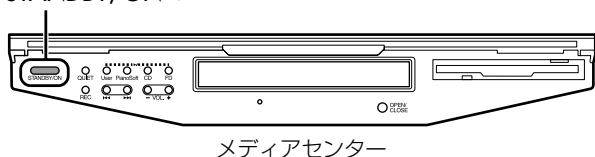
I/O センターの MIDI OUT 端子や USB  端子から出力された曲ファイルを MIDI 機器で再生する場合、出力される段階で XP イベントが取り除かれているので、どのような編集も可能です。

本書の読み方

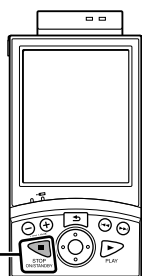
本書の操作説明で登場するボタンやつまみは、特に記述のない限り、ポケットコントローラーのものを指します。

電源を入れる

STANDBY/ON ボタン



メディアセンター

ON/STANDBY
ボタン

ポケットコントローラー

- 1 電源供給ユニットの電源プラグがコンセントに接続されているか確認します。
(P.12 参照)



ヒント

必要に応じてアンプ内蔵スピーカー（別売り）の電源を入れます。

- 2 電源供給ユニットの MAINS スイッチを **オン** にします。(P.5 参照)

- 3 アイオーセンターの MAINS スイッチを **オン** にします。(P.4 参照)



ヒント

電源供給ユニットと I/O センターの MAINS スイッチが ON で、メディアセンターの **STANDBY/ON** が消灯している場合は、**STANDBY/ON** を押します。

メディアセンターの **STANDBY/ON** が緑の点滅をはじめます。
メディアセンターの **STANDBY/ON** が、薄暗い緑の点灯に変わったところで手順 **4** に進みます。



ご注意

STANDBY/ON が緑の点滅から薄暗い緑の点灯に変わるまで数分かかる場合があります。

- 4  を押します。

ポケットコントローラーの電源が入り、Main 画面が表示されます。

タッチ画面は以下のように変わります。



Main 画面



ご注意

Main 画面が表示されるまで約 2 分かかります。



ご注意

本機の電源を完全に切った後に再度電源を入れる場合は、10 秒以上の間隔をあけてください。



ヒント

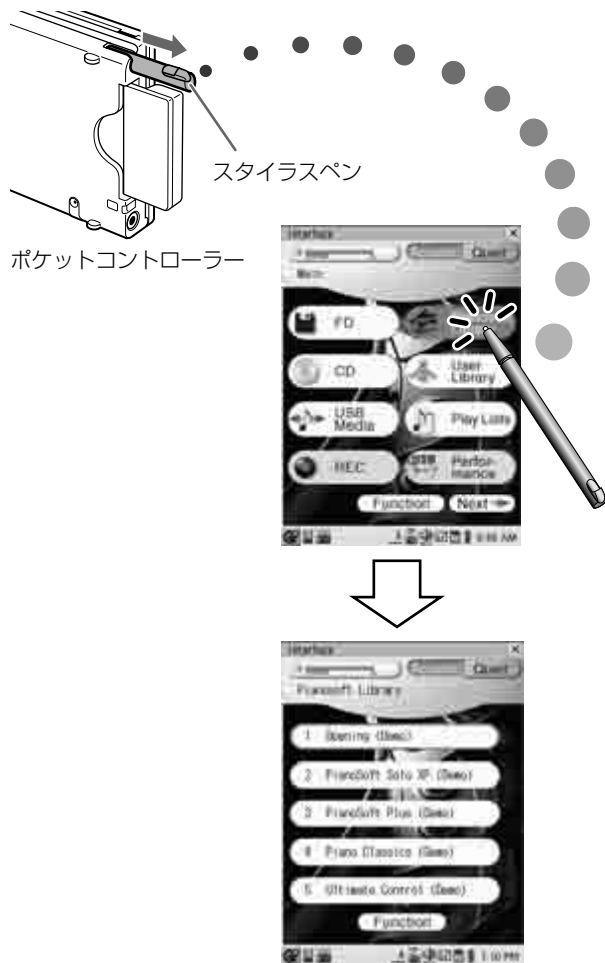
スタンバイモード (P.22 参照) から電源を入れるには、 を押してください。

ポケットコントローラーを操作する

付属のスタイラスペンでタッチ画面をタップする（直接触れる）か、ボタンを押して操作します。

スタイラスペンを使った操作

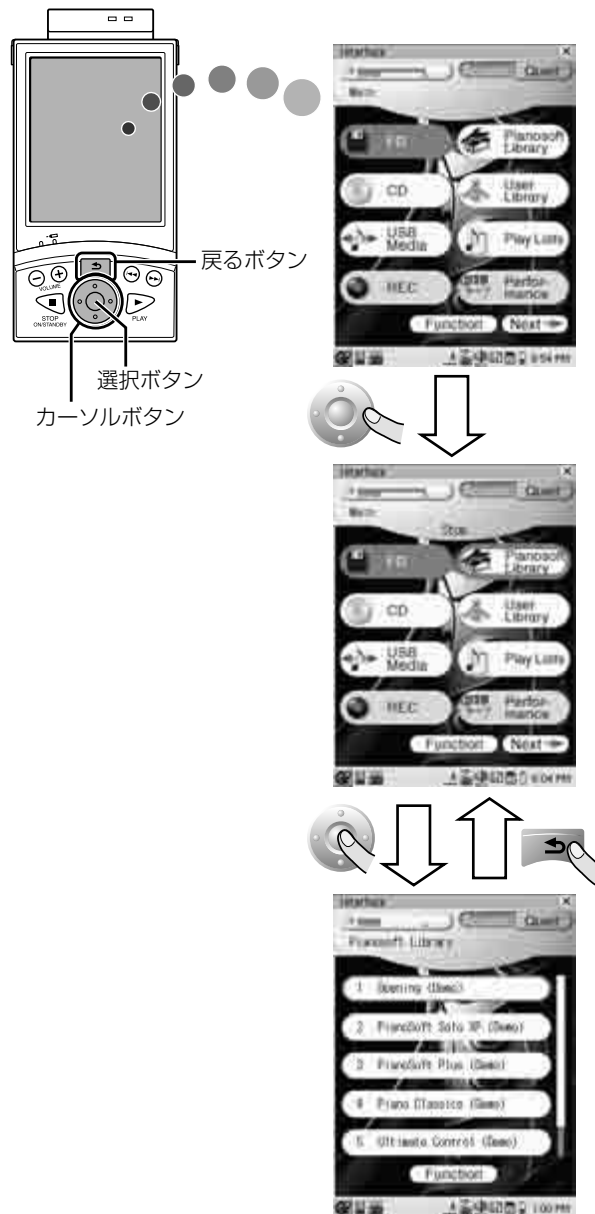
タッチ画面上の実行したい機能のメニューやボタンなどをスタイラスペンでタップします。タップした機能が実行されたり、次のメニューやリストが表示されたりします。



ボタンを使った操作

●（カーソルボタン）を押して実行したい機能のメニューやボタンなどを選び、●（選択ボタン）を押して実行します。

前の画面に戻るには ➡（戻るボタン）を押します。



電源を切る（スタンバイモード）

通常ご使用になる時は、以下の手順で電源を切りスタンバイモードにします。スタンバイモードとは、主要な電源は切れていますが、微量の電力を消費している状態です。

- 1 ^{メイン} Main 画面の **Next** をタップします。



Main 画面は 2 つの画面にわかれていますが。

Next または **Prev** をタップして目的の画面を選びます。



ヒント

Main 画面に戻るには、Main 画面が現れるまで **Back** を何度か押してください。

- 2 **Piano Standby** をタップします。

ポケットコントローラーの電源が切れて、メディアセンターの **STANDBY/ON** が薄暗い緑の点灯に変わります。



ヒント

メディアセンターの **STANDBY/ON** を押しても本機の電源を切ることができます。



ご注意

スタンバイモードでは決して電源プラグをコンセントから抜かないでください。

スタンバイモードから電源を入れるには

Power を押します。

電源を完全に切る

電源プラグをコンセントから抜く前には、以下の手順で必ず本機の電源を完全に切ってください。

- 1 ^{メイン} 必要に応じて Main 画面の **Next** をタップします。

- 2 **Piano Shutdown** をタップします。



- 3 **OK** をタップします。

ポケットコントローラーの電源が切れて、メディアセンターの **STANDBY/ON** が点滅の後消灯します。



ヒント

メディアセンターの **STANDBY/ON** ボタンが点滅をはじめまで押し続けても本機の電源を完全に切ることができます。



ご注意

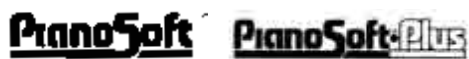
再度、本機の電源を入れる場合は、10 秒以上の間隔をあけてください。

^{メインス} MAINS スイッチについて

長期に渡り本機をご使用にならない場合は、「電源を完全に切る」を行った後、電源供給ユニットと I/O センターの MAINS スイッチをオフにしてください。

本機で再生できるソフト

ピアノソフト、ピアノソフトプラス フロッピーディスク



ピアノソフトやピアノソフトプラスの曲を再生するときには、鍵盤の動きを伴って、ピアノのパートがアコースティックピアノで演奏されます。

ピアノソフトプラスソフトウェアに含まれるアンサンブルパートを内蔵 XG 音源で再生するには、アンプ内蔵スピーカー（別売り）が必要になります。

市販の音楽 CD



アンプ内蔵スピーカー（別売り）を接続すれば、市販の音楽 CD を聴くことができます。つまり本機はステレオ装置の代わりにご使用頂くことができます。

ソングライブラリーと内容

フロッピーディスクや CD の曲、本機で演奏した曲を内蔵ソングライブラリー（PianoSoft Library や User Library、CD Library）に保存（録音）することができます。一度ソングライブラリーに曲を保存すれば、再生する曲を変える度にフロッピーディスクや CD を交換する手間が省けます。（P.48「ソングライブラリーを作る」参照）

Main 画面の ソングライブラリー



ピアノソフトやピアノソフトプラスのソフトウェアフロッピーディスクの曲をここに保存します

本機で録音された曲をここに保存します

お好みの順番で再生するために他のライブラリーの曲をここに登録します



市販の音楽 CD の曲をここに保存します

ソングライブラリーのデモ曲を再生する（再生・一時停止）

本機に収録されているデモ曲の詳細は、P.82の「内蔵デモ曲一覧」を参照してください。

1 本機の電源を入れます。（P.20 参照）



Main 画面

2 メイン画面の **PianoSoft Library** をタップします。



アルバムリスト画面

現在選択されている
ソース * 内のアルバム

* ソースについて詳しくは、P.25の「曲を選択する」を参照してください。

3 お好みのアルバムをタップします。



ソングリスト画面

現在選択されている
アルバム * 内の曲

* アルバムの選択方法については、P.25の「曲を選択する」を参照してください。

4 お好みの曲をタップします。



Song 画面

5 再生ボタンを押して、再生を始めます。

再生を一時停止するには

■ を押します。



ヒント

メディアセンターの **PianoSoft** ボタンを押すと再生を停止することができます。

再生を再開するには

▶ を押します。

次の曲を選択するには

▶▶ を押します。

再生中の曲の頭出しをするには

◀◀ を押し続けます。

前の曲を選択するには

お好みの曲が選ばれるまで、くり返し ◀◀ を押します。



ヒント

現在再生中の曲の Song 画面以外が表示されている場合、◀◀ を押して再生中の曲の画面に戻ることができます。

早送り・早戻しをする

再生中は、聴きたい所になるまで ◀▶ を押し続けます。ボタンを離すと再生が始まります。一時停止中は、聴きたい所になるまで ◀▶ を押し続けます。▶ を押すと再生が始まります。



ヒント

再生中に再生状況バー上で聴きたい所をタップしても、そこから再生を始めることができます。

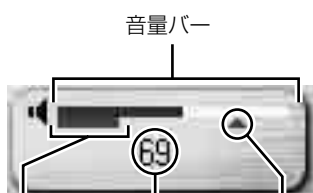


再生ポイント

再生状況バー

全体の音量を調節する

◀ + を押して、全体の音量を調節します。



最小音量表示 音量の数値表示 録音時の音量
(アコースティックモード時のみ)



ご注意

アコースティックモードの時は、全体の音量を最小音量表示よりも小さくすることはできません。* アコースティックモードについては、P.35の「アコースティックピアノとして演奏する（アコースティックモード）」を参照してください。

* 表示上では、音量バーと音量の数値は最小音量を超えて変化しますが、実際の音量はそれ以上変化しません。

曲を選択する

1 フロッピーディスク、CD、USB メディアの曲を再生するとき、それぞれのメディアに対応するメディアセンターのドライブまたはポートに入れます。(P.2、P.18 参照)

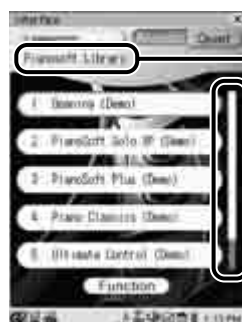
選択できるソース *



Main 画面

* 本書では、フロッピーディスク、CD、USB フラッシュメモリーなどのメディアや、内蔵ソングライブラリーのことをソースと呼びます。

2 メイン画面でお好みのソースをタップします。



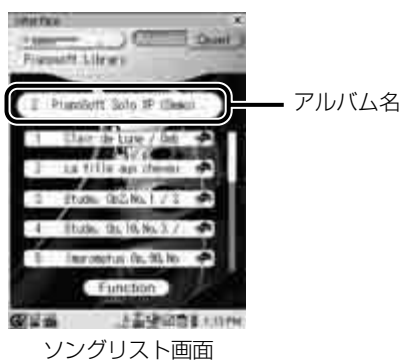
アルバムリスト画面



ヒント

メディアセンターの ◀ ▶ を押してもソースを選択でき、再生を始めることができます。

3 アルバムリスト画面でお好みのアルバムをタップします。



4 ソングリスト画面でお好みの曲をタップします。

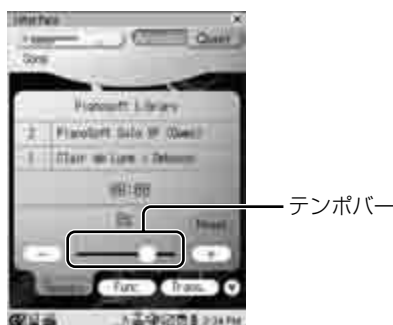


テンポを変えて再生する

難しいピアノパートを、ゆっくりなテンポでじっくり聴いたり練習したりするのに便利な機能です。

1 再生する曲を選びます。(P.25「曲を選択する」参照)

2 ^{ソング} Song 画面の **Tempo** をタップします。



3 **-** / **+** をタップしてテンポを調節し、最後に **Tempo** をタップします。

Tempo の文字表示「^{テンポ}Tempo」の代わりに、テンポの数値が表示されます。

❗ ご注意

テンポ調節画面は約 5 秒操作をしないと、元の Song 画面に自動的に戻ります。

🎵 ヒント

-50% から +20% の範囲を 1% 単位で調節できます。

🎵 ヒント

テンポバー上をタップしてもテンポを調節することができます。

オリジナルのテンポに戻すには

手順 **3** で **Reset** をタップします。

❗ ご注意

音楽 CD の曲はテンポを変えられません。

移調して再生する

より自分に合ったキーの演奏に合わせて歌う時などに便利な機能です。

1 再生する曲を選びます。(P.25「曲を選択する」参照)

2 ^{ソング} Song 画面の **Trans.** をタップします。



3 **-** / **+** をタップしてキーの高さを調節し、最後に **Trans.** をタップします。

Trans. の文字表示「^{トランスポジション}Trans.」の代わりに、移調の数値が表示されます。

❗ ご注意

移調画面は約 5 秒操作をしないと、元の Song 画面に自動的に戻ります。

🎵 ヒント

-24 から +24 (2 オクターブ) の範囲を半音単位で調節できます。

移調をキャンセルするには

手順 **3** で数値を「0」に設定します。

❗ ご注意

音楽 CD の曲を大幅に移調すると、音質が悪くなる場合があります。

繰り返し再生する (リピート再生)

ノンストップで BGM を流す時などに便利な機能です。

1 再生する曲を選びます。(P.25「曲を選択する」参照)



2 Song 画面の [Song] をタップします。

3 [Repeat] をタップします。



4 お好みのリピート再生モードをタップして、最後に [Repeat] をタップします。

[ALL] : 現在のアルバム内の全ての曲をリピート再生します。

[RPT] : 現在の曲のみをリピート再生します。

[RND] : 現在のアルバム内の全ての曲をランダムにリピート再生します。

[Repeat] の文字表示「Repeat」の代わりに、選択されたリピートモードが表示されます。

ⓘ ご注意

リピート設定画面は約 5 秒操作をしないと、元の Song 画面に自動的に戻ります。

リピート再生モードをキャンセルするには

手順 4 で [OFF] をタップします。

聴きたいパートだけを再生する (パートキャンセル)

片手パートだけをじっくり聴きたい時や、本機に片手パートを再生させて、自分でもう片方のパートを練習する時に便利な機能です。また、ピアノの左手、右手パートのほかにペダルパートやアンサンブルパートをキャンセルすることもできます。

ⓘ ご注意

ピアノパートのパートキャンセルは、L/R 対応ソフトあるいはスプリットポイントを設定して録音した曲 (P.41 参照) でのみ機能します。

1 再生する曲を選びます。(P.25「曲を選択する」参照)



2 Song 画面の [Song] をタップします。

3 [Part] をタップします。



👉 ヒント

手順 1 で [Next] をタップしてもこの画面が表示されます。

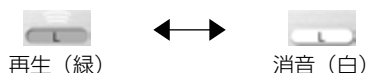
ⓘ ご注意

左手パートのみが録音されている曲の場合、[Part] の文字表示「Part」は [L] と表示されます。

4 目的のパートをタップして設定（再生または消音）を変えます。

タップする度にパートのアイコンの色が以下のように変わり、状態を表示します。

例：左手パートの場合



キャンセルされたピアノパートがあると、
 [Part] の文字表示「Part」の代わりに、キャンセルされていない（再生される）パートが表示されます（L R）。
 [L] [R] []

❗ ご注意

通常、L と R にはピアノが割り当てられていますが、それ以外のパートが割り当てられている場合、表示が黄色になりパートキャンセルの設定を変えることはできません。パートの割当てについての詳細は、P.34 の「再生オプション機能を個々の曲に設定する」を参照してください。

音量バランスを調節する

本機は全体の音量調節の他に、以下のような異なる音源の間で音量のバランスを調節することができます。

ボイス Voice: 鍵盤演奏（Quiet／ヘッドフォンモード時）のピアノパート（電子ピアノ音）* の音量の調節をします。（P.23「再生の基本操作」参照）

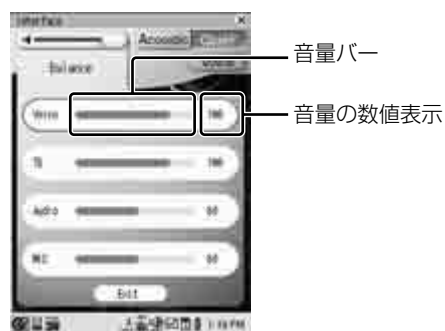
* あらかじめソフトに録音されたピアノパートの音量を調節することはできません。

TG: 本機の内蔵電子音源（トーンジェネレーター：TG）で発音されるアンサンブルパートの音量を調節します。

オーディオ Audio: ソフトウェア（音楽 CD）の音量を調節します。また、ビデオ同期再生時にマイク音声の音量を調節します。

MIC: マイクからの入力音量を調節します。

1 [Balance] をタップします。



Balance コントロール画面

2 目的の音源の音量バー上をタップして、音量を調節します。



ヒント

目的の音源タイトル（Voice、TG、Audio、MIC）をタップし、[] を押しても音量の調節ができます。

3 [Exit] をタップして Balance コントロール画面を消します。



ヒント

本機に接続したマイクの音量を調節するには、P.54 の「マイクを使ったビデオ同期録音」を参照してください。

プレイリストを活用する

内蔵ソングライブラリー（PianoSoft Library、User Library）の中から好みの曲をプレイリストに登録すれば、曲をプレイリストの曲順で連続して再生することができます。

以下の手順で、新しいプレイリストを作成し目的の曲をプレイリストに登録してから、そのプレイリストの曲を再生します。

プレイリストを新規作成する

1 [Main] 画面の [Play Lists] をタップします。

2 [Function] をタップします。 Function メニューが表示されます。

- 3** **Create List** をタップします。



- 4** **Title** をタップします。



途中で入力をキャンセルするには、ここをタップします。

- 5** プレイリストのタイトルを入力します。
タイトルの入力について、詳しくは P.32 の「文字を入力する」を参照してください。

- 6** **OK** をタップします。



- 7** **OK** をタップします。

- 8** 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

お好みの曲をプレイリストに登録する

- 1** CD やフロッピーディスク、USB フラッシュメモリーの曲は、あらかじめ内蔵ソングライブラリ (PianoSoft Library、User Library) に曲をコピーします (P.49「曲またはアルバムをコピーする」参照)。

- 2** お好みの曲を選び (P.25「曲を選択する」参照)、**Func** または **Function** をタップします。
Function メニューが表示されます。

- 3** **Add to PlayList** をタップします。

- 4** 選んだ曲を登録したいプレイリストが表示されていない場合、**PlayList** をタップして、次に登録先のプレイリスト (アルバム) を選びます。



登録をキャンセルするには、ここをタップします。

- 5** **OK** をタップします。

- 6** 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

❗ ご注意

必要に応じて後からプレイリスト (アルバム) 内の曲順を変えることができます。 (P.51「曲またはアルバムの順番を入れ替える」参照)

好きな順番で曲を登録したプレイリストを再生する

上記の方法で作成したプレイリストを選択し (P.25「曲を選択する」参照)、

▶ を押します。

作成したプレイリストを編集する

プレイリストは新しく登録し直したり、タイトルを変更したり、曲順を変えたりするなど、自由に編集することができます。詳しくは P.48 の「ソングライブラリーを作る」を参照してください。

曲の情報を見る／編集する

ソングインフォメーション

曲の情報を見る (Song-Info 画面)

内蔵ソングライブラリーの曲について、以下のような情報を見ることができます。

ソング Song Type:	タイプ ソフトの種類を表示します。
ソング Length:	長さ 曲の長さを表示します。
データ Date:	日時 録音／編集の日時を表示します。
ファイル File Name:	ネーム ファイル名を表示します。
ラスト Last Played:	プレイ 一番最近再生された日付を表示します。
プレイ Play Count:	カウント 総再生回数を表示します。
コピーライト Copyright:	著作権 著作権を表示します。

- 1 目的の曲を選びます。(P.25「曲を選択する」参照)



- 2 ソング Song 画面の **Next** を何回かタップして、次の画面を表示します。



Song Info 画面

曲の情報を見る／編集する (Song-Tag 画面)

内蔵ソングライブラリーの曲について、以下のような情報を編集することができます。

ソング Song Title:	タイトル 曲のタイトルを編集します。
レート Rate:	星の数を変えて任意のランキングを編集します。
コメント Comment:	コメントを編集します。

- 1 目的の曲を選びます。(P.25「曲を選択する」参照)



- 2 ソング Song 画面の **Next** を何回かタップし、次の画面を表示します。



Song-Tag 画面

3 目的の情報のタイトルをタップします。

Song Title と *Comment* の場合

選択された情報の入力欄が表示されます。



途中で編集をキャンセルするには、ここをタップします。

Rate の場合

選択されたタイトル(Rate)がハイライトされます。

4 情報を編集します。

Song Title と *Comment* の場合

情報を編集し、**OK** をタップします。

情報の編集について、詳しくは以下の「文字を入力する」を参照してください。

Rate の場合

🌟を押してランキング(星の数で決まる)を変更します。

❗ ご注意

PianoSoft Library、User Library の曲を、フロッピーディスクや USB フラッシュメモリーなどの外部メディアにコピーする場合、本機で編集した曲の情報はコピーされません。

2 お好みの文字入力モードをタップします。

文字入力モードアイコンが以下のように変わります。

あ : ひらがな入力モード

ア : 全角カタカナ入力モード

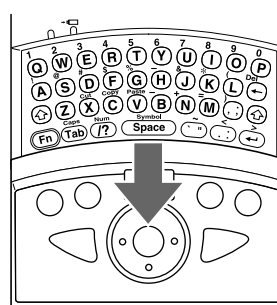
A : 全角英数字入力モード

パ : 半角カタカナ入力モード

A : 半角英数字入力モード

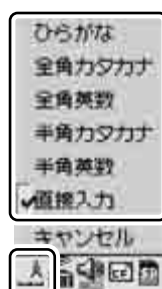
A : 直接入力モード

3 ポケットコントローラーのフロントパネルをスライドして、キーボードを出します。



文字を入力する

1 タスクバーの (文字入力モードアイコン) をタップします。



文字入力モード



文字入力モードアイコン

4 キーを押して文字を入力します。

- Ⓐ ～ Ⓔ 個々のキーの小文字を入力します。
- ⇧ (シフト) Caps ロックがオン (オフ) になっているときは、このキーを押しながら入力すると小文字 (大文字) 入力できます。
- Ⓜ (Fn) 押しながら文字キーを押すと、キーボード上で黄色に表示されている数字やシンボルの入力ができます。
- Ⓜ (Fn) ⇧ (Tab) 入力モードを大文字入力に変更します (Caps ロック)。キャンセルするには、Ⓜ (Fn) ⇧ (Tab) を再度押します。
- Ⓜ (Space) スペースを挿入します。
- ⬅ (バックスペース) カーソルの左側の文字を消去します。
- Ⓜ (Fn) ⬅ (Delete) カーソルの右側の文字を消去します。
- Ⓜ (Fn) /? (Num) 入力モードを数字 / シンボル * 入力モードに固定します (Num lock)。キャンセルするには、Ⓜ (Fn) /? を再度押します。
* キーボード上で黄色で表示されています。
- ⬅ (キャリッジリターン) 新しい行を始めます。
- Ⓜ (Fn) ✕ (Cut) 選択された文字を切り取ります。
- Ⓜ (Fn) ⓒ (Copy) 選択された文字をコピーします。
- Ⓜ (Fn) Ⓥ (Paste) 切り取りまたはコピーされた文字を貼り付けます。



ヒント
入力した文字を修正する場合など文字を選択するには、スタイラスペンで文字をなぞります。

ひらがなや漢字を入力する場合

ローマ字でひらがなを入力し、漢字に変換します。

例：「練習曲」と入力する場合

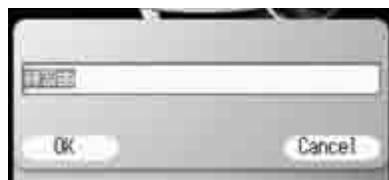
- 1 タスクバーに  (ひらがな入力モード) が表示されていることを確認します。
- 2 RENSYUUKYOKU と各キーを押します。



ヒント

ひらがなのまま入力する場合は、手順 4 に進みます。

- 3  (スペースキー) を押して漢字に変換します。



ヒント

漢字が正しくない場合は、正しい漢字が表示されるまで  (スペースキー) を押します。



ヒント

変換をやり直す文節を選ぶには   を押します。



ヒント

変換範囲を選ぶには、⇧ (シフトキー) を押しながら   を押します。

- 4 ⇨ を押して文字を確定します。



ヒント

漢字に変換中は入力モードアイコンが  と表示されます。



ヒント

入力を間違えたときは ⇧ を押してカーソルの左側の文字を削除します。

再生オプション機能を個々の曲に設定する

あらかじめ再生の仕方を曲ごとに設定することができます。

ピアノ パート チャンネル Piano Part Ch L:

左手パートを割り当てるチャンネル（「01」～「16」）あるいは割り当て無し（「##」）を選びます。

Piano Part Ch R:

右手パートを割り当てるチャンネル（「01」～「16」）あるいは割り当て無し（「##」）を選びます。

ピアノ ベロシティ カーブ Piano Velocity Curve:

電子音源で再生するために制作された MIDI データをアコースティックピアノで再生する場合に、音質（Soft80（硬い音）～Soft40（柔らかい音）あるいは Thru（調節なし））を調節します。

メイン ボリューム アジャスト Main Volume Adjust:

全体の音量を調節します。

オーディオ ボリューム アジャスト Audio Volume Adjust:

音楽 CD の音量を調節します。

オーディオ ピッチ アジャスト Audio Pitch Adjust:

音楽 CD の音程を調節します。



ヒント

1 cent は半音の 1/100 音程を表します。

スキップ Skip:

アルバム内の一連の曲を再生中に、その曲がスキップされるかどうかを設定します。

1 設定する曲を選びます。（P.25「曲を選択する」参照）



2 ソング Song 画面の ◀ Prev をタップして、次の画面を表示します。



Song-Option 画面

3 設定するオプションのタイトルをタップします。

選択されたタイトルがハイライトされます。

4 左右の矢印を押してお好みのオプションまたはレベルを選択し、選択ボタンを押します。

5 ▶ Next をタップして元の画面に戻ります。

❗ ご注意

設定された再生オプションは、本機の電源を切っても保存されます。

本機は最新技術を活かした多彩な機能を備えたピアノですが、この章では基本的なピアノの演奏方法を紹介しています。まずは鍵盤を弾きます。

アコースティックピアノとして演奏する (アコースティックモード)

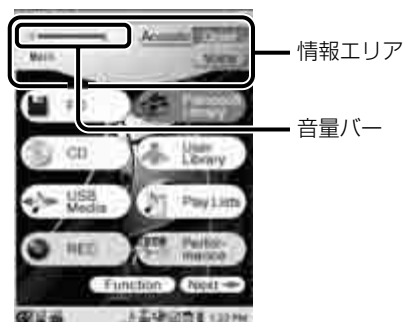
普通のピアノを弾くように鍵盤を弾いてください。本機の電源を入れる必要はありません。
本機の電源が入っているときは、情報エリアの **Acoustic** をタップして赤にします。



電子ピアノ音で演奏する クワイエット (Quiet モード)

アンプ内蔵スピーカー（別売り）を接続すると、普通のピアノを弾くよりもさらに小さな電子ピアノ音で演奏することができます。Quiet モードではアコースティックのピアノ音が消音され電子ピアノのようにスピーカーより電子音が聴こえますので、演奏の音量をお好みに合わせるすることができます。

1 本機の電源を入れます。(P.20 参照)



2 情報エリアの **Quiet** をタップして、 クワイエット Quiet モードにします。

ボタンと音量バーの色が青に変わります。



メディアセンターの **QUIET** を押しても Quiet モードにすることができます。

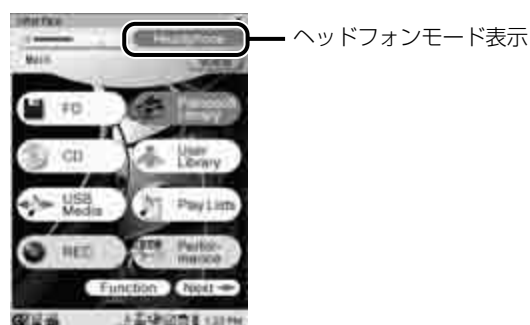
3 演奏を始めます。 スピーカーから電子ピアノ音が聴こえます。 Quiet モードを解除するには情報エリアの **Acoustic** をタップします。 ボタンと音量バーの色が赤に変わります。



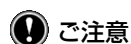
メディアセンターの **QUIET** を押しても Quiet モードを解除することができます。

ヘッドフォンを使う (ヘッドフォンモード)

- 1 本機の電源を入れます。(P.20 参照)
- 2 付属のヘッドフォンをメディアセンター
フォーンズ
下側の PHONES 端子に接続します。
(P.2 参照)



3 演奏を始めます。 アコースティックのピアノ音が消音され、電子ピアノ音がヘッドフォンから聴こえるようになります。



同じ種類のヘッドフォンなら同時に 2 本まで使うことができます。

クワイエット

Quiet モード / ヘッドフォン モードで演奏音量を調節する

- ① **+** を押して、音量を調節します。



クワイエット

Quiet モード / ヘッドフォン モードで演奏の音色を選択する

Quiet モードやヘッドフォンモードのとき、内蔵の電子音源の様々な音色を使ってピアノの鍵盤演奏を行うことができます。(P.73「電子ピアノの音色一覧」参照)

- 1 情報エリアの **Voice** をタップします。



Voice 画面

一度に表示できない音色を表示させるには、バーのいずれかの端をタップします。

- 2 お好みの音色をタップします。

- 3 **Exit** をタップして ^{ボイス} Voice 画面を消します。

メトロノームに合わせて演奏する

本機内蔵のメトロノームを使って、一定のテンポで演奏する練習をすることができます。

メトロノームは以下のオプションを調整することができます。

Tempo: メトロノームのテンポを調節します。

Beat: メトロノームの拍子を調節します。

Volume: メトロノームの音量を調節します。

❗ ご注意

Tempo の数値は 1 分間にカウントされる 4 分音符の回数を表します。また Beat は常に 4 分音符でカウントされるので、4 分音符の拍子の曲でない場合は Tempo の数値を 4 分音符用に換算してください。

1 メイン画面の **Metronome** をタップします。2 **Metronome** をタップしてメトロノームをスタートさせます。

Metronome が青に変わります。

メトロノームを止めるには

Metronome をタップします。

3 設定したいオプションの **-** / **+** をタップして調整します。

テンポを初期設定に戻すには

Reset をタップします。

4 **Exit** をタップして操作を終了します。

ピアノパートに別の音色を重ねて演奏する(パフォーマンスモード)

ピアノ演奏に内蔵電子音源の音色をユニゾンで重ねて鳴らすことができます。最大で 2 つの音色を右手パートに、1 つの音色を左手パートに重ねることができます。お好みに合わせてピアノパート自体の音を消すこともできます。

1 メイン画面の **Performance** をタップします。

タップしてスプリットポイント（鍵盤を左／右手パートに分けるキー）を変更します。（手順 3 参考）

音色名

左手ユニゾンパート、右手ユニゾンパート 1、右手ユニゾンパート 2 をオン／オフします。

2 **L**、**R1** あるいは **R2** をタップして、各パートのユニゾン用音色をオン／オフします。

L、**R1** あるいは **R2** をタップする度にオンのパートは青になり、オフのパートは黄色になります。

3 必要に応じて **SplitPoint** をタップして、次に **SplitPoint** を押してスプリットポイントを選択します。（スプリットポイントにできるのは A-1 から C7 のキーです。）

スプリットポイントに設定された音とそれより低い音は左手パートとなり、スプリットポイントより高い音は右手パートとなります。

❗ ご注意

スプリットポイントは **L** がオン（青）の時のみ設定できます。また、この時 **R1** または **R2** がオン（青）になっていないと設定したスプリットポイントより高い音は発音されません。

4 設定を変えたいパートの音色名をタップします。



5 お好みの音色をタップします。

❗ ご注意

音色を AEM Section グループから選ぶことはできません。

6 ^{ボリューム} Volume をタップして、選択された音色の音量を調節します。

7 をタップして操作を終了します。

アコースティック／電子ピアノの音を消すには
手順 1 の画面で  をタップしてボタンの色を黄に変わります。 をタップする度にオン（赤）／オフ（黄）が交互に変わります。

❗ ご注意

パフォーマンスモードの設定後に曲の再生をすると、パフォーマンスモードは自動的に解除されます。

ペダルを使って演奏に表情を加える

Quiet モードまたはヘッドフォンモードで、^{ブラス}AEM Brass、^{サクセス}AEM Saxあるいは^{セクション}AEM Sectionグループの音色が選択されている時、ペダルを踏むことで木管、金管楽器に特有の発音表現（奏法）を加えることができます。3種類の発音表現（奏法）が3本のペダルに割り当てられています。

ソフトペダル：

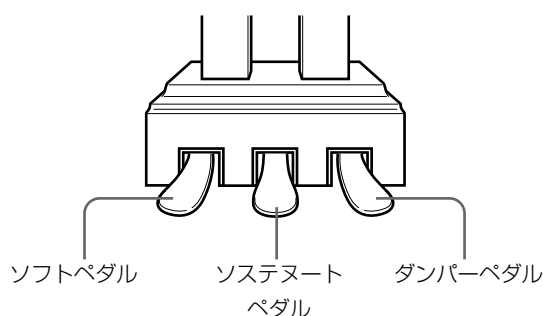
音の立ち上がりに表情を加えます。（ベント奏法）

ソステヌートペダル：

2つの音の間を表情を加えてつなぎます。（ジョイント奏法）

ダンパーペダル：

消えてゆく音に表情を加えます。（フォールダウン奏法）



❗ ご注意

パフォーマンスモードでは、これらの発音表現を加えることはできません。

1 ^{ブラス}AEM Brass、^{サクセス}AEM Saxあるいは^{セクション}AEM Sectionグループの中から好みの音色を選びます。（P.73「電子ピアノの音色一覧」、P.35「Quiet モード / ヘッドフォンモードで演奏の音色を選択する」参照）

2 鍵盤とペダルを操作します。

鍵盤とペダルの操作は奏法の種類によって異なります。

ベント奏法（音の立ち上がりの表現）

- ソフトペダルを踏みながら、鍵盤を弾きます。踏み込んだペダルの角度に応じてベントのスピードが調節されます。

ジョイント奏法（2 音をつなぐ表現）

- 1 最初の鍵盤を弾きます。
- 2 ソステヌートペダルを踏みながら、2 つ目の鍵盤を弾きます。
2 つの音がグリッサンドでつながったように聴こえます。



ヒント

この奏法は 2 つの音が 1 オクターブ離れている場合に最も効果があります。

⚠️ ご注意

2 音の音程が 1 オクターブより狭すぎたり広すぎたりすると、この奏法の効果がない場合があります。

フォールドダウン奏法（音が消える前の表現）

- 1 鍵盤を弾きます。
- 2 鍵盤が押されている間にダンパーペダルを踏みます。
- 3 ダンパーペダルを離すと、音程が 1 オクターブ下がり音が消えます。



ヒント

ダンパーペダルをすぐに放すと、効果は短くなります。ダンパーペダルをゆっくり放すと、効果は長くなります。

⚠️ ご注意

（鍵盤ではなく）ダンパーペダルを放すと効果がかかり始め、最後に音が消えます。

主旋律に和音を加える （ハーモニーモード）

Quiet モードやヘッドフォンモードでは、スプリットポイントよりも高い鍵盤（右手パート）で演奏される主旋律に和音を追加できます。この和音はスプリットポイントおよびそれより低い鍵盤（左手パート）で弾いた音 * に基づいて構成されます。

* 和音は 3 音までの音で構成されます。

⚠️ ご注意

このモードでは、スプリットポイントおよびそれより低い鍵盤で弾いた音は発音しません。

ハーモニーモードを設定する

スプリットポイントの位置を決め、和音と主旋律の音量バランスを調整できます。

- 1 ^{メイン} Main 画面の  をタップして、次に  をタップします。



- 2 ^{スプリットポイント} Split Point をタップして、次に  を押してスプリットポイントを選びます。
- 3 ^{ボリューム} Volume をタップして、次に  を押して追加される和音の音量バランスを調節します。
- 4  を 2 回タップして、操作を終了します。

ハーモニーモードで演奏する

1 クワイエット
Quiet またはヘッドフォンモードにします。(P.35「演奏の基本操作」参照)

2 情報エリアの **Voice** をタップします。



3 **Harmony** をタップして、ハーモニーモードをオンにします。

Harmony が青に変わります。

ハーモニーモードをオフにするには

Harmony をタップします。

4 **Exit** をタップして、**Voice** 画面を消します。

5 スプリットポイントあるいはそれより低い鍵盤で和音を弾き、スプリットポイントより高い鍵盤で主旋律を弾きます。

❗ ご注意

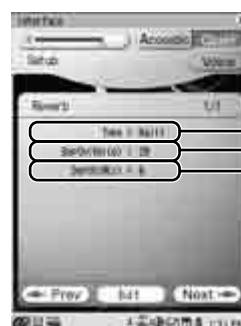
電子ピアノ音が AEM-Brass Section または AEM-Sax Section の場合、左手パートで弾いた音に基づいて和音が発音されますが、左手パートを弾いていない場合は単音になります。

電子ピアノ音に残響効果を加える

ピアノの音は演奏される部屋の規模に応じて残響（リバーブ）が異なり、音の響き方が違ってきます。このリバーブを調節することで、電子ピアノの音をまるでコンサートホールで演奏しているかのように聴かせることが可能になります（Hall 1-2*）。この効果はマイクの入力音にも加えることができます。

* ^{ホール}Hall の他に、室内の残響をシミュレートした ^{ルーム}Room 1-3、ステージ上の残響をシミュレートした ^{ステージ}Stage 1-2、箱の中にぶら下げた鉄板（プレート）にスピーカーから音を当てて起こるような残響の ^{プレート}Plate が用意されています。

1 ^{メイン}Main 画面の **Setup** をタップして、次に **Reverb** をタップします。



リバーブの種類を選択します。
電子ピアノ音のリバーブの深さを調節します。
マイクの入力音のリバーブの深さを調節します。

2 ^{タイプ}Type をタップして、お好みのリバーブの種類をタップし、最後に **Close** をタップします。

3 ^{デプス}Depth (^{ボイス}Voice) あるいは ^{デプス}Depth (^{マイク}Mic) をタップし、次に を押してリバーブの深さを調節します。

4 **Exit** をタップして、操作を終了します。

ピアノの演奏を録音する

サイレントアンサンブルピアノで演奏した曲は **User Library** に録音することができ、再生も簡単にできます。また、ピアノを左／右手パートに分けて別々に録音することもできます。

- 1** メイン Main 画面の **REC** をタップします。
自動的に新しい曲が表示されます。

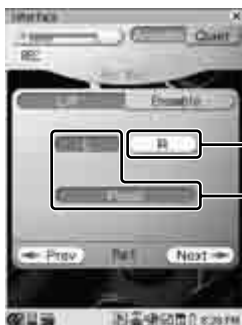


ヒント

アルバムがない場合は、自動的に新しいアルバムも表示されます。

アルバムがある場合は、選択されているアルバムに新しい曲が録音されます。新しいアルバムを作することもできます。(P.48「ライブラリーにアルバムを作る」参照)

- 2** **New Song** をタップします。



白いパートは録音されません。
赤いパートは録音されます。

- 3** 録音するパート (**L**、**R** または **Pedal**) をタップして設定 (録音する／しない) を変えます。

パートをタップする度に、設定が交互に変わります。

左手パートと右手パートを同時に録音する時は全てのパートを録音パート (赤) に設定して、手順 **4** に進みます。



パートを分けずに録音する時は

L と **Pedal** を録音パート (赤) に設定して、手順 **5** に進みます。

- 4** スプリットポイント **Split Point** をタップして、次に **Split Point** を押してスプリットポイントを選択します。

スプリットポイントに設定された音とそれより低い音は左手パートとなり、スプリットポイントより高い音は右手パートとなります。

ヒント

ピアノの最低音は A-1、最高音は C7 と表示されます。

- 5** **Recording** を押し、情報エリアに **Recording** が表示されたのを確認してから演奏を始めます。

演奏開始に合わせて録音が始まります。

ご注意

ビデオ同期機能がオンになっている場合 (P.52「ビデオ同期録音」参照)、**Recording** を押すと録音が始まります。



経過時間カウンターが進み始めます。

6 演奏を終え、を押して録音を止めます。

❗ ご注意

フロッピーディスク、CD、USB フラッシュメモリーに直接、録音することはできません。
本体に一旦録音してから、コピーしてください。
(P.49「曲またはアルバムをコピーする」参照)

録音された曲を再生するには

を押します。

左手パートと右手パートを別々に録音する（上書き録音）

録音済みの曲に、後からパートを選んで上書きすることができます。例えば、あらかじめ左手パートを録音して、その曲に後から右手パートを上書き録音をすれば、両パートをひとつの曲にすることができます。また、両パートとも録音済みの曲で片方のパートだけを録音し直すこともできます。

1 あらかじめ、片パートを録音します。 (P.41「ピアノの演奏を録音する」参照)

最初の録音では、先に録音するパートだけを録音パート（赤）に設定します。



以前に録音した曲に上書き録音する場合は、上書きする曲を選択してください。(P.25「曲を選択する」参照)

2 をタップして、次に をタップします。

3 上書き録音したいパート（、 または ）をタップして録音パート（赤）に設定します。



録音済のパート（緑）も未録音パートと同様に上書き録音することができます。

4 を押します。

録音が始まり、あらかじめ録音されたパートの再生も始まります。



経過時間カウンターが進み始めます。

5 再生されているパートに合わせて演奏を始めます。

6 演奏を終え、を押して録音を止めます。



7 （録音済みの曲に上書き保存）か （新規録音の曲として保存）をタップして録音方法を選び終了します。

録音をキャンセルするには

をタップします。

クイック録音

メディアセンターのボタン操作だけで、すばやく録音を始めることができます。新しい曲は **User Library** 内の選択されているアルバムの最後の曲として追加録音されます。

1 メディアセンターの **REC** を押します。

REC が赤に点灯し、**User** が緑に点滅します。

録音をキャンセルするには

REC を押します。

2 **User** を押して、録音を始めます。

User の緑の点滅が止まり、点灯したままになります。

3 演奏を始めます。

4 演奏を終え、**REC** または **User** を押して録音を止めます。

REC と **User** が消灯します。

録音した曲を直後に再生するには

User を押します。

録音を始める時にタイトルを付ける

録音手順の流れの中で、録音を始める時にタイトルを付けることができます。また、録音が済んだ後にタイトルを付けることもできます。(P.31「曲の情報を見る／編集する」参照)

1 「ピアノの演奏を録音する」の手順 1 から手順 2 を実行します。(P.41 参照)



2 **Prev** をタップします。



曲タイトルエリア

3 曲タイトルエリアをタップし、曲に名前を付け (P.32「文字を入力する」参照)、次に **OK** をタップします。

操作をキャンセルするには

Cancel をタップします。

⚠️ ご注意

本機でタイトルを付けた曲を、フロッピーディスクや USB フラッシュメモリーなどの外部メディアにコピーする場合、タイトル情報はコピーされません。

CD 同期録音

市販の音楽 CD の再生に合わせた本機の演奏を User Library に録音することができます。また、この機能を使って最後まで曲を録音すると、一緒に再生した CD の曲が自動的に CD Library にコピーされるので、CD 同期録音した曲を再生する度に CD を用意する必要がなくなります。

❗ ご注意

曲の途中で CD 同期録音を止めた場合、再生していた曲は CD Library にコピーされません。

1 必要に応じて同期録音する CD を挿入します。(P.19「CD の挿入」参照)



ヒント

CD Library にあらかじめコピーした CD の曲に合わせて同期録音することもできます。

2 目的の曲を選択します。(P.25「曲を選択する」参照)

3 ^{ソング} Song 画面の **Func** または **Function** をタップして、次に **SPS REC** をタップします。

ヒント

録音するパートを設定する場合、**New Song** をタップして、次に録音パートを設定してください。(P.42 参照)

4 を押し、CD の再生に合わせて演奏を始めます。

録音が始まります。

5 演奏を終え、 を押して録音を止めます。

CD 同期録音の曲を再生するには

CD 同期録音の曲を選択して (P.25「曲を選択する」参照)、 を押します。

アンサンブルパートを録音する

普通にピアノ演奏を録音するだけでなく、ピアノとは別の音色で演奏したパートを、アンサンブルパートとしてピアノパートに重ねて録音することができます。(ピアノの音色でアンサンブルパートを録音することもできます。)

アンサンブルパート録音とトラック

本機で演奏したピアノパートあるいはアンサンブルパートは MIDI データとして記録されます。MIDI データは 16 のトラック (チャンネル) に分かれており、各トラックにはひとつの音色でひとつのパートが割り当てられています。(例えてみれば、16 段の楽譜で書かれた曲のようなものです。) 通常ピアノの左手パート (ハーフペダル情報付き) はトラック 1 に、右手パート (ハーフペダル情報付き) はトラック 2 に、残りのトラックにはアンサンブルパートやリズムパートなどを割り当てます。

1 ^{クワイエット} Quiet モードまたはヘッドフォンモードにします。(P.35 参照)

2 アンサンブルパート録音する曲を選びます。(P.25「曲を選択する」参照)

3 **Func** をタップして、次に **SPS REC** をタップします。4 **Ensemble** をタップします。

トラックインフォメーション

選択したトラック

トラックインフォメーション中のトラック番号は、録音状況により以下のように色分けされています。

黒： 録音パート有り
 グレー： 録音パート無し
 白背景： ピアノパート
 下線： リズムパート

- 5** トラックインフォメーションの中からアンサンブルパートを録音するトラック番号をタップします。



ヒント

Track をタップし、次に を押して目的のトラック番号を選ぶこともできます。

- 6** ^{ボイス} Voice をタップして、次にお好みの音色をタップします。



一度に表示できない音色を表示させるには、バーのいずれかの端をタップします。



ヒント

あらかじめ P.73 の「アンサンブルパートの音色一覧」を参照してお好みの音色の番号を調べておけば、音色の選択がすばやくできます。

Number をタップして次の画面を表示します。



キーボードを使って音色番号を入力し、**OK** をタップします。(P.32「文字を入力する」参照)

- 7** **Close** をタップします。

- 8** ^{ボリューム} Volume をタップして、次に を押してアンサンブルパートの音量を調節します。

- 9** を押し、曲の再生に合わせて演奏を始めます。

録音が始まります。

- 10** 演奏を終え、 を押して録音を止めます。

- 11** **Save** (録音済みの曲に上書き保存) か **NEW** (新規録音の曲として保存) をタップして録音方法を選び終了します。

録音をキャンセルするには

Cancel をタップします。

演奏を上書き録音せずに音色やボリュームだけを上書きするには

手順 **1** から操作を始めますが、手順 **9** (演奏手順) を行わず、手順 **10** で を押して、手順 **11** に進みます。

既存の録音に演奏を重ね録りする (オーバーダビング)

録音済みの曲からトラック (パート) を選んで、そこに演奏を追加 (多重録音) * することができます。

* 多重録音した曲を再生すると、既存の曲と追加した演奏の両方が混ざり合って聞こえます。

- 1** 重ね録りをする曲を選択します。(P.25「曲を選択する」参照)

- 2** **Func** をタップして、次に **Re-REC** をタップします。



- 3** 重ね録りするトラック (パート) を選びます。

ピアノパートに重ね録りするには

重ね録りするパート (緑) をタップして録音パート (赤) に設定します。(P.42「左手パートと右手パートを別々に録音する (上書き録音)」参照)

アンサンブルパートに重ね録りするには

Ensemble をタップして、次にトラックインフォメーションから重ね録りするトラック番号（黒文字）をタップします。（P.44「アンサンブルパートを録音する」参照）

**ヒント**

リズムパートに重ね録りする場合は、手順 6 に進みます。（リズムパートのトラックがタップされると、Overdub 設定は自動的に ON になります。）

4 **Next** を 2 回タップします。**5** **オーバーダビング Overdub** をタップして、次に **ON** を選びます。**6** **▶** を押します。
録音済みの曲の再生が始まります。**7** 再生中の曲に合わせて演奏を始めます。**8** 演奏を終え、**■** を押して録音を止めます。**9** **Save**（録音済みの曲に上書き保存）か **NEW**（新規録音の曲として保存）をタップして録音方法を選び終了します。**録音をキャンセルするには**

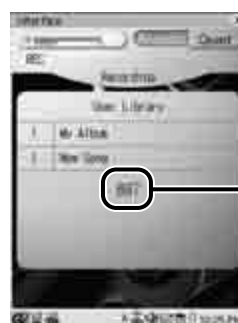
Cancel をタップします。

ヒント

重ね録りではなく、置き換え（既存の録音を破棄して追加演奏のみを記録する）する場合は手順 5 で OFF を選びます。

小節・拍を基準に録音する（メトロノームモード録音）

本機では、曲の経過時間を基準に演奏を録音する時間モード録音か、小節・拍を基準に録音するメトロノームモード録音を選ぶことができます。メトロノームモードで録音すると、追加録音をする際など、内蔵のメトロノームに合わせてタイミング良く演奏を始めたり、すでに録音された演奏を違ったテンポに変更（録音データ自体を編集）することができます。

新規に録音する場合**1** メトロノームを設定します。（P.37「メトロノームに合わせて演奏する」手順 1、3 参照）**2** **New REC** をタップして、次に **New Song** をタップします。**3** **▶** を押します。**4** メトロノームに合わせて演奏を始めます。
録音が始まります。

小節番号カウンターが進み始めます。

5 演奏を終え、**■** を押して録音を止めます。

既存の録音に演奏を上書き録音する場合

- 1 上書き録音する曲を選び (P.25「曲を選択する」参照)、**Func** をタップします。
- 2 **Re-REC** をタップします。
- 3 上書き録音するパートを設定します。
(P.42「左手パートと右手パートを別々に録音する (上書き録音)」、P.44「アンサンブルパートを録音する」参照)
- 4  を押します。
- 5 メトロノームに合わせて演奏を始めます。
録音が始まります。
- 6 演奏を終え、 を押して録音を止めます。
- 7 **Save** (録音済みの曲に上書き保存) か **NEW** (新規録音の曲として保存) をタップして録音方法を選び終了します。

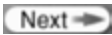
録音をキャンセルするには

Cancel をタップします。

既存の録音のテンポを変更する

録音済みの曲に、テンポを変えて演奏を上書き録音することができます。変更後のテンポが、再生する際のオリジナルテンポになります。

- 1 上書き録音する曲を選び (P.25「曲を選択する」参照)、**Func** をタップします。
- 2 **Re-REC** をタップします。
- 3 上書き録音するパートを設定します。
(P.42「左手パートと右手パートを別々に録音する (上書き録音)」、P.44「アンサンブルパートを録音する」参照)

- 4 **Next**  をタップします。

時間モード録音曲の場合



メトロノームモード

録音曲の場合



ヒント

時間モード録音曲をメトロノームモードに変更したり、メトロノームモード録音曲を時間モードに変更することもできます。

- 5 テンポ **Tempo** の **-** / **+** をタップしてテンポを調整します。

変更前のテンポに戻すには

Reset をタップします。



ご注意

メトロノームモード録音曲の場合、^{ビート}Beat の変更はできません。

- 6  を押します。

- 7 曲の再生やメトロノームに合わせて演奏を始めます。
録音が始まります。

- 8 演奏を終え、 を押して録音を止めます。

- 9 **Save** (録音済みの曲に上書き保存) か **NEW** (新規録音の曲として保存) をタップして録音方法を選び終了します。

録音をキャンセルするには

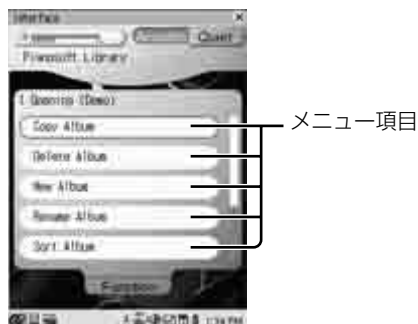
Cancel をタップします。

演奏を上書き録音せずにテンポだけを上書きするには

手順 1 から操作を始めますが、手順 3、6、7 (演奏手順) を行わず、手順 8 で  を押して、手順 9 に進みます。

Function メニューにある以下の機能はソングライブラリー（PianoSoft Library、CD Library、User Library）と Play Lists に保存された曲を整理するのに便利な機能です。（P.29「プレイリストを活用する」参照）

例：PianoSoft Library のアルバムリストで操作できる Function メニュー



❗ ご注意

以下の手順で Play Lists の操作をしている時は、本文中では「アルバム」を「リスト」、画面のメニュー項目中では「Album」を「List」と読み替えてください。

❗ ご注意

メニュー項目は Function 画面を表示する場面によって異なります。

Function メニュー画面を消すには

Function をタップ、あるいは **⏮** を押してください。

ライブラリーにアルバムを作る

この機能は PianoSoft Library、User Library、または Play Lists で利用できます。

1 目的のソースを選び（P.25「曲を選択する」参照）、**Function** をタップします。

2 **New Album** をタップします。

❗ ご注意

Play Lists の操作をしている時は、**Create List** をタップします。

例：アルバムを作る場合



アルバム作成をキャンセルするには、ここをタップします。

新しいアルバムに名前をつけるには

P.49の「アルバム名を変更する」の手順 **3** を参照してください。

3 **OK** をタップします。

4 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

アルバム名を変更する

この機能は全てのソングライブラリーと Play Lists で利用できます。

- 1 目的のアルバムを選び (P.25「曲を選択する」参照)、**[Function]** をタップします。

- 2 **Rename Album** をタップします。

❗ **ご注意**

Play List の操作をしているときは

Rename List をタップします。



アルバム名の変更操作 (手順 3) をキャンセルするには、ここをタップします。

- 3 **Title** をタップしてアルバム名を変更して (P.32「文字を入力する」参照)、次に **OK** をタップします。



- 4 **OK** をタップします。

- 5 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

曲またはアルバムをコピーする

この機能は CD Library と Play Lists 以外で利用できません。

- 1 目的の曲またはアルバムを選び (P.25「曲を選択する」参照)、**[Func]** または **[Function]** をタップします。

- 2 **Copy Song** (曲をコピーする時) または **Copy Album** (アルバムをコピーする時) をタップします。

例：曲をコピーする場合



コピー操作 (手順 3) をキャンセルするには、ここをタップします。

- 3 選択された曲またはアルバムをコピーします。

曲をコピーする場合：

- 1 必要に応じて **Source** をタップして、次に表示されたリストの中からコピー先のソースをタップします。



一度に表示できない曲またはアルバムがある場合に表示されます。表示されていない曲またはアルバムを選ぶには、バーのいずれかの端をタップします。

ソースの選択をキャンセルするには、ここをタップします。

- 2 必要に応じて **Album** をタップして、次にリストの中からコピー先のアルバムを選びます。そして手順 4 に進みます。

アルバムをコピーする場合：



Source をタップして、次に表示されたリストの中からコピー先のソースをタップします。そして手順 4 に進みます。

4 **OK** をタップします。

5 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

メディアやソングライブラリーの全てのコンテンツをコピーする

この機能は CD Library と Play Lists 以外で利用できません。

1 目的のソースを選び (P.25 「曲を選択する」参照)、**Function** をタップします。

2 **Copy All** をタップします。



コピー操作をキャンセルするには、ここをタップします。

3 必要に応じて **Source** をタップして、次に表示されたリストの中からコピー先のソースをタップします。

4 **OK** をタップします。

5 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

曲またはアルバムを削除する

この機能は全てのソングライブラリーと Play Lists で利用できます。

1 目的の曲またはアルバムを選び (P.25 「曲を選択する」参照)、**Func** または **Function** をタップします。

2 **Delete Song** (曲を削除する時) または **Delete Album** (アルバムを削除する時) をタップします。



ご注意

Play List の操作をしているときは **Delete List** をタップします。

例：曲を削除する場合



削除をキャンセルするには、ここをタップします。

3 **OK** をタップします。

4 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

曲またはアルバムの順番を入れ替える

この機能は全てのソングライブラリーと Play Lists で利用できます。

- 1 目的の曲またはアルバムを選び（P.25「曲を選択する」参照）、**Func** または **Function** をタップします。
- 2 **Sort Song**（曲を入れ替える時）、**Sort Album**（アルバムを入れ替える時）または **Sort List**（プレイリストを入れ替えるとき）をタップします。

例：曲を入れ替える場合



並び替え操作（手順3）をキャンセルするには、ここをタップします。

- 3 ▲ または ▼ をくり返しタップして、選んだ曲やアルバムを目的の順番に移動します。
- 4 **OK** をタップします。
- 5 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

フロッピーディスクをフォーマット（初期化）する

フロッピーディスクをフォーマットすると、記録されていた曲は全て削除されます。

- 1 フォーマットするフロッピーディスクを、プロテクトオフ（録音可）にしてからフロッピーディスクドライブに挿入します。（P.18「フロッピーディスクと CD を使う際の基本注意事項」参照）
- 2 ^{メイン} Main 画面の **FD** をタップして（P.25「曲を選択する」参照）、次に **Function** をタップします。

- 3 **Format FD** をタップします。



フォーマットをキャンセルするには、ここをタップします。

- 4 **OK** をタップします。
- 5 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップします。

⚠ ご注意

アクセスランプが点滅または点灯している間は、フロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスクとフロッピーディスクドライブが破損する可能性があります。

ビデオ同期機能を使うと、ピアノ演奏の録音時にビデオカメラで撮影した映像を、ピアノ演奏と同期*して再生することができます。演奏者の姿勢や指づかい、指・手首の動き、腕の使い方などの映像付きで演奏を再生することによって、演奏をよりリアルに再現することができます。また、演奏を録画・録音したビデオテープとフロッピーディスク（MIDI データ）をやりとりすることで、遠隔地とのレッスンに役立てることができます。

* ビデオとピアノ演奏を同時に再生する時に、映像が演奏に遅れて（または進んで）再生されることなく、自然に見えること。



ビデオ同期録音に使用するビデオカメラについて

ビデオカメラを使って本機でビデオ同期録音を行う場合（DVD レコーダーを使わない接続の場合）、オーディオ出力端子・MIC/LINE 入力端子のあるビデオカメラが必要です。

新規にビデオカメラをお求めの際は、これらの端子の有無をご確認ください。

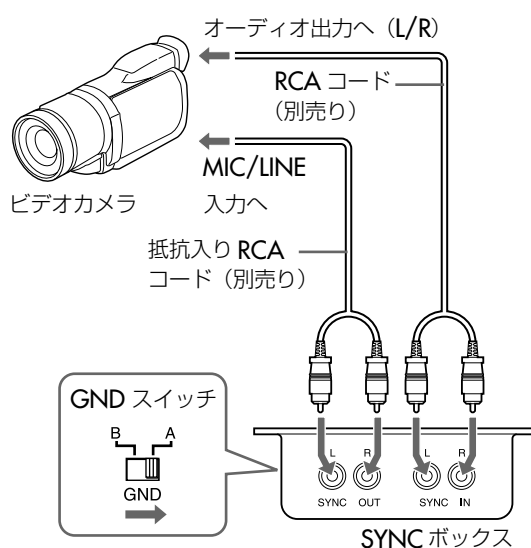
MIC/LINE 入力端子がないビデオカメラをお持ちの場合は、P.53「DVD レコーダーを使ったビデオ同期録音」の接続方法でビデオ同期録音を行ってください。

ビデオ同期録音

最初にビデオカメラと本機を準備し、以下の手順で録音を始めてください。

ビデオカメラと本機を準備する

- 1 ビデオカメラを ^{シンクロ} SYNC ボックスと接続し、^{グラウンド} GND スイッチを A の位置にします。



ヒント

P.53「DVD レコーダーを使ったビデオ同期録音」もご覧ください。



ご注意

録音時に SYNC OUT のみ結線する場合や、再生時に SYNC IN のみ結線する場合には、ビデオカメラの仕様により雑音が発生することがあります。このような場合には GND スイッチを B の位置にしてください。

- 2 ^{メイン} Main 画面の  をタップして、次に  をタップします。



次ページにつづく ...

3 **SYNC** をタップして、ビデオ同期をオンにします。

SYNC をタップする度に、ビデオ同期の設定はオン（青）／オフ（黄）と交互に変わります。

4 必要に応じて **SyncLevel** または **Offset** をタップして、次に を押して数値を調整します。

Sync Level: 通常この設定を行う必要はありません。ビデオ同期再生中に、本機に接続したマイク音声（「マイクを使ったビデオ同期録音」参照）にビデオ同期信号が混じって聞こえる場合は、この数値をマイナス方向に調節してからビデオ同期録音をやり直します。

Offset: ビデオ同期再生中に、映像が演奏より遅れて再生される場合には、再生しながらこの数値をマイナス方向に調節します（-30～-40で同期する場合があります）。



ヒント

本機でビデオ同期録音をすると、本機とビデオカメラを同期させるための同期信号（ピーという音）がビデオのオーディオチャンネル（右）に録音されます。

5 **Exit** をタップして操作を終了します。

ビデオ同期録音を始める

1 **メイン** Main 画面が表示されるまで を何回か押し、次に をタップします。

2 ビデオカメラで録画を始めます。

3 情報エリアに **レコーディングウェイト** Rec Wait が表示されたのを確認してから、 を押します。

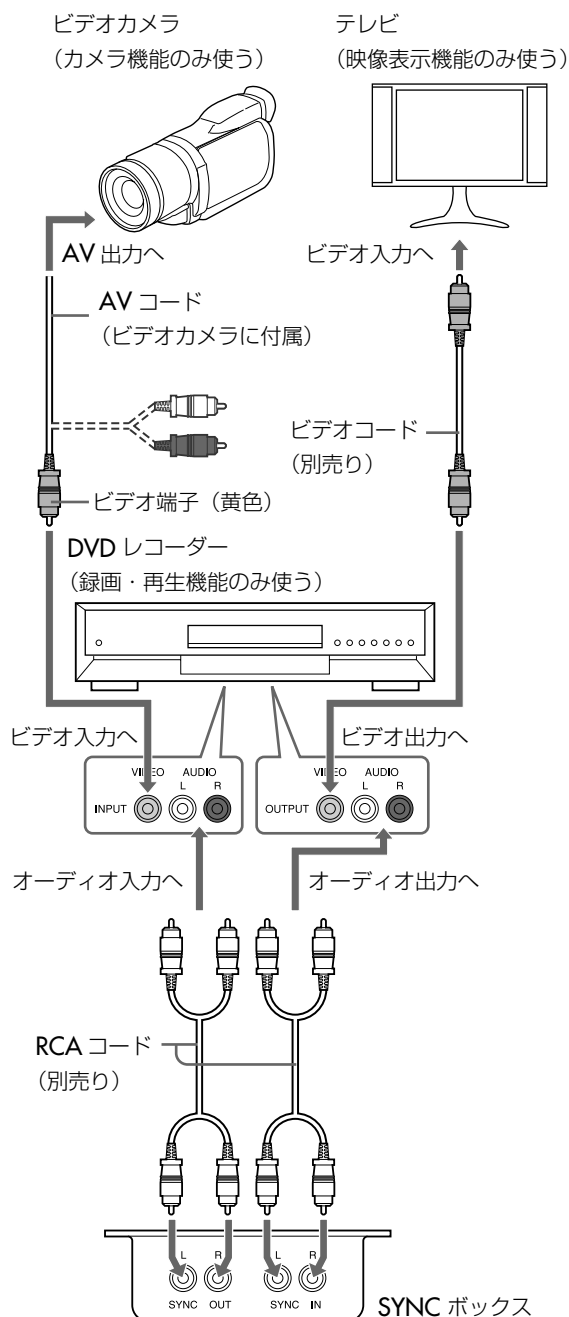
4 本機で演奏を始めます。

5 演奏を終え、 を押して録音を止めます。

6 ビデオカメラで録画を止めます。

DVD レコーダーを使ったビデオ同期録音

ビデオカメラだけを使ったビデオ同期機能を利用していると、再生の際ビデオテープの頭出しが手間と感じられるかもしれません。そのような場合、DVD レコーダーと一緒に使うとより簡単な手順ですばやくビデオ同期再生（P.54 参照）を始めることができます。



- 1 Main 画面が表示されるまで  を何回か押し、次に  をタップします。
- 2 ビデオカメラをビデオ撮影モードでオンにします。
- 3 DVD レコーダーでビデオカメラを接続したビデオ入力を選んで、録画を始めます。
- 4 情報エリアに Rec Wait が表示されたのを確認してから、 を押します。

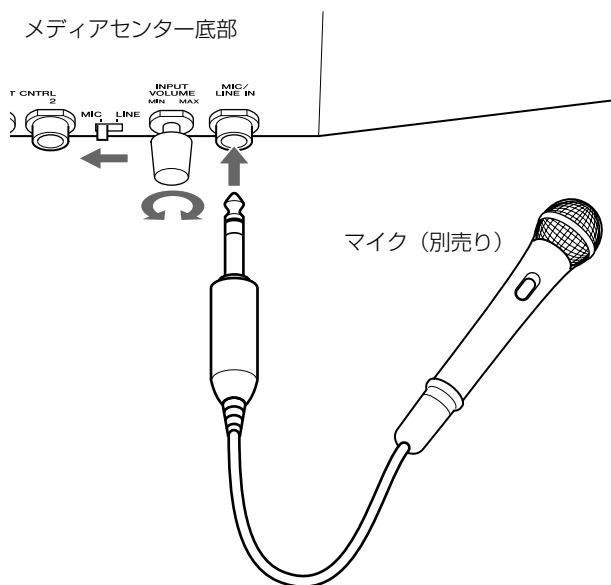
- 5 本機で演奏を始めます。
- 6 演奏を終え、を押して録音を止めます。
- 7 DVD レコーダーで録画を止め、ビデオカメラの電源を切ります。

マイクを使ったビデオ同期録音

本機にマイクを接続すると、レッスンのポイントなどを解説しながらビデオ同期録音をすることができます。ビデオ同期録音の前に、以下の手順でマイクを本機に接続して音量の調節を済ませてください。

❗ ご注意

本機でマイクの音を聞くには、アンプ内蔵スピーカー（別売り）との接続が必要です。



- 1 MIC/LINE スイッチを MIC の位置にセットします。
- 2 MIC/LINE IN 端子にマイクを接続します。
- 3 INPUT VOLUME つまみを中間の位置にセットします。
- 4 Balance コントロール画面の MIC でマイクの音量を調節します。（P.29「音量バランスを調節する」参照）

ヒント

マイク音声はビデオのオーディオチャンネル（左）に録音されます。

ビデオ同期再生

普通のビデオ再生と同様に一時停止、早送り、早戻しをしても、ビデオの再生が再開したところからピアノ演奏の再生も始まります。

1 あらかじめビデオ同期録音をします。

❗ ご注意

ビデオ同期再生の前にビデオカセットを巻き戻して、必ず録画の頭出しをしてください。

2 ビデオ同期がオンになっているのを確認します。（P.52「ビデオカメラと本機を準備する」参照）

3 フロッピーディスク、CD、または USB フラッシュメモリーに記録された曲をビデオ同期再生する場合、ビデオと同期している曲を選びます。（P.25「曲を選択する」参照）

❗ ご注意

PianoSoft Library、User Library に記録された曲の場合、この手順は不要です。

4 ビデオカメラで再生音量を最小にして、ビデオ同期信号 * を消します。

* P.52「ビデオカメラと本機を準備する」手順 4 参照。

ヒント

ビデオ同期録音に DVD レコーダーを使った場合は、テレビの音量を最小にしてください。

5 ビデオカメラでビデオの再生を始めます。

本機でピアノ演奏の再生も始まります。

ヒント

DVD レコーダーを使った場合は、DVD レコーダーでビデオの再生を始めます。

❗ ご注意

ビデオ同期再生中は再生テンポを変更できません。

内蔵音源のピッチをアコースティックピアノに合わせる (TG マスターチューン機能)

電子ピアノ音はアコースティックピアノのピッチ (A3=440 Hz) に合うようチューニングされています。もし、アコースティックピアノのピッチを変えた場合、以下の手順で電子ピアノを変更後のピッチにチューニングすることができます。

- 1 情報エリアの **Acoustic** をタップし、アコースティックモードにします。
- 2 ^{メイン} Main 画面の **Setup** をタップして、次に **M.Tune** をタップします。
- 3 ラ (A3) の鍵盤を弾いてアコースティックピアノの音を聴きながら **-** / **+** をタップして電子ピアノのピッチをチューニングします。

チューニングを初期設定 (440 Hz) に戻すには

Reset をタップします。



ヒント

1 cent は半音の 1/100 音程を表します。

- 4 **Exit** をタップして操作を終了します。

曲頭の無音部分を自動的にスキップする

録音された曲の最初に無音部分がある場合、この機能を使い、その無音部分をスキップし、実際の曲の始めから再生を始めることができます。

- 1 ^{メイン} Main 画面の **Setup** をタップし、**Next** をタップして、次に **Playback** をタップします。
- 2 ^{スキップ} ^{スペース} Skip Space をタップして、次に **ON** を選びます。

- 3 **Exit** をタップして操作を終了します。

この機能をオフにするには

手順 2 で OFF を選びます。

鍵盤の動きを止めて再生する

通常、再生される音に合わせて鍵盤が動きますが、Quiet モードやヘッドフォンモードの時には、鍵盤の動きを止めて再生することもできます。曲を再生しながら即興演奏を加えたり、自動演奏との連弾を楽しむことができます。

- 1 ^{メイン} Main 画面の **Setup** をタップし、**Next** をタップして、次に **Playback** をタップします。
- 2 ^{クワイエット} ^{キー} Quiet Key をタップして、次に **OFF** を選びます。
- 3 **Exit** をタップして操作を終了します。

鍵盤が動くようにするには

手順 2 で ON を選びます。



ヒント

Song 画面のショートカットボタンでも、この機能をオン/オフすることができます。**[Key On]** をタップして鍵盤を動かし、**[Key Off]** をタップして止めます。



ボタンをタップする度に、**[Key On]** と **[Key Off]** が交互に変わります。

フットコントローラー / フットスイッチを使えるようにする

別売りのフットコントローラー（FC7）やフットスイッチ（FC4、FC5）を接続して*、再生のスタート / 一時停止など足で操作したい機能（Function）を割り当てることができます。

* 最大2台まで同時に接続することができます。

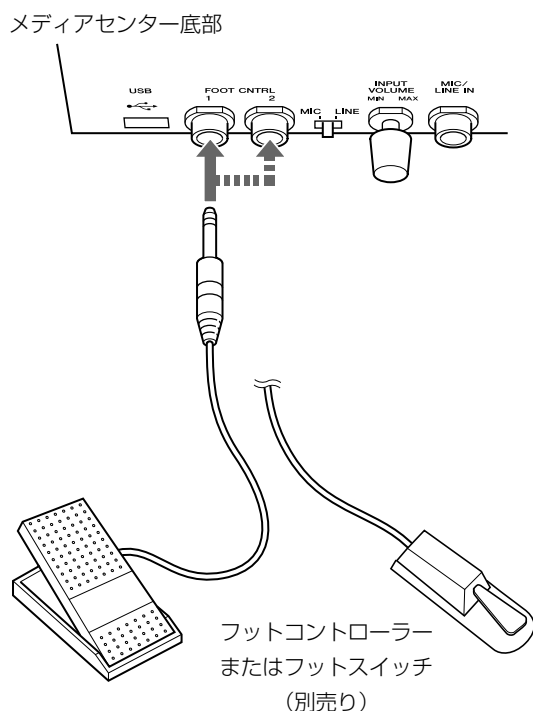
プレイ/ストップ プレイ/ストップ
Play/Stop: 再生のスタート / 一時停止をコントロールします。

ボイス ボリューム
Voice Volume: Quiet / ヘッドフォンモード時のピアノパートの音量を調節します。

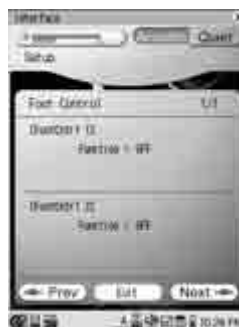
メイン ボリューム
Main Volume: 全体の音量を調節します。

フットコントローラー / フットスイッチを設定する

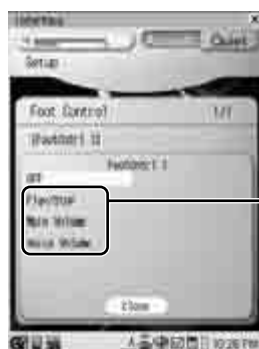
- 1 フットコントローラー / フットスイッチをメディアセンターの FOOT CNTRL1 / 2 端子に接続します。



- 2 メイン Main 画面の **Setup** をタップし、次に **Foot Cntrl** をタップします。



- 3 設定したいコントローラー / スイッチの Function をタップして、次に割り当てたい機能をタップします。



- 4 **Close** をタップします。

- 5 ボイス ボリューム Voice Volume または メイン ボリューム Main Volume を選んだ場合、ディレクション Direction をタップし、次に を押してお好みの設定を選びます。

Up: 踏むと音量が大きくなり、戻すと音量が小さくなります。

Down: 踏むと音量が小さくなり、戻すと音量が大きくなります。

- 6 **Exit** をタップして操作を終了します。

フットコントローラーを使う

Function が Play/Stop の時

完全に踏み込むと元のテンポで再生し、戻すと一時停止します。踏み込む角度によりテンポを 0%～-50%の範囲で変えることができます。

Function が Voice Volume/Main Volume (Direction が Down*) の時

完全に踏み込むと音が消え、戻すと音量が最大になります。踏み込む角度により音量を自在に変えることができます。

* Direction が Up の場合、踏み込むと音量が最大になります。

フットスイッチを使う

Function が Play/Stop の時

再生中に踏んで離すと一時停止します。一時停止中に踏んで離すと再生が始まります。

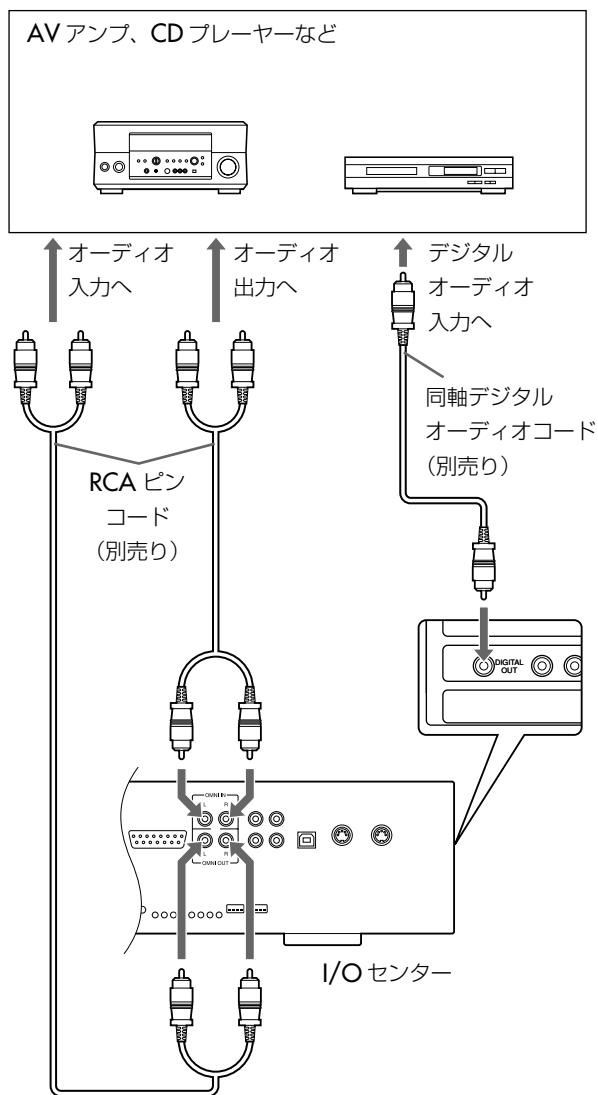
Function が Voice Volume/Main Volume (Direction が Down*) の時

踏むと音が消えます。離すと元の音量に戻ります。

* Direction が Up の場合、踏み込むと音量が最大になります。

外部 AV 機器に接続する

本機を外部オーディオ機器に接続すると、本機で弾いた／再生した演奏を外部オーディオ機器で鳴らす（聴く）ことができます。また、外部オーディオ機器で演奏した曲を本機で鳴らす（聴く）こともできます。



オーディオ信号の入出力の準備をする

本機で入出力されるオーディオ信号の種類や音量を選ぶことができます。あらかじめ以下の設定を行ってください。

オムニ イン OMNI IN 設定

OMNI IN 端子に入力される信号に合った設定を選びます。

オーディオ Audio: 外部の CD プレーヤーなどからオーディオ信号を入力し、本機に接続したアンプ内蔵スピーカー * で音を聴く場合に選びます。

OFF: OMNI IN 端子からの信号入力をしない場合に選びます。

オムニ イン ボリューム OMNI IN Vol 設定

OMNI IN 端子に入力される信号の音量を 0 ～ 127 の範囲で調節します。

オムニ アウト OMNI OUT 設定

OMNI OUT 端子から出力する信号を選びます。

アウトプット Output: アンプ内蔵スピーカー * に出力したのと同じオーディオ信号を出力する場合に選びます。

Output+PianoTG: アンサンブルパートと電子ピアノ音を出力する場合に選びます。(電子ピアノ音はアコースティックモードでも OMNI OUT 端子から出力されています。)

PianoTG: 電子ピアノ音のみを出力する場合に選びます。

OFF: OMNI OUT 端子から信号出力をしない場合に選びます。

オムニ アウト ボリューム OMNI OUT Vol 設定

OMNI OUT 端子から出力される信号の音量を調節します。

マスター ボリューム Master Volume:

全体の音量に連動して調節されます。

0 ～ 127: 全体の音量とは独立して表示の数値の範囲で調節します。

デジタル アウト Digital Out 設定

DIGITAL OUT 端子から出力する信号を選びます。

Output: アンプ内蔵スピーカー * に出力したのと同じオーディオ信号を出力する場合に選びます。

OMNI OUT: OMNI OUT 端子から出力したのと同じオーディオ信号を出力する場合に選びます。

シンクロ アウト SYNC OUT: SYNC OUT 端子から出力したのと同じオーディオ信号を出力する場合に選びます。

OFF: DIGITAL OUT 端子からの信号出力をしない場合に選びます。

* アンプ内蔵スピーカーは別売りです。

- 1 メイン画面の **Setup** をタップして、次に **Audio I/O** をタップします。



- 2 目的の設定タイトル (OMNI IN、OMNI OUT、Digital Out) をタップして、次に目的のオプションをタップして選択します。

- 3 **Close** をタップします。

- 4 目的の音量設定タイトル (OMNI IN Vol、OMNI OUT Vol) をタップして、次に **Volume** を押して音量を調節します。

- 5 **Exit** をタップして操作を終了します。

標準的な MIDI データに変換する (XP イベント削除)

本機で録音した曲には、MIDI データとして「データを高精度化する付加情報」(XP イベント) が記録されています。一般の MIDI 楽器では XP イベントは意味を持たないため無視されますが、楽器の設定内容によっては再生に影響が出る場合もあります。

また本機で録音した曲をパソコンのシーケンスソフトなどを使って編集すると、XP イベントと音符データとの関係が崩れ、最高のパフォーマンスで再生することができなくなります。他の機器で編集する場合は、あらかじめ曲データから XP イベントを削除し、標準的な MIDI データに変換してください。

❗ ご注意

XP イベントを削除すると元に戻すことはできません。大切な曲データを変換する場合は、必ずコピーをとってから作業を行ってください。

- 1 変換したい曲を選び (P.25 「曲を選択する」参照) **[Func]** または **[Function]** をタップします。

- 2 **[Strip XP]** をタップします。



- 3 **[OK]** をタップします。

- 4 完了メッセージが表示されたら **[OK]** をタップして操作を終了します。

インストールフロッピーディスク を作成する

本機をアップデートするのために、必ずインストールフロッピーディスクを作成しておいてください。

- 1 ^{メイン} Main 画面の **[Setup]** をタップし、**[Next]** をタップして、次に **[System]** をタップします。

- 2 フォーマット済みのフロッピーディスク (2HD) をドライブに入れます。(P.18 「フロッピーディスクの挿入／取り出し」、P.51 「フロッピーディスクをフォーマット (初期化) する」参照)

- 3 **[Make Install FD]** をタップし、次に **[OK]** をタップします。



- 4 **[OK]** をタップします。
インストールフロッピーディスクの作成が始まります。



- 5 完了メッセージが表示されたら **[OK]** をタップし、次に **[Exit]** をタップして操作を終了します。

デモアルバムの内容を復元する

万一デモンストレーション用に収録されていた曲（P.24 参照）を消去してしまった場合、以下の手順で復元することができます。

1 ^{メイン} Main 画面の **Setup** をタップし、**Next** をタップして、次に **System** をタップします。

2 **Recall Demo Album** をタップします。



3 **OK** をタップして復元を始めます。

4 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップし、次に **Exit** をタップして操作を終了します。

❗ ご注意

後からデモアルバムに保存された曲データは、復元の際に消去されます。

本機をリセットする

本機をお買い上げ時の状態に戻す時には、以下の手順でリセットしてください。

❗ ご注意

本機をリセットしても、曲データは消去されずに残ります。

1 ^{メイン} Main 画面の **Setup** をタップし、**Next** をタップして、次に **System** をタップします。

2 **System Reset** をタップします。



3 **OK** をタップしてリセットを始めます。

4 完了メッセージが表示されたら **OK** をタップし、次に **Exit** をタップして操作を終了します。

ワンタッチ ONE TOUCH ボタンに特定の機能を割り当てる

利用する機会が多い機能を、クレードルにある ONE TOUCH ボタンに割り当てることができます。割り当てることができる機能は以下の通りです。

レコーディング
REC : 本機を録音モードにします。(P.41 参照)

パフォーマンス
Performance:
パフォーマンス機能をオンにします。
(P.37 参照)

スタンバイ
Standby: 本機の電源を切ります。(P.22 参照)

1 メイン Main 画面の  をタップして、次に  をタップします。

2 ファンクション Function をタップして、次に  を押し目的のオプションを選びます。そして  をタップします。

3  をタップして操作を終了します。

ONE TOUCH ボタンの割り当てをキャンセルするには

手順 2 で No Function を選択します。

ONE TOUCH ボタンを使う

ONE TOUCH ボタンを押すだけで、割り当てられた機能が動作します。

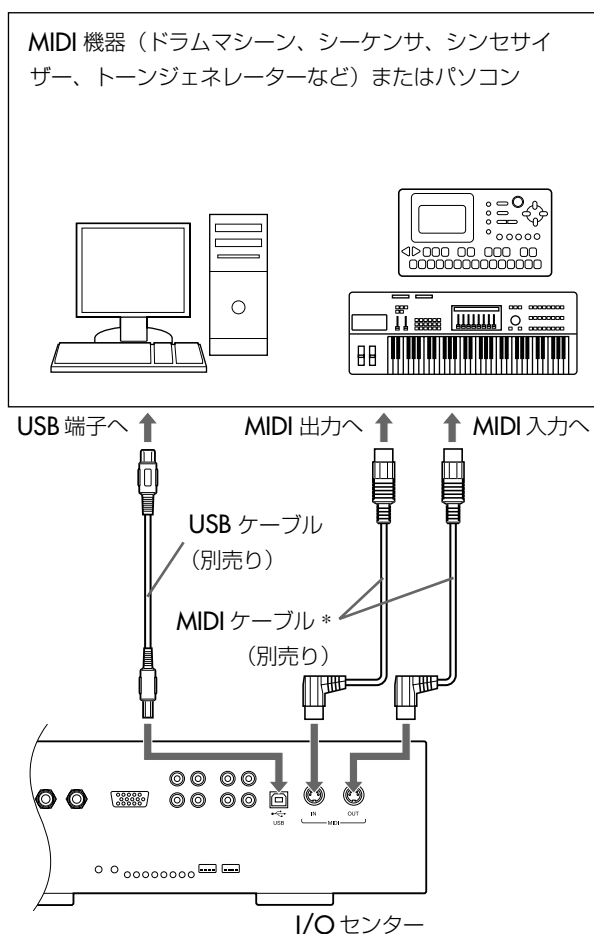
1 ポケットコントローラーをクレードルにセットします。

2 ONE TOUCH ボタンを押します。

MIDI 機器を接続して更に様々な機能を活用する

MIDI とは ミュージカル インストルメント デジタル インターフェース Musical Instrument Digital Interface の頭文字をとった略称で、シンセサイザーなどの電子楽器同士や電子楽器とパソコンを接続して、様々な演奏情報をやりとりできる世界統一規格です。MIDI 機器またはパソコンを接続する場合は本機の I/O センターに接続します。

MIDI 機器を接続する



* 接続の際は I/O センター側に L 型コネクタのついた市販の MIDI ケーブルをご使用ください。

❗ ご注意

USB 接続をするには、USB ドライバーを接続機器（コンピューター）にインストールする必要があります。そのような場合は、以下のウェブサイトでドライバーソフトをダウンロードしてください。

http://www.yamaha.co.jp/download/usb_midi/

MIDI データを受信する準備をする (MIDI IN 設定)

本機にセットあるいは保存されたデータ同様に、本機に接続された MIDI 機器から受信した MIDI データを再生することができます。あらかじめ以下の設定を行ってください。

ポート Port 設定

データを受信する端子を選びます。

MIDI: MIDI 機器が MIDI IN 端子に接続されている場合に選びます。

USB: MIDI 機器が I/O センター正面の USB 端子に接続されている場合に選びます。

ピアノ レシーブ チャンネル Piano Rcv Ch 設定

MIDI データは、それぞれある楽器の音色が割り当てられている複数のチャンネルで構成されています。このオプション設定では、本機のピアノパート（鍵盤）で演奏する受信チャンネルを選びます。

##: どのチャンネルも本機のピアノパート（鍵盤）に割り当てない場合に選びます。

01 ~ 16: 01 から 16 チャンネルの中から、目的のチャンネルをピアノパート（鍵盤）に割り当てる場合に選びます。

HP: 01 と 02 チャンネルをピアノパート（鍵盤）に、03 チャンネルをペダルパートに割り当てる場合に選びます。

1+2: 01 と 02 チャンネルをピアノパート（鍵盤）に割り当てる場合に選びます。

Prg: Piano グループの音色（P.73 参照）が割り当てられているチャンネルの中で、一番若い数字のチャンネルをピアノパート（鍵盤）に割り当てる場合に選びます。

Prg(All): Piano グループの音色（P.73 参照）が割り当てられているチャンネルをピアノパート（鍵盤）に割り当てる場合に選びます。

ディレイ Delay 設定

受信したデータに対してピアノの発音タイミングを設定します。

- ON:** 受信した MIDI データを、0.5 秒後に正しいタイミングで発音するように設定する場合に選びます。
- OFF:** 受信した MIDI データを、リアルタイムで発音するように設定する場合に選びます。

- 1 ^{メイン} Main 画面の **Setup** をタップし、次に **MIDI** をタップします。



MIDI IN 画面

MIDI IN 画面は 3 つの画面にわかれています。
Next または **Prev** をタップして、目的の画面を選びます。

- 2 ^{ポート} Port、^{ピアノ} Piano Rcv Ch または ^{ディレイ} Delay をタップし、次に **Next** を押して目的のオプションを選びます。

- 3 **Exit** をタップして設定を終了します。

MIDI データを送信する準備をする (MIDI OUT 設定)

本機で再生したピアノパートやアンサンブルパートを、接続した MIDI 機器に MIDI データとして送信し、それらの音源で音を出したり、その MIDI データを録音することができます。あらかじめ以下の設定を行ってください。

ポート Port 設定

データを送信する端子を選びます。

- MIDI:** MIDI 機器が MIDI OUT 端子に接続されている場合を選びます。
- USB:** MIDI 機器が I/O センター正面の USB 端子に接続されている場合を選びます。

トランスミット Transmit 設定

接続した MIDI 機器に送信するパートを以下から 1 つ選びます。

^{アンサンブル} **ESBL Out:** 本機で再生するアンサンブルパートを送信する場合に選びます。

^{キーボード} **KBD Out:** 鍵盤演奏のデータを送信する場合に選びます。

ピアノパート アンサンブル アウト P-Part ESBL Out 設定

データ再生時、ピアノパートを MIDI データとして送信する、しないを選びます。

- ON:** ピانوパートを MIDI データとして送信する場合に選びます。
- OFF:** ピانوパートを MIDI データとして送信しない場合を選びます。

- 1 ^{メイン} Main 画面の **Setup** をタップして、**MIDI** をタップします。

- 2 **Next** / **Prev** をタップして、次の画面を表示します。



MIDI OUT 画面

- 3 ^{ポート} Port、^{トランスミット} Transmit または ^{ピアノパートアンサンブルアウト} P-Part ESBL Out をタップし、次に **Next** を押して目的のオプションを選びます。

- 4 **Exit** をタップして設定を終了します。

鍵盤演奏データを送信する準備をする (KBD OUT 設定)

MIDI OUT 設定の他に、鍵盤演奏データを送信するための、更に細かい設定ができます。あらかじめ以下の設定を行ってください。

アウトチャンネル Out Ch L、Out Ch R 設定

ピアノパートを目的のチャンネルに割り当てることができます。

##: どのチャンネルもピアノパートに割り当てない場合に選びます。

01 ~ 16: 01 から 16 チャンネルの中から、いずれかのチャンネルをピアノパートに割り当てる場合に選びます。

HP: ON/OFF ペダルのデータを 01 チャンネルに、ハーフペダルのデータを 03 チャンネルに送信する場合に選びます。(このオプションは古いバージョンのサイレントアンサンブルピアノで使用されていたデータフォーマットに対応しています。)

⚠️ ご注意

Split 設定が OFF の場合には、Out Ch L のみ設定できます。

ローカル Local 設定

ピアノパートを、本機内蔵の電子ピアノ音で発音するかしないかを選びます。

ON: ピアノパートを本機内蔵の電子ピアノ音で発音させるときに選びます。

OFF: 本機で再生した曲を、外部 MIDI 機器で発音するときを選びます。このオプションは本機の電子ピアノ音と外部音源が同時に発音しない設定です。

スプリット Split 設定

鍵盤演奏データの音域を 2 つのチャンネルに分けて送信するためにスプリットポイントを設定します。スプリットポイントと、それより低い音は L パートに割り当てられ、スプリットポイントより高い音は R パートに割り当てられます。

A-1 ~ C7: A-1 (最低音) から C7 (最高音) の中から、いずれかの音をスプリットポイントに設定します。

OFF: 全ての音を 1 つのチャンネルに割り当てる場合 (左/右パートにわけない) 選択します。

トランスミット Trans L 設定

送信時、ピアノの左手パートを目的のキーに移調します。

トランスミット Trans R 設定

送信時、ピアノの右手パートを目的のキーに移調します。

⚠️ ご注意

Split 設定が OFF の場合には、Trans L のみ設定できます。

1 メイン画面の **Setup** をタップし、次に **MIDI** をタップします。

2 **Next** または **Prev** をタップして、次の画面を表示します。



KBD OUT 画面

3 アウトチャンネル ローカル スプリット トランスミット
Out Ch、Local、Split、Trans L または Trans R をタップし、次に **◀ ▶** を押してオプションを選びます。

4 **Exit** をタップして操作を終了します。

故障かな？と思ったら

本機をご使用中に正常に動作しない場合は、以下の項目をご確認ください。それでも正常に動作しなかったり、以下の項目以外の異常が認められた場合は、電源を切り（P.22「電源を完全に切る」参照）、電源プラグをコンセントから抜いてから、お買い上げ店または最寄のヤマハまでご連絡ください。

サイレントアンサンブルピアノの電源が入らない。

- 電源供給ユニットがコンセントに付属の電源コードでしっかりと接続されているか確認してください。（P.12 参照）
- 電源供給ユニットと I/O センター両方の Mains スイッチの電源が入っているか確認してください。
- I/O センターの電源が入って何分か経過しても  が緑に点灯せず緑の点滅を続けている場合、電源供給ユニットの電源を切り、10 秒以上の間隔をあけて電源を入れ直してください。（P.20「電源を入れる」参照）

アンプ内蔵スピーカー（別売り）から音が聴こえない。

- アンプ内蔵スピーカー（別売り）の電源コードが電源供給ユニットの SWITCHED コンセントに接続されているか確認してください。（P.11 参照）
- 左右のアンプ内蔵スピーカー（別売り）の POWER スイッチがオンになっているか確認してください。
- アンプ内蔵スピーカー（別売り）がスピーカーコード（別売り）で I/O センターの OUTPUT 端子に接続されているか確認してください。（P.11 参照）
- 全体の音量がポケットコントローラーで適量に調節されているか確認してください。（P.25「全体の音量を調節する」参照）
- Balance 画面の各音量が、ポケットコントローラーで適量に調節されているか確認してください。（P.29「音量バランスを調節する」参照）

ポケットコントローラーでサイレントアンサンブルピアノを操作できない。

- ポケットコントローラーが操作可能な範囲内（約 20 メートル以内）にあるか確認してください。範囲外だった場合はポケットコントローラーをサイレントアンサンブルピアノに近づけてください。
- CF 無線 LAN カードがポケットコントローラーの CF カードスロットの奥までしっかり差し込まれているか確認してください。カードを差し込み直した場合はポケットコントローラーを必ず再起動してください。（P.15 参照）

- 無線状況を確認し、必要に応じて無線状況の最も良い通信チャンネルに切り替えてください。（P.17「無線 LAN の通信チャンネルを変更する」参照）

本機が曲ファイルを読まない。

- 1 つのアルバム（フォルダ）内で読み込み可能なファイルの最大数は 999 です。
- SMF タイプの曲の拡張子が「.MID」、または「.mid」、E-SEQ タイプの曲の拡張子が「.FIL」または「.fil」になっているか確認してください。

再生の順番が他の機器で再生する場合と違う。

- 録音したソフトやその他の要因によって再生の順番が変わる場合があります。どの機器でも同じ順番で再生するには、ファイル名を 01、02 のように数字で始めることをお勧めします。

本機が USB フラッシュメモリーを認識しない。

- 本機は、USB フラッシュメモリーを USB  端子（P.2 参照）に挿入した際に認識した ID 情報を利用して、USB フラッシュメモリーの使用を 7 個までに制限しています。すでに認識してしまったもの以外の USB フラッシュメモリーを使用する場合は、いったん本機の電源を完全に切ってください。（P.22 参照）
- 市販されている USB ストレージメディアの中には、本機で正しく動作しないものもあります。

サイレントアンサンブルピアノが CD-R/-RW を読まない。

- 曲ファイルは、ISO 9660 LEVEL1 でフォーマットされたものをご使用ください。このフォーマット以外の曲ファイルは本機で認識しない場合があります。

再生時に音抜けする。

- アコースティックモードで音量を下げて曲を再生する場合、トリルやピアノニッシモの部分で音が抜けることがあります。これは本機の特性で故障ではありません。

I/O センターが熱くなる。

- 本機の電源が入っていると（スタンドバイモードの時も）、I/O センターが熱くなることがありますが、故障ではありません。

I/O センターから雑音が聞こえる。

- I/O センターは HDD（ハードディスクドライブ）を内蔵しています。この HDD がディスクの回転する音をたてることがありますが、故障ではありません。

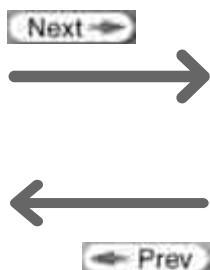
本機を操作中、エラーメッセージがディスプレイに表示される場合があります。もしメッセージが現れた場合は、下記の表の各メッセージの説明をご確認ください。

状況	エラーメッセージ	状況の詳細
コピープロテクトされている曲ファイルをリムーバブルメディアにコピーしようとした。	実行できません。曲にプロテクトがかかっています。	市販のコピープロテクトされている曲ファイルはどのリムーバブルメディアにもコピーできません。
既に 999 個の曲ファイルが含まれているアルバムに曲ファイルをコピーしようとした。	録音、再生できる曲は 999 曲までです。	1 つのアルバム（フォルダ）に保存できるファイルの数は 999 までです。
あるメディアに曲ファイルをコピーしようとした。	ディスクの容量が不足しています。	コピー先のメディアの残りの容量が十分ではありません。
フロッピーディスクをフォーマットしようとした。 フォーマット (Format FD)	実行できません。プロテクト曲が選択されています。	フロッピーディスクの中の曲がコピープロテクトされている場合、この機能は実行されません。

Main 画面



(P.23、37、41 参照)

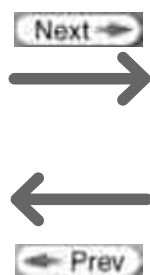


(P.22 - 23、37、55、56、58 - 61、63、64 参照)

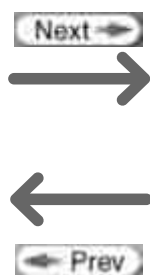
Song 画面



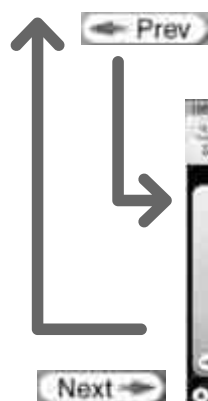
(P.26 参照)



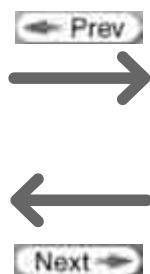
(P.28 参照)



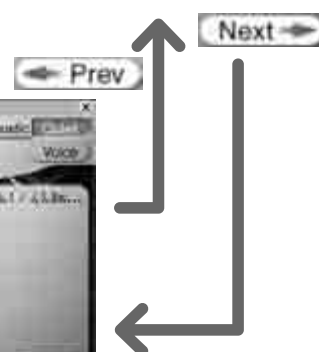
(P.31 参照)



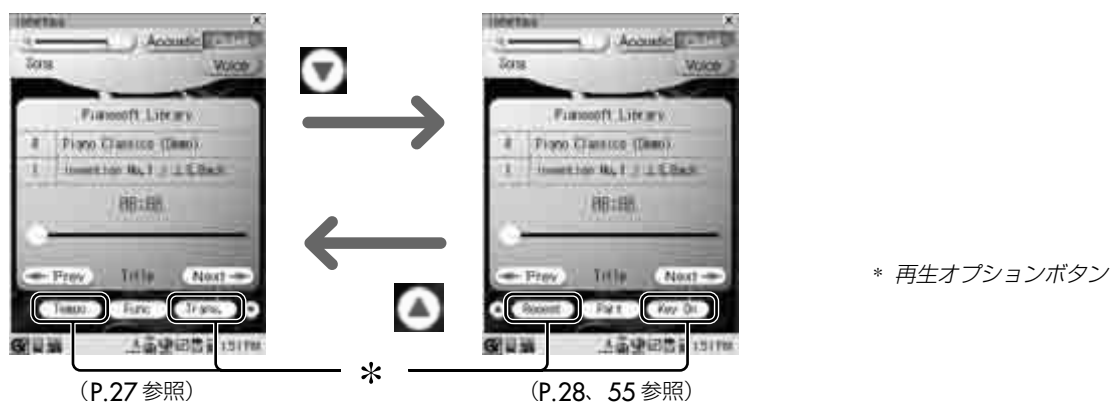
(P.34 参照)



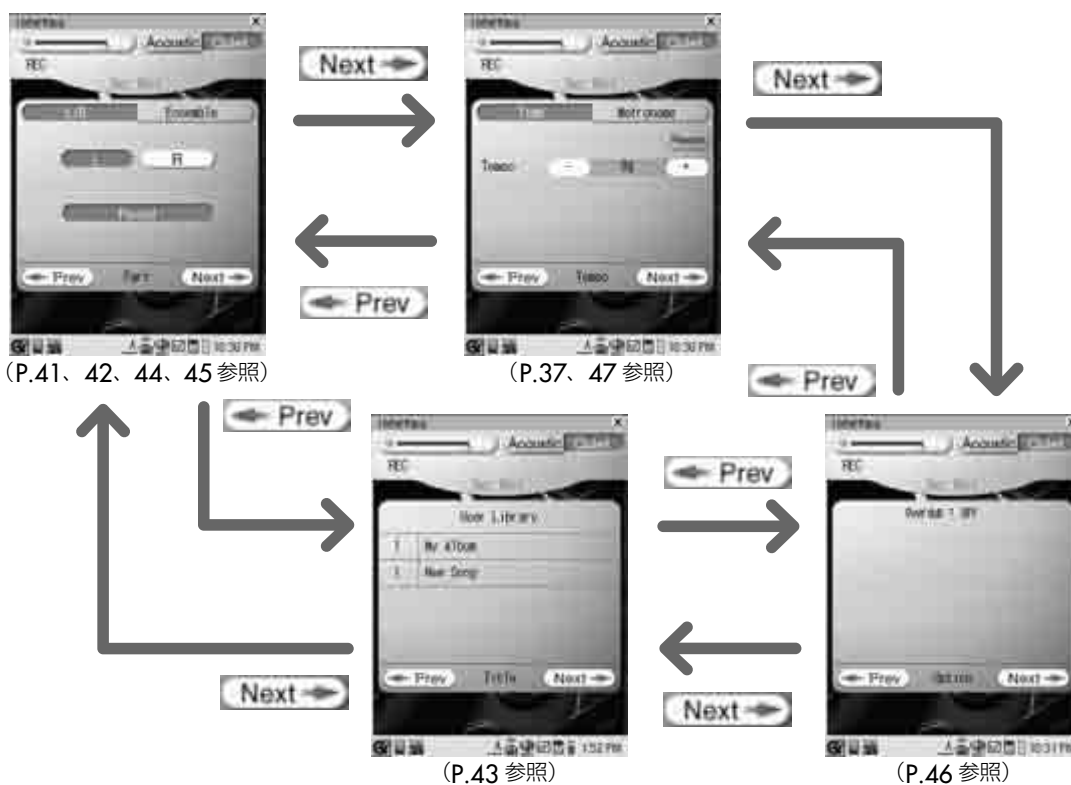
(P.31 参照)



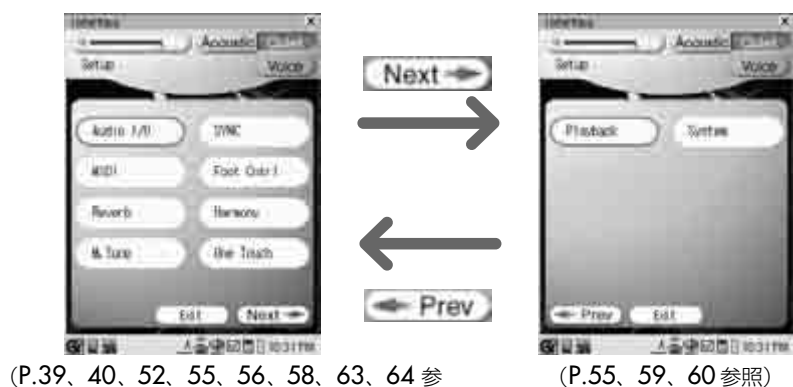
Song 再生オプションボタン



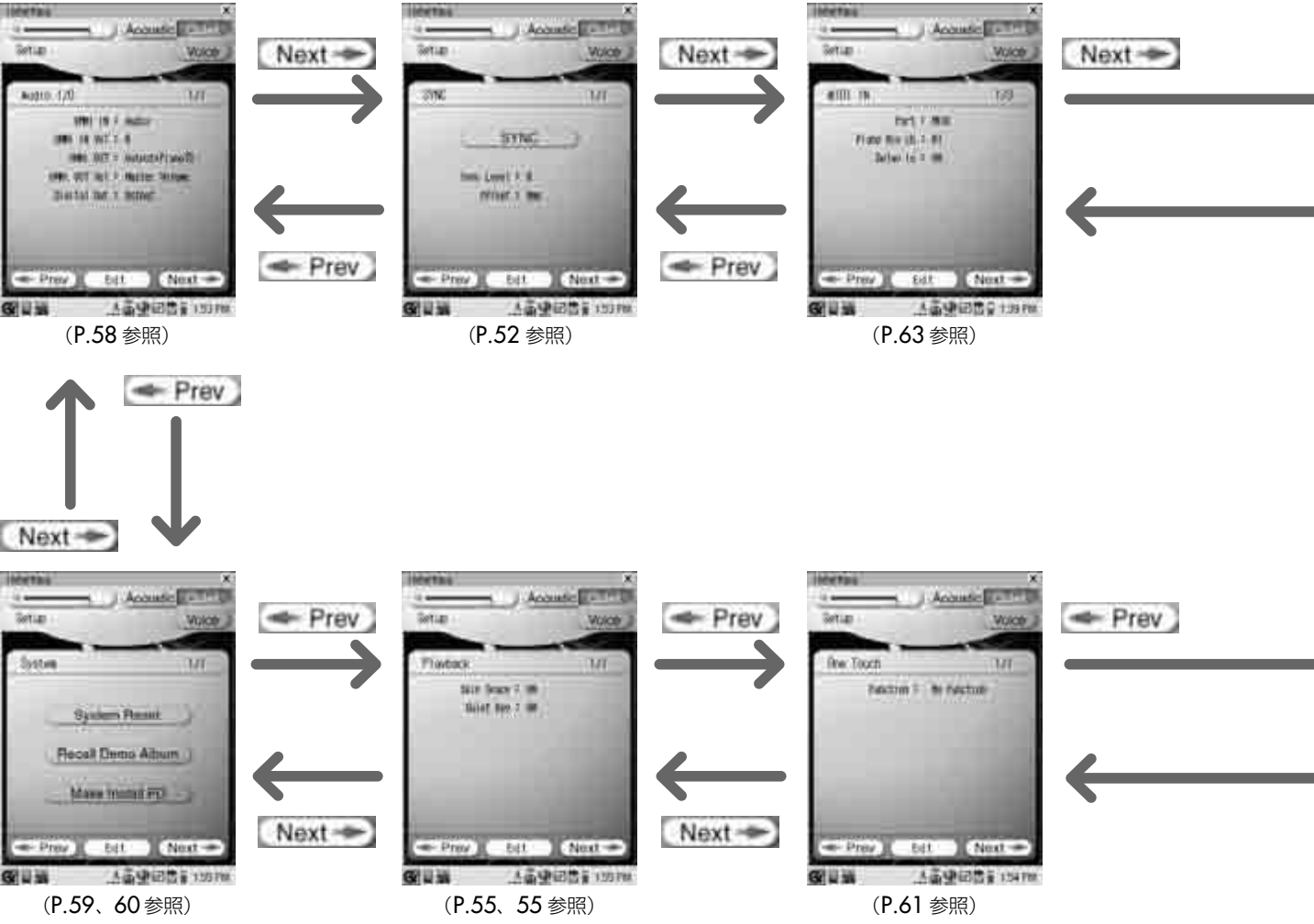
Rec 画面

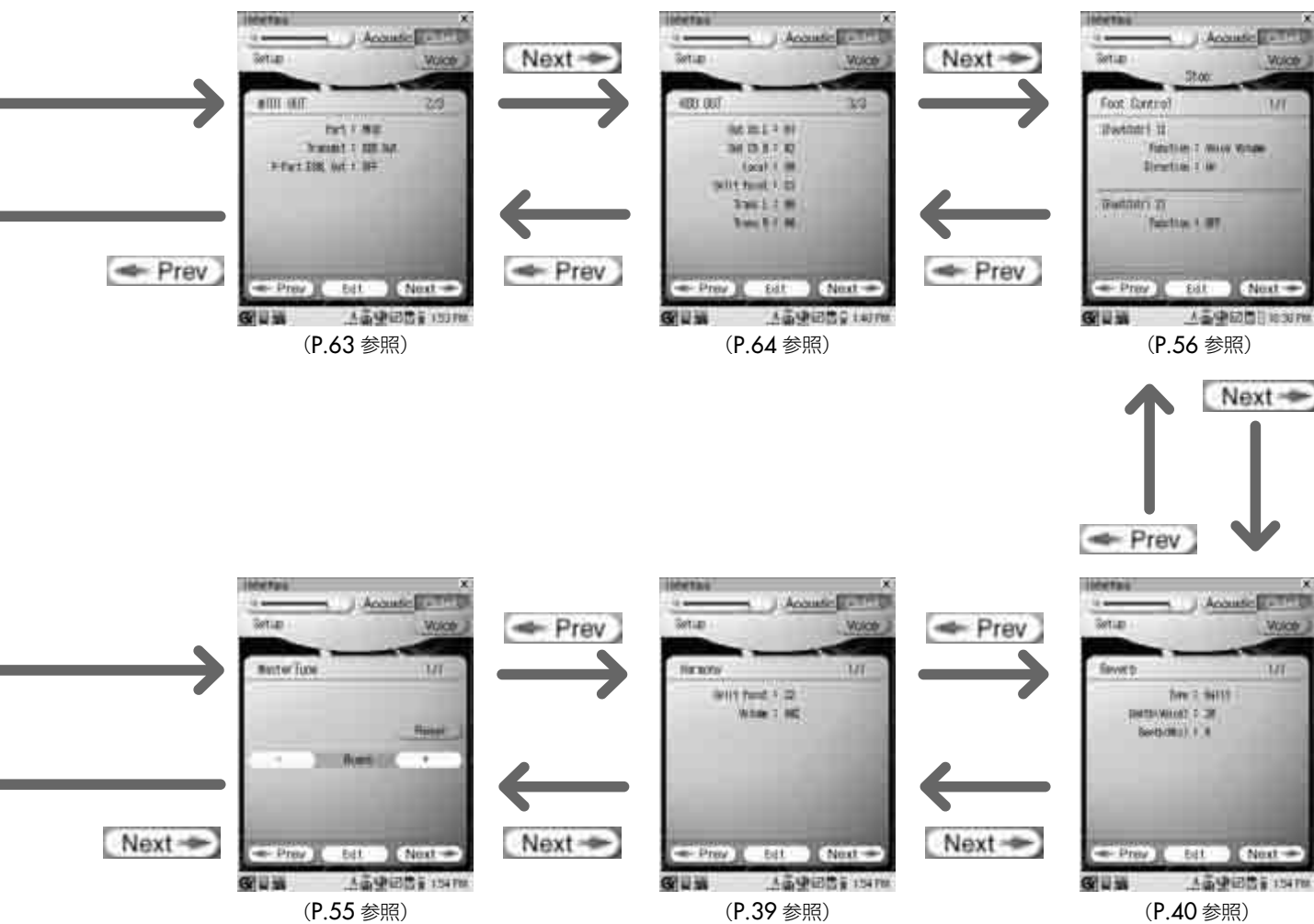


Setup メニュー画面



Setup オプション画面





本書で使われる語彙の基本的な意味を以下に説明します。

アンサンブル曲

ピアノパートとそれ以外の伴奏楽器パートのある曲のことです。アンサンブル曲には L/R 曲の左手パートと右手パートに加え、伴奏楽器用のトラックが 13 個あります。それらのトラックは内蔵音源で演奏されます。伴奏用トラックはアコースティックベース、ドラム、弦楽器、ビブラフォンなどに使われます。

イー シーク E-SEQ 曲フォーマット

サイレントアンサンブルピアノやピアノプレーヤなどで使用される、ヤマハ独自のフォーマットです。

移調

曲の調を変更します。例えば、八長調の曲を 2 半音上げときは二長調の曲になります。

SMF

スタンダード ファイル
Standard MIDI File の頭文字をとった略称です。

SMF 曲フォーマット

MIDI シーケンサーや音楽ソフトで使用される曲フォーマットです。

XG

ヤマハ XG は、GM (ジェネラル General MIDI) の拡張フォーマットです。その重厚なポリフォニーや、豊富な音色、音響効果を活かしながら MIDI 機器間での互換性を更に高めます。ヤマハ XG フォーマットの曲は XG 対応音源やシンセサイザーで再生した時はじめて、作曲家（創作者）が意図した音が再生されます。

L/R 曲

L/R 曲では左手パートはトラック 1 (L) に、右手パートはトラック 2 (R) に記録されています。再生の時、ひとつのパートをキャンセルしてそのパートを自分で演奏することができます。また、L/R 曲を録音するとき、2 つのパートを同時に録音することも別々に録音することもできます。

クラビノーバ Clavinova™

ヤマハのデジタルピアノのシリーズです。

Quiet モード

ヤマハの画期的なシステムで、Quiet ボタンをタップするだけで、ハンマーが弦を打つのを止め、アコースティックピアノの音を消します。電子ピアノ音で演奏されるので、Quiet モードではアンプ内蔵スピーカー（別売り）から音が聴こえるようになります。

最大同時発音数

MIDI 機器で同時に再生可能な音の最大数です。

ジェネラル General MIDI (GM)

異なるメーカーの製品間での MIDI 曲ファイルのやりとりを簡単にする MIDI 規格のひとつです。GM 音源で録音された MIDI 曲は、GM 音源を使用したとき正しく再生されます。規格では GM 音源は最大同時発音数が 24 以上で、16 のパートと 128 の基本音源を内蔵すると規定しています。

シーケンサー

サイレントアンサンブルピアノと一緒に使われ、MIDI データを再生したり録音したりします。

スタンダード MIDI ファイル (SMF)

さまざまな異なる MIDI 機器やパソコンで利用できる MIDI データのファイルのことです。

TG マスターチューン

内蔵音源をチューニングし、ピアノ本体の音とピッチを合わせます。

トーンジェネレーター

音のトーンや楽器の音色を創り出す電子機器です。

音色

内蔵音源によって、さまざまな楽器の音色を再現します。

ハーフペダル

ピアノのペダルは、完全に踏み込むか離す（オン・オフ）だけでなく、その中間の任意の位置まで（漸進的に）踏み込む場合があります。本機は、この連続したペダルの踏み加減（ハーフペダル）を忠実に記録し再現します。

ピアノソフト

ピアノのソロ演奏が収録されたソフトです。

ピアノソフトプラス

ピアノ演奏のバックにオーケストラなどのアンサンブル伴奏が付いたピアノ用ソフトです。

ピアノパート

曲の左手パートと右手パートのことです。初期設定では左手のピアノパートはトラック 1 に、右手のピアノパートはトラック 2 に録音されるように設定されていますが、変更することも可能です。

フロッピーディスク

磁気記録メディアで、本機は 3.5 インチの 2DD または 2HD のフロッピーを使用します。

MIDI

ミュージカル インストルメント デジタル インターフェース

Musical Instrument Digital Interface の頭文字をとった略称で、電子楽器同士で演奏情報をやりとりできる規格です。

リズムトラック

アンサンブル曲の伴奏リズムパート用トラックです。リズムトラックは移調機能の影響を受けません。

リバーブ

リバーブレーション

reverberation（反響）の短縮形です。さまざまなサイズの部屋やホールの音の反響を真似て、音に現実味を与えます。

内蔵音源およびデモ曲

電子ピアノの音色一覧

以下は、Quiet モードまたはヘッドフォンモードで演奏する時に選ぶことができる、電子ピアノの音色一覧です。音色の選びかたは、P.36 の「Quiet モード / ヘッドフォンモードで演奏の音色を選択する」を参照してください。

グループ	音色名
Grand Piano	Grand Piano Bright Piano Mellow Piano
E.Piano	Electric Piano Modern Electric Piano DX Electric Piano Galaxy Electric Piano Vintage Electric Piano
Harpsichord	Harpsichord 4' Harpsichord 4'+8' Clavinet
Vibraphone	Vibraphone Marimba Celesta
Church Organ	Church Organ Principal Church Organ Flute Church Organ Full
Jazz Organ	Drawbar Organ Jazz Organ Rotor Organ
Guitar	Nylon Guitar Steel Guitar
Bass	Acoustic Bass Finger Bass Fretless Bass A.Bass and Cymbal
Strings	Strings 1 Strings 2 Synth Strings
Choir	Choir Slow Choir Scat

グループ	音色名
Pad	New Age Pad Warm Pad
AEM Brass	AEM-Trumpet 1 AEM-Trumpet 2 AEM-Trombone
AEM Sax	AEM-Alt Sax 1 AEM-Alt Sax 2 (for Solo) AEM-Tenor Sax AEM-Baritone Sax
AEM Section	AEM-Brass Section AEM-Sax Section

アンサンブルパートの音色一覧

以下は、アンサンブルパートの再生に使われる音色を一覧にしたものです。(P.44 「アンサンブルパートを録音する」 参照)

グループ	音色番号	音色名
Piano	1	Grand Piano
	2	XG-GrandPno
	3	XG-GrndPnoK
	4	Mellow Piano
	5	XG-MelloGrP
	6	XG-PianoStr
	7	XG-Dream
	8	Bright Piano
	9	XG-BritePno
	10	XG-BritPnoK
	11	XG-E.Grand
	12	XG-ElGrPnoK
	13	XG-Det.CP80
	14	XG-ElGrPno1
	15	XG-ElGrPno2

グループ	音色番号	音色名
Piano	16	XG-HnkyTonk
	17	XG-HnkyTnkK
	18	Electric Piano
	19	Modern Elec. Piano
	20	Vintage Elec. Piano
	21	XG-E.Piano1
	22	XG-El.Pno1K
	23	XG-MelloEP1
	24	XG-Chor.EP1
	25	XG-HardEl.P
	26	XG-VX El.P1
	27	XG-60sEl.P
	28	DX Electric Piano
	29	Galaxy Elec. Piano
	30	XG-E.Piano2
	31	XG-El.Pno2K
	32	XG-Chor.EP2
	33	XG-DX Hard
	34	XG-DXLegend
	35	XG-DX Phase
	36	XG-DX+Analg
	37	XG-DXKotoEP
	38	XG-VX El.P2
	39	Harpsichord 4'
	40	Harpsichord 4'+8'
	41	XG-Harpsi.
	42	XG-Harpsi.K
	43	XG-Harpsi.2
	44	XG-Harpsi.3
	45	Clavinet
	46	XG-Clavi.
	47	XG-Clavi. K
	48	XG-ClaviWah
	49	XG-PulseClv
	50	XG-PierceCl

グループ	音色番号	音色名
Percussion	51	Celesta
	52	XG-Celesta
	53	XG-Glocken
	54	XG-MusicBox
	55	XG-Orgel
	56	Vibraphone
	57	XG-Vibes
	58	XG-VibesK
	59	XG-HardVibe
	60	Marimba
	61	XG-Marimba
	62	XG-MarimbaK
	63	XG-SineMrmb
	64	XG-Balafon2
	65	XG-Log Drum
	66	XG-Xylophon
	67	XG-TubulBel
	68	XG-ChrchBel
	69	XG-Carillon
	70	XG-Dulcimer
	71	XG-Dulcimer2
	72	XG-Cimbalom
	73	XG-Santur
Organ	74	Drawbar Organ
	75	Jazz Organ
	76	XG-DrawOrgn
	77	XG-DetDrwOr
	78	XG-60sDrOr1
	79	XG-60sDrOr2
	80	XG-70sDrOr1
	81	XG-DrawOrg2
	82	XG-60sDrOr3
	83	XG-EvenBar
	84	XG-16+2"2/3
	85	XG-Organ Ba
	86	XG-70sDrOr2

グループ	音色番号	音色名
Organ	87	XG-CheezOrg
	88	XG-DrawOrg3
	89	XG-PercOrgn
	90	XG-70sPcOr1
	91	XG-DefPrcOr
	92	XG-LiteOrg
	93	XG-PercOrg2
	94	Rotor Organ
	95	XG-RockOrgn
	96	XG-RotaryOr
	97	XG-SloRotar
	98	XG-FstRotar
	99	Ch. Organ Principal
	100	Ch. Organ Flute
	101	Ch. Organ Full
	102	XG-ChrchOrg
	103	XG-ChurOrg3
	104	XG-ChurOrg2
	105	XG-NotreDam
	106	XG-OrgFlute
	107	XG-TrmOrgFl
	108	XG-ReedOrgn
	109	XG-Puff Org
	110	XG-Acordion
	111	XG-Accordlt
	112	XG-Harmonica
	113	XG-Harmo 2
	114	XG-TangoAcd
	115	XG-TngoAcd2
Guitar	116	Nylon Guitar
	117	XG-NylonGtr
	118	XG-NylonGt2
	119	XG-NylonGt3
	120	XG-VelGtHrm
	121	XG-Ukulele
	122	Steel Guitar

グループ	音色番号	音色名
Guitar	123	XG-SteelGtr
	124	XG-SteelGt2
	125	XG-12StrGtr
	126	XG-Nyln&Stl
	127	XG-Stl&Body
	128	XG-Mandolin
	129	XG-Jazz Gtr
	130	XG-MelloGtr
	131	XG-JazzAmp
	132	XG-CleanGtr
	133	XG-ChorusGt
	134	XG-Mute.Gtr
	135	XG-FunkGtr1
	136	XG-MuteStlG
	137	XG-FunkGtr2
	138	XG-Jazz Man
	139	XG-Ovrdrive
	140	XG-Gt.Pinch
	141	XG-Dist.Gtr
	142	XG-FeedbkGt
	143	XG-FeedbkGt2
	144	XG-GtrHarmo
	145	XG-GtFeedbk
	146	XG-GtrHrmo2
	147	Acoustic Bass
	148	A.Bass and Cymbal
	149	XG-Aco.Bass
	150	XG-JazzRthm
	151	XG-VXUprght
	152	Finger Bass
	153	XG-FngrBass
	154	XG-FingrDrk
	155	XG-FlangeBa
	156	XG-Ba&DstEG
	157	XG-FngrSlap
	158	XG-FngBass2

グループ	音色番号	音色名
Guitar	159	XG-ModAlem
	160	XG-PickBass
	161	XG-MutePkBa
	162	Fretless Bass
	163	XG-Fretless
	164	XG-Fretles2
	165	XG-Fretles3
	166	XG-Fretles4
	167	XG-SynFretl
	168	XG-Smooth
	169	XG-SlapBas1
	170	XG-ResoSlap
	171	XG-PunchThm
	172	XG-SlapBas2
	173	XG-VeloSlap
	174	XG-SynBass1
	175	XG-SynBa1Dk
	176	XG-FastResB
	177	XG-AcidBass
	178	XG-Clv Bass
	179	XG-TeknoBa
	180	XG-Oscar
	181	XG-SqrBass
	182	XG-RubberBa
	183	XG-Hammer
	184	XG-SynBass2
	185	XG-MelloSB1
	186	XG-Seq Bass
	187	XG-ClkSynBa
	188	XG-SynBa2Dk
	189	XG-SmthBa 2
	190	XG-ModulrBa
	191	XG-DX Bass
	192	XG-X WireBa
Strings	193	XG-Violin
	194	XG-SlowVln

グループ	音色番号	音色名
Strings	195	XG-Viola
	196	XG-Cello
	197	XG-Contrabs
	198	XG-Trem.Str
	199	XG-SlowTrStr
	200	XG-Susp Str
	201	XG-Pizz.Str
	202	XG-Harp
	203	XG-YangChin
	204	XG-Timpani
Ensemble	205	Strings 1
	206	XG-Strings1
	207	XG-S.Strngs
	208	XG-SlowStr
	209	XG-ArcoStr
	210	XG-60sStrng
	211	XG-Orchestr
	212	XG-Orchstr2
	213	XG-TremOrch
	214	XG-VeloStr
	215	Strings 2
	216	XG-Strings2
	217	XG-S.SlwStr
	218	XG-LegatoSt
	219	XG-Warm Str
	220	XG-Kingdom
	221	XG-70s Str
	222	XG-Str Ens3
	223	Synth Strings
	224	XG-Syn.Str1
	225	XG-ResoStr
	226	XG-Syn Str4
	227	XG-SS Str
	228	XG-Syn.Str2
	229	Choir
	230	Slow Choir

グループ	音色番号	音色名
Ensemble	231	Scat
	232	XG-ChoirAah
	233	XG-S.Choir
	234	XG-Ch.Aahs2
	235	XG-MelChoir
	236	XG-ChoirStr
	237	XG-VoiceOoh
	238	XG-SynVoice
	239	XG-SynVox2
	240	XG-Choral
	241	XG-AnaVoice
	242	XG-Orch.Hit
	243	XG-OrchHit2
	244	XG-Impact
Brass	245	AEM-Trumpet 1
	246	AEM-Trumpet 2
	247	XG-Trumpet
	248	XG-Trumpet2
	249	XG-BriteTrp
	250	XG-WarmTrp
	251	AEM-Trombone
	252	XG-Trombone
	253	XG-Trmbone2
	254	XG-Tuba
	255	XG-Tuba 2
	256	XG-Mute.Trp
	257	XG-Fr.Horn
	258	XG-FrHrSolo
	259	XG-FrHorn2
	260	XG-HornOrch
	261	XG-BrasSect
	262	XG-Tp&TbSec
	263	XG-BrssSec2
	264	XG-HiBrass
	265	XG-MelloBrs
	266	XG-SynBras1

グループ	音色番号	音色名
Brass	267	XG-QuackBr
	268	XG-RezSynBr
	269	XG-PolyBrss
	270	XG-SynBras3
	271	XG-JumpBrss
	272	XG-AnaVelBr
	273	XG-AnaBrss1
	274	XG-SynBras2
	275	XG-Soft Brs
	276	XG-SynBras4
	277	XG-ChorBrss
Reed	278	XG-VelBras2
	279	XG-AnaBras2
	280	XG-SprnoSax
	281	AEM-Alto Sax 1
	282	AEM-Alto Sax 2
	283	XG-Alto Sax
	284	XG-Sax Sect
	285	XG-HyprAlto
	286	AEM-Tenor Sax
	287	XG-TenorSax
	288	XG-BrthTnSx
	289	XG-SoftTenr
	290	XG-TnrSax 2
	291	AEM-Baritone Sax
Pipe	292	XG-Bari.Sax
	293	XG-Oboe
	294	XG-Eng.Horn
	295	XG-Bassoon
	296	XG-Clarinet
	297	XG-Piccolo
	298	XG-Flute
	299	XG-Recorder
	300	XG-PanFlute
	301	XG-Bottle
	302	XG-Shakhchi

グループ	音色番号	音色名
Pipe	303	XG-Whistle
	304	XG-Ocarina
Synth Lead	305	XG-SquareLd
	306	XG-Square 2
	307	XG-LMSquare
	308	XG-Hollow
	309	XG-Shmoog
	310	XG-Mellow
	311	XG-SoloSine
	312	XG-SineLead
	313	XG-Saw.Lead
	314	XG-Saw 2
	315	XG-ThickSaw
	316	XG-DynaSaw
	317	XG-DigiSaw
	318	XG-Big Lead
	319	XG-HeavySyn
	320	XG-WaspySyn
	321	XG-PulseSaw
	322	XG-Dr. Lead
	323	XG-VeloLead
	324	XG-Seq Ana
	325	XG-CaliopLd
	326	XG-Pure Pad
	327	XG-Chiff Ld
	328	XG-Rubby
	329	XG-CharanLd
	330	XG-DistLead
	331	XG-WireLead
	332	XG-Voice Ld
	333	XG-SynthAah
	334	XG-VoxLead
	335	XG-Fifth Ld
	336	XG-Big Five
	337	XG-Bass &Ld
	338	XG-Big&Low

グループ	音色番号	音色名
Synth Lead	339	XG-Fat&Prky
	340	XG-SoftWurl
Synth Pad	341	New Age Pad
	342	XG-NewAgePd
	343	XG-Fantasy2
	344	Warm Pad
	345	XG-Warm Pad
	346	XG-ThickPad
	347	XG-Soft Pad
	348	XG-SinePad
	349	XG-Horn Pad
	350	XG-RotarStr
	351	XG-PolySyPd
	352	XG-PolyPd80
	353	XG-ClickPad
	354	XG-Ana Pad
	355	XG-SquarPad
	356	XG-ChoirPad
	357	XG-Heaven2
	358	XG-Itopia
	359	XG-CC Pad
	360	XG-BowedPad
	361	XG-Glacier
	362	XG-GlassPad
	363	XG-MetalPad
	364	XG-Tine Pad
	365	XG-Pan Pad
	366	XG-Halo Pad
	367	XG-SweepPad
	368	XG-Shwimmer
	369	XG-Converge
	370	XG-PolarPad
	371	XG-Celstial
Synth Effects	372	XG-Rain
	373	XG-ClaviPad
	374	XG-HrmoRain

次ページにつづく ...

グループ	音色番号	音色名
Synth Effects	375	XG-AfrcnWnd
	376	XG-Caribbean
	377	XG-SoundTrk
	378	XG-Prologue
	379	XG-Ancestrl
	380	XG-Crystal
	381	XG-SynDrCmp
	382	XG-Popcorn
	383	XG-TinyBell
	384	XG-RndGlock
	385	XG-GlockChi
	386	XG-ClearBel
	387	XG-ChorBell
	388	XG-SynMalet
	389	XG-SftCryst
	390	XG-LoudGlok
	391	XG-XmasBell
	392	XG-VibeBell
	393	XG-DigiBell
	394	XG-AirBells
	395	XG-BellHarp
	396	XG-Gamelmba
	397	XG-Atmosphr
	398	XG-WarmAtms
	399	XG-HollwRls
	400	XG-NylonEP
	401	XG-NylnHarp
	402	XG-Harp Vox
	403	XG-AtmosPad
	404	XG-Planet
	405	XG-Bright
	406	XG-FantaBel
	407	XG-Smokey
	408	XG-Goblins
	409	XG-GobSyn
	410	XG-50sSciFi

グループ	音色番号	音色名
Synth Effects	411	XG-Ring Pad
	412	XG-Ritual
	413	XG-ToHeaven
	414	XG-Night
	415	XG-Glisten
	416	XG-BelChoir
	417	XG-Echoes
	418	XG-EchoPad2
	419	XG-Echo Pan
	420	XG-EchoBell
	421	XG-Big Pan
	422	XG-SynPiano
	423	XG-Creation
	424	XG-Stardust
	425	XG-Reso Pan
	426	XG-Sci-Fi
	427	XG-Starz
	428	XG-Sitar
	429	XG-DefSitar
	430	XG-Sitar 2
	431	XG-Tambra
	432	XG-Tamboura
	433	XG-Banjo
	434	XG-MuteBnjo
	435	XG-Rabab
	436	XG-Gopichnt
	437	XG-Oud
	438	XG-Shamisen
	439	XG-Koto
	440	XG-T.Koto
	441	XG-Kanoon
	442	XG-Kalimba
	443	XG-Bagpipe
	444	XG-Fiddle
	445	XG-Shanai
	446	XG-Shanai2

グループ	音色番号	音色名
Synth Effects	447	XG-Pungi
	448	XG-Hichriki
Percussive	449	XG-TnklBell
	450	XG-Bonang
	451	XG-Gender
	452	XG-Gamelan
	453	XG-S.Gamlan
	454	XG-Rama Cym
	455	XG-AsianBel
	456	XG-Agogo
	457	XG-SteelDrm
	458	XG-GlasPerc
	459	XG-ThaiBell
	460	XG-WoodBlok
	461	XG-Castanet
	462	XG-TaikoDrm
	463	XG-Gr.Cassa
	464	XG-MelodTom
	465	XG-Mel Tom2
	466	XG-Real Tom
	467	XG-Rock Tom
	468	XG-Syn.Drum
	469	XG-Ana Tom
	470	XG-ElecPerc
	471	XG-RevCymb1
	472	XG-FretNoiz
	473	XG-BrthNoiz
	474	XG-Seashore
	475	XG-Tweet
	476	XG-Telphone
	477	XG-Helicptr
	478	XG-Appause
	479	XG-Gunshot
SFX Voice	491	XG-CuttnGnz
	492	XG-CttnGnz2
	493	XG-Str Slap

グループ	音色番号	音色名
SFX Voice	494	XG-Fl.KClik
	495	XG-Rain
	496	XG-Thunder
	497	XG-Wind
	498	XG-Stream
	499	XG-Bubble
	500	XG-Feed
	501	XG-Dog
	502	XG-Horse
	503	XG-Bird
	504	XG-Ghost
	505	XG-Maou
	506	XG-Tel.Dial
	507	XG-DoorSqek
	508	XG-Door Slam
	509	XG-Scratch
	510	XG-Scratch 2
	511	XG-WindChm
	512	XG-Telphon2
	513	XG-CarEngin
	514	XG-Car Stop
	515	XG-Car Pass
	516	XG-CarCrash
	517	XG-Siren
	518	XG-Train
	519	XG-Jetplane
	520	XG-Starship
	521	XG-Burst
	522	XG-Coaster
	523	XG-SbMarine
	524	XG-Laughing
	525	XG-Scream
	526	XG-Punch
	527	XG-Heart
	528	XG-FootStep
	529	XG-MchinGun

次ページにつづく ...

グループ	音色番号	音色名
SFX Voice	530	XG-LaserGun
	531	XG-Xplosion
	532	XG-FireWork

ドラムキット一覧

以下は、リズムパートの再生に使われる内蔵 XG 音源のドラムキットを一覧にしたものです。(P.44「アンサンブルパートを録音する」参照)

グループ	音色番号	ドラムキット名
Drum	480	XG-StandKit
	481	XG-Stnd2Kit
	482	XG-Room Kit
	483	XG-Rock Kit
	484	XG-ElectKit
	485	XG-AnalgKit
	486	XG-Jazz Kit
	487	XG-BrushKit
	488	XG-ClascKit
	489	XG-SFX Kit1
	490	XG-SFX Kit2

内蔵デモ曲一覧

本機の PianoSoft Library (ソングライブラリーのひとつ) には、デモンストレーション用として以下の曲があらかじめ収録されています。

アルバム名	曲名【詳細】
1 Opening (Demo)	1 Opening [Piano + XG (Synth) + AWM (E. Piano) + AEM (Alt Sax)]
	2 Scarborough Fair [Piano + XG (Bass, Drums) + AEM (Trumpet Solo, Brass Section)]
2 PianoSoft Solo XP (Demo)	1 Clair de Lune/Debussy
	2 La fille aux cheveux de lin/Debussy
	3 Etude, Op. 2, No. 1/Scriabin
	4 Etude, Op. 10, No. 3/Chopin
	5 Impromptus Op. 90, No. 2/Schubert
	6 French Suites No. 5 Allemande/J. S. Bach
	7 French Suites No. 5 Courante/J. S. Bach
	8 French Suites No. 5 Sarabande/J. S. Bach
	9 French Suites No. 5 Gavotte/J. S. Bach
	10 French Suites No. 5 Bourree/J. S. Bach
	11 French Suites No. 5 Loure/J. S. Bach
	12 French Suites No. 5 Gigue/J. S. Bach
	13 Piano Sonata In A minor, K. 310 Mov. 1/Mozart
	14 Piano Sonata In A minor, K. 310 Mov. 2/Mozart
	15 Piano Sonata In A minor, K. 310 Mov. 3/Mozart
3 PianoSoft Plus (Demo)	1 Nocturne in E flat
	2 Andante Cantabile
	3 Tchaikovsky - Piano Concerto in B flat minor, 2nd Movement
	4 Grieg Piano Concerto in A Minor Movement 3: Allegro Moderato Molto e Marcato
	5 William Tell Overture
	6 Danny Boy [Piano + AEM (Alt Sax)]
	7 Little brown jug [Piano + AEM (Brass Section) + XG (Drums, Bass)]
4 Piano Classics (Demo)	1 Invention No. 1/J. S. Bach
	2 Invention No. 8/J. S. Bach
	3 Gavotte/J. S. Bach
	4 Prelude (Wohltemperierte Klavier I No. 1)/J. S. Bach
	5 Menuett G dur BWV. Anh. 114/J. S. Bach
	6 Le Coucou/L-C. Daquin
	7 Piano Sonate No. 15 K. 545 1st mov./W. A. Mozart

アルバム名	曲名【詳細】
4 Piano Classics (Demo)	8 Turkish March/W. A. Mozart
	9 Menuett G dur/W. A. Mozart
	10 Little Serenade/J. Haydn
	11 Perpetuum mobile/C. M. v. Weber
	12 Ecossaise/L. v. Beethoven
	13 Fur Elise/L. v. Beethoven
	14 Marcia a lla Turca/L. v. Beethoven
	15 Piano Sonate op. 13 "Pathetique" 2nd mov./L. v. Beethoven
	16 Piano Sonate op. 27-2 "Mondschein" 1st mov./L. v. Beethoven
	17 Piano Sonate op. 49-2 1st mov./L. v. Beethoven
	18 Impromptu op. 90-2/F. P. Schubert
	19 Moments Musicaux op. 94-3/F. P. Schubert
	20 Fruhlingslied op. 62-2/J. L. F. Mendelssohn
	21 Jagerlied op. 19b-3/J. L. F. Mendelssohn
	22 Fantaisie-Impromptu/F. F. Chopin
	23 Prelude op. 28-15 "Raindrop"/F. F. Chopin
	24 Etude op. 10-5 "Black keys"/F. F. Chopin
	25 Etude op. 10-3 "Chanson de l'adieu"/F. F. Chopin
	26 Etude op. 10-12 "Revolutionary"/F. F. Chopin
	27 Valse op. 64-1 "Petit chien"/F. F. Chopin
	28 Valse op. 64-2/F. F. Chopin
	29 Valse op. 69-1 "L'adieu"/F. F. Chopin
	30 Nocturne op. 9-2/F. F. Chopin
	31 Traumerei/R. Schumann
	32 Frohlicher Landmann/R. Schumann
	33 La Priere d'une Vierge/T. Badarzewska
	34 Dolly's Dreaming and Awakening/T. Oesten
	35 Arabesque/J. F. Burgmuller
	36 Pastorale/J. F. Burgmuller
	37 La chevaleresque/J. F. Burgmuller
	38 Liebestraume Nr. 3/F. Liszt
	39 Blumenlied/G. Lange
	40 Barcarolle/P. I. Tchaikovsky
	41 Melody in F/A. Rubinstein
	42 Humoresque/A. Dvorak
	43 Tango (Espana)/I. Albeniz

アルバム名	曲名【詳細】
4 Piano Classics (Demo)	44 The Entertainer/S. Joplin
	45 Maple Leaf Rag/S. Joplin
	46 La Fille aux Cheveux de Lin/C. A. Debussy
	47 Arabesque 1/C. A. Debussy
	48 Clair de lune/C. A. Debussy
	49 Reverie/C. A. Debussy
	50 Golliwog's Cakewalk/C. A. Debussy
5 Ultimate Control (Demo)	1 Key Steps [Key position can be held in a wide range of positions, not simply ON or OFF.]
	2 Key Waves [High-speed accuracy, even to the point of hammers falling just short of strings.]
	3 Ultimate Dynamics [Any piece can be played with the softest touch.]
6 Sample PlayList	1 Clair de Lune/Debussy
	2 Etude op. 10-3 "Chanson de l'adieu"/F. F. Chopin
	3 Etude, Op. 2, No. 1/Scriabin
	4 French Suites No. 5 Gavotte/J. S. Bach
	5 Piano Sonate op. 13 "Pathetique" 2nd mov./L. v. Beethoven
	6 La fille aux cheveux de lin/Debussy
	7 Liebestraume Nr. 3/F. Liszt
	8 Impromptus Op. 90, No. 2/Schubert
	9 Tchaikovsky - Piano Concerto in B flat minor, 2nd Movement
	10 Danny Boy [Piano + AEM (Alt Sax)]
	11 Little brown jug [Piano + AEM (Brass Section) + XG (Drums, Bass)]
	12 Andante Cantabile

一般仕様

センサーユニット	キー部	非接触式光ファイバー／グレースケールシャッター方式、88 鍵対応 (鍵盤位置、打鍵速度、離鍵速度感知)
	ハンマー部	非接触式光ファイバー／グレースケールシャッター方式
	ペダル部	非接触式デジタル光学検出方式 (ペダル位置検出: ダンパーペダル、ソフトペダルの連続検出、ソステヌートペダルの ON/OFF 検出)
ドライブユニット	キー部	DSP サーボドライブシステム (超高感度磁気センサー内蔵ハイパワー・サーボ制御ソレノイド)
	ペダル部	DSP サーボドライブシステム (サーボ制御ソレノイド)
記憶媒体	内蔵ハードディスクドライブ	80 GB (プログラム領域を含む)
	対応ファイルフォーマット	スタンダード MIDI ファイル (SMF) FORMAT 0/1, E-SEQ
対応メディア	CD-ROM	音楽 CD (ISO 9600 対応)、データ CD (ISO 9660 Level1 対応)
	3.5 インチフロッピーディスク	MS-DOS 720 KB フォーマットの 2DD ディスク、MS-DOS 1.44 MB フォーマットの 2HD ディスク
	USB メモリー	すべての USB メモリの動作を保証するものではありません。
メディアセンター	ドライブ	CD ドライブ、フロッピーディスクドライブ
	寸法 (幅×高さ×奥行き)	405 × 257 × 73 mm
	重さ	3.3 kg
ポケットコントローラー	寸法 (幅×高さ×奥行き)	74 × 138 × 23 mm
	重さ	210 g (画面プロテクター、無線 LAN カードを含まず、充電式バッテリーを含む)
ピッチコントロール		A=440 Hz、-50 cent ~ +50 cent (1 cent 単位)
消音機能		ハンマーシャンクストッパー方式 (モータードライブ)
消音用音源 *	種類	AWM2 音源 / アーティキュレーション エlement モデリング Articulation Element Modeling (AEM) 音源
	最大同時発音数	64 音 (ステレオサンプリング 32 音) (90 MB 波形メモリー, 16 bit リニア) (AWM2 音源) / 6 音 Articulation Element Modeling (AEM 音源)
	ノーマルボイス	ピアノ (デジタルステレオサンプリング)、その他 42 音色

アンサンブル用音源*	種類	AWM2 音源
	最大同時発音数	32 音
	アンサンブルパート	16 パート
	音色配列フォーマット	XG, GM
	ノーマルボイス	676
	ドラムキット	21 キット
定格電源電圧・周波数		AC100 V, 50/60 Hz
定格消費電力		160 W
付属品		メディアセンター (1)、メディアセンター取付キット (1 セット)、ポケットコントローラー (PRC-100) (1)、CF 無線 LAN カード (2)、充電式バッテリー (EA-BL08) (1)、クレードル (1)、AC アダプター (EA-70) (1)、電源コード (1)、取扱説明書 (本書) (1)、ヘッドフォン (HPE-170) (1)

* ヘッドフォン使用時以外の内蔵電子音源再生には、アンプ内蔵スピーカー (別売り) などとの接続が必要です。

機能

再生機能	メディア選択	フロッピーディスク、CD、USB メディア、内蔵ハードディスクドライブ
	曲の整理	ソングライブラリー (PianoSoft Library, User Library, CD Library) (P.23 参照)
	最大同時打鍵数	32 キー
	音量調節	128 レベル
	リピート機能	ALL (現在のアルバム内の全ての曲)、RPT (現在の曲)、RND (現在のアルバム内の全ての曲をランダムに)
	プログラム機能	プレイリスト機能
	パートキャンセル機能	L (左) パート、R (右) パート、ペダルパート、アンサンブルパート
	テンポ調節機能	-50 ~ +20% (1%単位)
	移調機能	-24 ~ +24 (2 オクターブ) (半音単位)
	バランス調整機能	ピアノパート (電子ピアノ音)、アンサンブルパート (内蔵電子音源)、ソフトウェアの再生 (市販の CD)、マイクの入力の音量バランス調節
	ビデオ同期機能	(P.54 参照)
ピアノ再生機能	AEM 奏法	ベント、ジョイント、フォールダウン奏法
	ハーモニー	(P.39 参照)
	リバーブ	ホール 1、2、ルーム 1、2、3、ステージ 1、2、プレート (0 ~ 128 の範囲で深さ調節可能)
録音機能	上書き録音	(P.42 参照)
	アンサンブルパート録音	(P.44 参照)
	メトロノームモード録音	(P.46 参照)
	ビデオ同期録音	(P.52 参照)
その他の機能	ワンタッチボタン	(P.61 参照)

MIDI IMPLEMENTATION CHART

YAMAHA [Silent Ensemble Piano]
Model: XP

Date : 6-Jun-2005
Version : 1.19J

Function . . .		Transmitted	Recognized	Remarks
Basic	Default	1-16	1-16	Memorized
Channel	Changed	1-16	1-16	
Mode	Default	3	3	
	Message	×	3,4 (M=1) *3, *6	
	Altered	*****	×	
Note		0-127	0-127	
Number:	True voice	*****	0-127	
Velocity	Note ON	○ 9nH, V=1-127	○ V=1-127	
	Note OFF	○	○	
After	Key's	○ *8	○	
Touch	Ch's	×	○ *1, *3, *4	
Pitch Bend		×	○ 0-24 semi *1, *3, *4, *5	
Control Change	0,32	×	○ *1, *3, *4, *5	Bank Select
	1	×	○ *1, *3, *4, *5	Modulation
	5	×	○ *1, *3, *4	Portament Time
	7,11	×	○	
	10	×	○ *1, *3, *4, *5	Pan
	6,38	×	○ *3, *4	Data Entry
	64	○	○ *2, *3, *4, *5	Hold 1 (Sustain)
	65	×	○ *3, *4	Portament
	66	○ *7	○ *2, *3, *4	Sostenuto
	67	○	○ *2, *3, *4	Soft(Shift) Pedal
	71-74,84	×	○ *3, *4	
	91,93,94	×	○ *3	Effect Depth
	96-101	×	○ *1, *3, *4	
Program		○ 0-127	○ 0-127 *3, *4, *5	
Change:	True #	*****		
System Exclusive		○	○	
Common	: Song Pos	×	×	
	: Song Sel	×	×	
	: Tune	×	×	
System	: Clock	×	×	
Real time	: Commands	×	×	
Aux	: All Sound Off	○	○	
Messages	: Reset All Cntrl's	○	○	
	: Local ON/OFF	×	○	
	: All Notes OFF	○	○	
	: Active Sense	○	○	
	: Reset	×	×	
Notes	*1 = Received if switch is on. *2 = "Player Piano" can recognize. *3 = Tone for Ensemble (XG,GM) can recognize. *4 = Tone for Quiet (AWM2) can recognize. *5 = Tone for Quiet (AEM) can recognize. *6 = M is always treated as "1" regardless of its value. *7 = Transmit if this model has a Sostenuto Pedal *8 = Applying further pressure on the key does not output "key aftertouch" information. Instead, key position is transmitted as additional information.			

Mode 1 : OMNI ON. POLY

Mode 2 : OMNI ON. MONO

○ : Yes

Mode 3 : OMNI OFF. POLY

Mode 4 : OMNI OFF. MONO

×

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Copyright © 1989, 1991 Free Software Foundation, Inc.

59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Library General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter,

translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by

running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
 - a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
 - b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.
 - c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to

the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:
 - a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
 - b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,
 - c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.
6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.
7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999

Copyright © 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.

59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed. [This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.

To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the

library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the “Lesser” General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over

competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a “work based on the library” and a “work that uses the library”. The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called “this License”). Each licensee is addressed as “you”.

A “library” means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The “Library”, below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A “work based on the Library” means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a

work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term “modification”.)

“Source code” for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the

Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:
 - a) The modified work must itself be a software library.
 - b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
 - c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
 - d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

(For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply

to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a “work that uses the Library”. Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a “work that uses the Library” with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a “work that uses the library”. The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a “work that uses the Library” uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and accessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a “work that uses the Library” with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer’s own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

- a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for

the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable “work that uses the Library”, as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

- b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user’s computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.
- c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.
- d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.
- e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the “work that uses the Library” must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this

License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

- a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
 - b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.
8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.
 9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.
 10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.
 11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may

not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.
13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and “any later version”, you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software

Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY “AS IS” WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

NOTIFICATION

On December 23, 2002 Metrowerks Corporation, a wholly owned subsidiary of Motorola Inc., acquired certain assets of Embedix Inc., formerly Lineo Inc. As a result of the acquisition, the Embedix® and Embedix® Plus PDA™ brand products have now become Metrowerks Linux® and Metrowerks OpenPDA™ brand products. The Metrowerks Linux and Metrowerks

OpenPDA products are governed by the Metrowerks Software License Agreement below. If you have questions or would like more information on OpenPDA products and other Metrowerks solutions, please visit the following websites www.openpda.com and www.metrowerks.com

METROWERKS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT

THIS METROWERKS SOFTWARE LICENSE AGREEMENT ("LICENSE") IS AN AGREEMENT BETWEEN YOU AND METROWERKS CORPORATION ("METROWERKS"). METROWERKS IS WILLING TO LICENSE THE ENCLOSED SOFTWARE TO YOU ONLY UPON THE CONDITION THAT YOU ACCEPT ALL OF THE TERMS CONTAINED IN THIS LICENSE. PLEASE READ THIS LICENSE CAREFULLY BEFORE USING THE SOFTWARE, AS BY USING THE SOFTWARE YOU INDICATE THAT YOU AGREE TO BE BOUND BY THE TERMS OF THIS LICENSE. IF YOU DO NOT AGREE TO THE TERMS OF THIS LICENSE, METROWERKS IS UNWILLING TO LICENSE THE SOFTWARE TO YOU.

1. Grant of License. This software including application, demonstration, system and all other software accompanying this License, whether electronically distributed or distributed on CD-ROM or any other media (the "Software") and the related documentation are licensed to you by Metrowerks according to the terms of this License. This License allows you to use the Software on the product the Software is distributed with ("Product"). If you have purchased a concurrent uses license (i.e., Locating of Server License), you may install the Software on a common storage device that is accessible by multiple devices provided that you have a software mechanism that locks out any concurrent uses in excess of the number of licensed copies of the Software. One backup copy of the software may be made solely as a part of the routine backup activities of your company or business, you are not licensed to make additional copies. You may transfer to another party all your license rights in the Software and related documentation by transferring to that party both the original media on which the Software and related documentation were provided, the Product and a copy of this License, provided that the other party reads

and agrees to accept the terms and conditions of this License. Immediately upon transfer, you have no further rights to use or own copies of the Product, Software or related documentation and must destroy all copies in your possession or control. If this Software is an update, patch, error correction or upgrade to a prior version, then you must be licensed to use the prior version of the Software in order to exercise the license rights granted hereunder and you agree all previous licenses are hereby replaced by this license. If you are a corporation or other organization, you must designate one individual to have the rights provided herein. Certain components of the Software is licensed pursuant to the GNU General Public License Version 2. You may obtain a copy of the GPL General Public License at <http://www.fsf.org/copyleft/gpl.html>. Metrowerks will provide source code for the components of the Software licensed pursuant to the GNU General Public License. To obtain such source code, send email to support@openpda.com

2. Restrictions. The Software contains copyrighted material, trade secrets, and other proprietary material of Metrowerks and its licensors. You agree that in order to protect those proprietary materials, except as expressly permitted by applicable legislation, you will not decompile, reverse engineer, disassemble or otherwise reduce all or any part of the Software to human-readable form unless Metrowerks provided it to you in human-readable form. You may not modify, rent, lease, loan, distribute or create derivative works based upon the Software in whole or in part, except as expressly permitted in Section 3. If the Software is labeled as an academic version or is otherwise licensed to you for academic use, you may not use the Software for commercial product development, but you may use the Software to develop freeware or shareware within your academic community only. If

the Software licensed to you is part of the Discover Programming series or is labeled as a Learning Edition, Demo Version, Evaluation Edition or Lite version, you may not use the Software to develop any product for distribution, whether commercial, freeware, or shareware. No press releases or any other public announcements regarding this Software shall be made without the written consent of Metrowerks.

3. **Ownership.** The Software and documentation are licensed, not sold, to you for use only under the terms of this License, and Metrowerks and its Licensors reserve all rights not expressly granted to you in this License. You own the media on which the Software and documentation are recorded but Metrowerks and/or Metrowerks' licensors retain title to the Software and related documentation, and all intellectual property rights therein. Third Party Products which may accompany the Software may also be subject to their own licensing terms.
4. **Termination.** This License is effective until terminated. You may terminate this License at any time by destroying all copies of the Software and related documentation in your possession or control. This License will terminate immediately without notice from Metrowerks if you fail to comply with any provision of this License. Upon termination you must destroy all copies of the Software and related documentation in your possession or control.
5. **Export Law Assurances.** You agree and certify that neither the Software nor any other technical data received from Metrowerks, nor the direct product thereof, will be exported outside the United States except as authorized and as permitted by the laws and regulations of the United States. If the Software has been rightfully obtained by you outside of the United States, you agree that you will not re-export the Software nor any other technical data received from Metrowerks, nor the direct product thereof, except as permitted by the laws and regulations of the United States and the laws and regulations of the jurisdiction in which you obtained the Software.
6. **Government End Users.** If you are acquiring the Software and fonts on behalf of any unit or agency of the United States Government, the following provisions apply. The Licensed Software constitutes a "commercial item", as that term is defined at Federal Acquisition Regulation (FAR) 2.101 (MAY 2001), consisting of "commercial computer software" and "commercial computer software documentation", as such terms are used in FAR 12.212 (SEP 1995), and is provided to the U.S. Government only as

commercial software (with "Restricted Rights", if applicable). Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in this license agreement and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and (c) (JUN 1995), DFARS 227.7202-3(a) (JUN 1995), FAR 12.212 (a) (SEP 1995), FAR 52.227-19 (JUN 1987), or FAR 52.227-14 (ALT III) (JUN 1987), as applicable.

7. **Limited Warranty on Media.** Metrowerks warrants the media on which the Software is recorded to be free from defects in materials and workmanship under normal use for a period of ninety (90) days from the date of purchase as evidenced by a copy of the receipt. Metrowerks' entire liability and your exclusive remedy will be replacement of the media not meeting Metrowerks limited warranty returned to Metrowerks with a copy of the receipt. Metrowerks will have no responsibility to replace any media damaged by accident, abuse or misapplication. ANY IMPLIED WARRANTIES ON THE MEDIA, INCLUDING THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, ARE LIMITED IN DURATION TO NINETY (90) DAYS FROM THE DATE OF DELIVERY. THIS WARRANTY GIVES YOU SPECIFIC LEAGAL RIGHTS, AND YOU MAY ALSO HAVE OTHER RIGHTS WHICH VARY BY JURISDICTION.
8. **Disclaimer of Warranty.** THE SOFTWARE, RELATED DOCUMENTATION, THIRD PARTY PRODUCTS IF ANY, AND ANY APPLICATIONS CREATED WITH THE SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS" AND WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND. YOU EXPRESSLY ACKNOWLEDGE AND AGREE THAT USE OF THE SOFTWARE AND RELATED DOCUMENTATION IS AT YOUR SOLE RISK. SHOULD THE SOFTWARE OR RELATED DOCUMENTATION PROVE DEFECTIVE, YOU (AND NOT METROWERKS OR ANY METROWERKS REPRESENTATIVE) ASSUME THE ENTIRE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION. METROWERKS AND METROWERKS' LICENSORS (FOR THE PURPOSES OF THIS SECTION 9. METROWERKS AND METROWERKS' LICENSORS SHALL BE COLLECTIVELY REFERRED TO AS "METROWERKS") EXPRESSLY DISCLAIM ALL OTHER WARRANTIES WITH RESPECT TO THE SOFTWARE AND RELATED DOCUMENTATION, WHETHER SUCH

WARRANTIES ARE EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. WITHOUT LIMITING THE GENERALITY OF THE FOREGOING, METROWERKS MAKES NO WARRANTY OR REPRESENTATION THAT THE FUNCTIONS CONTAINED IN THE SOFTWARE WILL MEET YOUR REQUIREMENTS, THAT THE OPERATION OF THE SOFTWARE WILL BE UNINTERRUPTED OR ERROR-FREE, THAT DEFECTS IN THE SOFTWARE WILL BE CORRECTED, NOR WITH RESPECT TO THE CORRECTNESS, ACCURACY, OR RELIABILITY OF THE SOFTWARE AND RELATED DOCUMENTATION. METROWERKS DISCLAIMS ANY AND ALL EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES OF ANY KIND, AND YOU EXPRESSLY ASSUME ALL LIABILITIES AND RISKS, FOR ANYONE'S USE OR OPERATION OF ANY APPLICATION PROGRAMS YOU MAY CREATE WITH THE SOFTWARE. YOU ACKNOWLEDGE AND AGREE THAT THE SOFTWARE HAS NOT BEEN DESIGNED, TESTED, MANUFACTURED, OR INTENDED FOR USE IN DEVELOPING APPLICATIONS WHERE THE FAILURE, MALFUNCTION, OR ANY INACCURACY OF THE APPLICATION CARRIES A RISK OF DEATH, SERIOUS BODILY INJURY, OR DAMAGE TO TANGIBLE PROPERTY, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, USE IN FACTORY CONTROLS SYSTEMS, MEDICAL DEVICES OR FACILITIES, UNCLEAR FACILITIES, AIRCRAFT OR AUTOMOBILE NAVIGATION OR COMMUNICATION, EMERGENCY SYSTEMS, OR OTHER APPLICATIONS WITH A SIMILAR DEGREE OF POTENTIAL HAZARD. NO ORAL OR WRITTEN INFORMATION OR ADVICE GIVEN BY METROWERKS OR ANY OF ITS EMPLOYEES, REPRESENTATIVES, OR RESELLERS SHALL CREATE ANY WARRANTY IN ADDITION TO THOSE GIVEN HEREIN. SOME JURISDICTIONS DO NOT ALLOW THE EXCLUSION OF IMPLIED WARRANTIES, SO THE ABOVE EXCLUSION MAY NOT APPLY TO YOU.

9. Limitation of Liability. UNDER NO CIRCUMSTANCES SHALL METROWERKS BE LIABLE FOR ANY INCIDENTAL, SPECIAL,

PUNITIVE OR CONSEQUENTIAL DAMAGES THAT RESULT FROM THE USE OR INABILITY TO USE THE SOFTWARE OR RELATED DOCUMENTATION UNDER ANY THEORY, INCLUDING CONTRACT, TORT, OR NEGLIGENCE, EVEN IF METROWERKS HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. SOME JURISDICTIONS DO NOT ALLOW THE LIMITATION OR EXCLUSION OF LIABILITY FOR INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES SO THE ABOVE LIMITATION OR EXCLUSION MAY NOT APPLY TO YOU.

IN NO EVENT SHALL METROWERKS' TOTAL LIABILITY TO YOU FOR ALL DAMAGES, LOSSES, AND CAUSES OF ACTION (WHETHER IN CONTRACT, TORT (INCLUDING NEGLIGENCE) OR OTHERWISE) EXCEED THE AMOUNT PAID BY YOU FOR THE SPECIFIC LICENSE OF THE SOFTWARE AND RELATED DOCUMENTATION TO WHICH THE LIABILITY IS RELATED.

10. Controlling Law and Severability. THIS LICENSE SHALL BE GOVERNED BY AND CONSTRUED IN ACCORDANCE WITH THE LAWS OF THE UNITED STATES AND THE STATE OF TEXAS, EXCEPT FOR ITS CONFLICT OF LAWS PRINCIPLES. The United Nations Convention on Contracts for the International Sale of Goods is hereby excluded in its entirety and does not apply to this agreement. If for any reason a court of competent jurisdiction finds any provision of this License, or portion thereof, to be unenforceable, that provision of the License shall be enforced to the maximum extent permissible so as to effect the intent of the parties, and the remainder of this License shall continue in full force and effect.
11. Complete Agreement. This License constitutes the entire agreement between the parties with respect to the use of the Software and related documentation and supersedes all prior or contemporaneous understandings or agreements, written or oral, regarding such subject matter. No amendment to or modification of this License will be binding unless in writing and signed by an authorized officer of Metrowerks.

Should you have any questions or comments concerning this License, please do not hesitate to contact Metrowerks Corporation at 9801 Metric Boulevard, Austin, TX,

78758, USA. attn: Warranty Information or by email:
info@metrowerks.com

Embedix is a trademark of Metrowerks Corporation.

Metrowerks United States
9801 Metric Blvd.
Austin, Texas 78758 USA
Phone: +1.512.997.4700
Fax: +1.512.997.4901
E-mail: info@metrowerks.com

Metrowerks Europe
Riehenring 175, CH-4058
Basel, Switzerland
Phone: +41.61.690.7500
Fax: +41.61.690.7501
E-mail: info_europe@metrowerks.com

Metrowerks Japan
Shibuya Mitsuba Bldg. 5F
Udagawa-cho 20-11
Shibuya-ku Tokyo 150-0042 Japan
Phone: +81-3-3780-6091
Fax: +81-3-3780-6092
E-mail: asia-sales@metrowerks.com

© Copyright. 2003. Metrowerks Corp. All rights reserved. Metrowerks, the Metorwerks logo, CodeWarrior and OpenPDA are trademarks or registered trademarks of Metrowerks Corp. in the U.S. and/or other countries. Metrowerks is a Motorola company. All other tradenames and trademarks are the property of their respective owners and are hereby recognized. Printed in U.S.A.

ソースコード配布について

工場出荷時より 3 年間は、製品のソースコードのうち
GNU (ジェネラル パブリック ライセンス General Public License) に基づいてライセンス
供与された部分については、ソースコードを配布させていただきます。以下の住所にお問い合わせください。
〒 436-0038 静岡県掛川市領家 1480
ヤマハ（株）ピアノ事業部営業部

ソースコードの配布自体は無償ですが、ソースコードの送料につきましては御負担頂きます。

- 弊社（または弊社認定の関係者）以外の第三者による、この製品のソフトウェアに対する変更や追加、削除などによって発生したいかなる損害に対しても、弊社は一切責任を負いません。
- 弊社により一般に公開されたソースコードの再利用は保証されておりません。ソースコードに関して弊社は一切責任を負いません。
- また、ソースコードは以下の URL でも配布しております。
http://www.yamaha.co.jp/download/sep_xp/

オンラインドキュメントについて

追加のライセンス情報はサイレントアンサンブルピアノのハードディスクに収録されています。I/O センターの LAN 端子をネットワークルーターに接続し、サイレントアンサンブルピアノのハードディスクの ドキュメント Document フォルダー内のそれぞれの文書を開いてください。

保証とサービスについて

本機の保証期間は、保証書に記入されたご購入の日付から1ヶ年です（現金、ローン、月賦などによる区別はございません）。また保証は、日本国内にてのみ有効いたします。

保証書

保証書をお受け取りの時は、お客さまのご住所、お名前、お買上げの年月日、販売店名などを必ずご確認ください。無記名の場合は無効となりますので、くれぐれもご注意ください（保証書はピアノ本体と共通です）。

保証書は大切に保管しましょう。

保証書は弊社が、本機をご購入いただいたお客さまに、保証規定に則りご購入の日から向こう1ヶ年の無償サービスをお約束申し上げるものですが、万一紛失なさいますと保証期間中であっても実費を頂戴させていただくこととなります。いつでもご提示いただけますように、十分ご配慮の上で保管してください。また、後々のサービスに際しての機種の判別やサービス依頼店の確認などにも役立ちます。保証期間が切れましても、お捨てにならないでください。

保証期間中のサービス

保証期間中に万一故障が発生した場合、お買上げ店にご連絡いただきますと、技術者が修理・調整致します。この際、必ず保証書をご提示ください。保証書なき場合には、サービス料金をいただく場合もあります。またお買上げ店より遠方に移転される場合は、事前にお買上げ店あるいはヤマハにご連絡ください。移転先におけるサービス担当店をご紹介申し上げますと同時に、引き続き保証期間中のサービスを責任をもって行うよう手続き致します。

満1ヶ年の保証期間を過ぎますとサービスは有料となりますが、引き続き責任をもってサービスをさせていただきます。なお、補修性能部品の保有期間は最低8年となっています。そのほかご不明な点などございましたら、下記のヤマハサービス網までお問い合わせください。

本機についてのお問い合わせは、もよりのヤマハピアノ特約店／下記のヤマハへ。

◇修理のご依頼/修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

◆修理のご依頼/修理についてのご相談窓口

ヤマハ電気音響製品修理受付センター FAX (053) 463-1127
受付 月曜～金曜日 9:00～19:00 土曜日 9:00～17:30
（日曜、祝祭日および弊社休業日を除く）

ナビダイヤル
（全国共通番号）



0570-012-808

◆修理品お持込み窓口

受付 月曜～金曜日 9:00～17:45
（土曜、日曜、祝祭日および弊社休業日を除く）

* サービスセンターおよびサービスステーションへの電話は、電気音響製品修理受付センターでお受けします。

北海道サービスステーション 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1-1-50
FAX (011) 512-6109

首都圏サービスセンター 〒143-0006 東京都大田区平和島2-1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03) 5762-2125

浜松サービスステーション 〒435-0016 浜松市東区和田町200
ヤマハ（株）和田工場2F
FAX (053) 462-9244

名古屋サービスセンター 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2-1-2
ヤマハ（株）名古屋流通センター3F
FAX (052) 652-0043

大阪サービスセンター 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06) 6330-5535

九州サービスステーション 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
FAX (092) 472-2137

◇操作/取扱いについてのご相談窓口

ピアノインフォメーションセンター 営業時間 月～金 10:00～18:00
土 10:00～17:00
（祝日およびセンター指定休日を除く）
フリーダイヤル 0120-084808

◇その他、本機全般についてのご相談窓口

ヤマハ株式会社

ピアノ事業部 営業部 〒436-0038 静岡県掛川市領家1480
TEL.0537-24-8213

国内楽器営業本部 ピアノ企画部

ピアノ企画グループ 〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL.03-5488-5442

※ 名称、住所、電話番号などは変更になる場合があります



SILENT ENSEMBLE PIANO
プロフェッショナルモデル**XP**

ヤマハ株式会社

ピアノ事業部ピアノ営業部

〒436-0038 静岡県掛川市領家1480

TEL.(0537)24-8213

PPT913